

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 196

南 方 遺 跡

岡山県総合福祉・ボランティア・NPO
会館等整備事業に伴う発掘調査

2 0 0 6

岡 山 県 教 育 委 員 会



1 A区完掘状況（北から）



2 土壇5（西から）

卷頭図版 2



1 弥生時代中期出土土器



2 古墳時代前期出土土器

序

本報告書には、岡山市南方に所在する南方遺跡の発掘調査結果を収載しました。

南方遺跡は、岡山県の三大河川の一つである旭川の下流域に形成された微高地上に位置し、津島遺跡、百間川遺跡群などとならぶ、岡山平野を代表する弥生時代を中心とした遺跡であります。また、その出土土器は、古くから中部瀬戸内地域の弥生時代中期の標準編年資料として、全国的にも知られております。

このたび、旧国立岡山病院跡地に存する建物を活用し、PFI法に基づいて岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館等を整備することに伴い、遺跡が存在する旧本館の周囲に基礎工事を行うことが計画されました。岡山県教育委員会では、この遺跡の取り扱いについて関係機関と協議を重ねてまいりましたが、やむなく記録保存の措置を講ずることになりました。

発掘調査は、平成16年度に実施いたしました。調査の結果、弥生時代中期と古墳時代前期の遺構や遺物が良好な状態でまとまって確認されました。これらの調査成果を収めた本書が学術研究に寄与できるだけでなく、文化財の保護・保存のために活用され、また地域の歴史を学ぶ上で広く役立つならば幸いに存じます。

発掘調査の実施、報告書の作成にあたりましては、株式会社竹中工務店、岡山県保健福祉部保健福祉課、地元の方々をはじめ関係各位から多大な御指導と御協力を賜りました。末筆ながら厚くお礼申し上げます。

平成18年2月

岡山県古代吉備文化財センター

所長 松本和男

例 言

1 本書は、岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館等整備事業に伴い、岡山県教育委員会が岡山県保健福祉部保健福祉課の依頼を受け、岡山県古代吉備文化財センターが平成16年度に発掘調査を実施した南方遺跡の発掘調査報告書である。

岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館等整備事業はPFI事業で、岡山県の施設整備事業であるが、民間事業者である株式会社竹中工務店が事業主体となって設計・建設を行うことから、発掘調査および報告書整理・刊行事業は岡山県が、株式会社竹中工務店と委託契約を締結して実施した。

2 調査地は周知の遺跡「南方遺跡」の範囲内に位置し、岡山市南方2丁目13-1に所在する。

3 確認調査は、平成15年度に岡山県教育庁文化財課職員尾上元規が行い、発掘調査は平成16年度に岡山県古代吉備文化財センター職員澤山孝之が担当して実施した。調査面積は確認調査が27㎡、発掘調査が190㎡である。

4 報告書の作成は、平成17年度に岡山県古代吉備文化財センターで実施し、澤山が担当した。

5 報告書の執筆は、第2章第1節を岡山県教育庁文化財課職員平井泰男、その他を澤山が担当し、全体の編集は澤山が行った。

6 報告書に係る遺物のうち、一部について鑑定あるいは分析を次の諸氏および機関に依頼し、有益な御教示をいただいた。記して厚くお礼申し上げる。

種実遺体分析 パリノ・サーヴェイ株式会社

石材鑑定 鈴木茂之（岡山大学）

獣骨鑑定 富岡直人（岡山理科大学）

7 遺物写真については、江尻泰幸氏の協力と援助を得た。

8 本書に関連する出土遺物ならびに図面・写真・マイクロフィルム等は、岡山県古代吉備文化財センター（岡山市西花尻1325-3）に保管している。

凡 例

- 1 報告書の全体図および遺構図の北方位は、平面直角座標第Ⅴ系（日本測地系）の座標北であり、調査地における磁北は西偏7°6′を測る。なお、各遺構配置図は、座標値下3桁のみ示した。また、報告書抄録に記載した経緯度は世界測地系に準拠している。高度はすべて海拔高である。
- 2 報告書の遺構、遺物実測図の縮尺率は次のとおり統一しており、各図に縮尺率を明記している。
遺構 竪穴住居断面：1/60 井戸・土壇・溝断面・柱穴：1/30
遺物 土器：1/4 土製品：1/3 石器：1/2 1/3 木器：1/3 金属器：1/3
- 3 報告書の遺構配置図に示す以下の遺構名は、原則として次のとおり略称を用いた。
竪穴住居：住 井戸：井 土壇：土 柱穴：柱
- 4 遺構番号は、全体にわたって遺構の種類ごとに1から通し番号を付けた。
- 5 遺物番号のうち土器以外のものについては、その材質を示すため、番号の頭に次に示す略号を付した。なお、遺物番号は種類ごとに通し番号を用いた。
土製品：C 石器：S 木器：W 金属器：M
- 6 土器実測図のうち中軸線の左右に白抜きのあるものは、口径の推定が困難なものである。
- 7 土層断面図に使用した土色は、基本的に『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）を参考にした。
- 8 報告書第2図に掲載した地図は、国土地理院発行1/25,000地形図の岡山北部・岡山南部を複製し、加筆したものである。
- 9 報告書の時代・時期区分は一般的な政治史区分に準拠し、それを補うために世紀などを併用している。なお、弥生時代から古墳時代前期の遺構・遺物の時期表記については、津寺遺跡発掘調査報告書で用いた区分に準拠した⁽¹⁾。以下にその編年対比表を示す。

第1表 編年対比表

| | | 津 寺 (木 書) | 上東・川入 | 白 岡 川 | 雄 町 | | 高 橋 編 年 | |
|-------|---------|-----------|--------|-----------------|-----------------------|--------------------------------|-----------------------|------------------------------|
| 弥生時代 | 前 期 | 弥・前・Ⅰ | | 白・前・Ⅰ | | 津 島 | I 期 { a b c | |
| | | 弥・前・Ⅱ | | 白・前・Ⅱ | 雄 町 1 | 門 田 | II 期 { a b c | |
| | | 弥・前・Ⅲ | | 白・前・Ⅲ | 雄 町 2 | | | |
| | 中 期 | 弥・中・Ⅰ | | 白・中・Ⅰ | 高 山 雄 町 3 | 南 方 | III 期 { a b | |
| | | 弥・中・Ⅱ | | 白・中・Ⅱ | 船 山 5 孤 池 雄 町 4 | 菰 池 | IV 期 { a b c | |
| | | 弥・中・Ⅲ | | 白・中・Ⅲ | 前 山 東 雄 町 5 | 前 山 II | V 期 { a b | |
| | 後 期 | 弥・後・Ⅰ | | 鬼川市 0 鬼川市 I | 白・後・Ⅰ | 雄 町 6 雄 町 7 | 上 東 | VII 期 { a b c d |
| | | 弥・後・Ⅱ | | 鬼川市 II | 白・後・Ⅱ | 雄 町 8 雄 町 9 | | |
| | | 弥・後・Ⅲ | | 鬼川市 III | 白・後・Ⅲ | 雄 町 10 | | |
| | | 弥・後・Ⅳ | | 才ノ町 I 才ノ町 II | 白・後・Ⅳ | 雄 町 11 | グランド上層 | VIII 期 { a b c d |
| | | 弥・後・Ⅴ | | 下田所 | 白・古・Ⅰ | 雄 町 12 | 酒 津 | |
| | | 古墳時代 | | 前 期 | 古・前・Ⅰ | 白・古・Ⅰ | 雄 町 13 | 上泊六層 |
| 古・前・Ⅱ | 白・古・Ⅱ | | 雄 町 14 | | | | | |
| 古・前・Ⅲ | 川入・大溝上層 | | 白・古・Ⅲ | | 雄 町 15 | X 期 { a b c d e | | |

註

(1) 「津寺遺跡2」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』98 岡山県教育委員会 1995

目次

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

| | |
|------------------------|----|
| 第1章 地理的・歴史的環境 | 1 |
| 第2章 発掘調査および報告書作成の経緯と経過 | 3 |
| 第1節 調査にいたる経緯 | 3 |
| 第2節 調査の経過 | 4 |
| 第3節 日誌抄 | 5 |
| 第4節 報告書作成の経過 | 5 |
| 第5節 調査および報告書作成の体制 | 6 |
| 第3章 発掘調査の概要 | 7 |
| 第1節 調査区の概要 | 7 |
| 第2節 調査区の遺構と遺物 | 7 |
| 1 A区 | 8 |
| 2 B区 | 29 |
| 3 C区 | 31 |
| 4 D・E区 | 33 |
| 5 F区 | 33 |
| 6 G区 | 36 |
| 7 H区 | 39 |
| 8 I区 | 42 |
| 9 J区 | 46 |
| 10 K区 | 50 |
| 第4章 まとめ | 51 |
| 遺構一覧表 | 58 |
| 遺物観察表 | 59 |
| 遺構名称新旧対照表 | 64 |

図版

報告書抄録

奥付

図目次

| | | |
|------|----------------------------------|----|
| 第1図 | 遺跡の位置 (1/2,000,000) …………… | 1 |
| 第2図 | 調査区周辺の遺跡と主要遺跡分布 (1/25,000) 2 | |
| 第3図 | 確認トレンチ配置 (1/1,500) …………… | 3 |
| 第4図 | T1・T2 基本土層断面 (1/60) …………… | 4 |
| 第5図 | 調査区配置 (1/1,500) …………… | 7 |
| 第6図 | A区遺構配置および西壁断面 (1/100) …………… | 8 |
| 第7図 | 土壌1 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/2) …………… | 9 |
| 第8図 | 土壌2 (1/30)・出土遺物 (1/4) …………… | 10 |
| 第9図 | 土壌3 (1/30)・出土遺物 (1/4) …………… | 10 |
| 第10図 | 土壌4 (1/30)・出土遺物① (1/4) …………… | 11 |
| 第11図 | 土壌4出土遺物② (1/4) …………… | 12 |
| 第12図 | 土壌5 (1/30)・出土遺物① (1/4) …………… | 13 |
| 第13図 | 土壌5出土遺物② (1/4) …………… | 14 |
| 第14図 | 土壌5出土遺物③ (1/4・1/3) …………… | 15 |
| 第15図 | 土壌6 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/3) …………… | 16 |
| 第16図 | 土壌7 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/3) …………… | 17 |
| 第17図 | 土壌8 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/3) …………… | 18 |
| 第18図 | 土壌9 (1/30)・出土遺物 (1/3) …………… | 18 |
| 第19図 | 土壌10 (1/30)・出土遺物 (1/4) …………… | 18 |
| 第20図 | 土壌11 (1/30)・出土遺物 (1/3) …………… | 19 |
| 第21図 | 土壌12 (1/30)・出土遺物 (1/4) …………… | 19 |
| 第22図 | 土壌13 (1/30) …………… | 20 |
| 第23図 | 土壌14 (1/30) …………… | 20 |
| 第24図 | 土壌15 (1/30) …………… | 21 |
| 第25図 | 土壌16 (1/30) …………… | 21 |
| 第26図 | 土壌16出土遺物① (1/4) …………… | 22 |
| 第27図 | 土壌16出土遺物② (1/4) …………… | 23 |
| 第28図 | 土壌17 (1/30)・出土遺物 (1/3) …………… | 24 |
| 第29図 | 土壌18 (1/30)・出土遺物 (1/4) …………… | 24 |
| 第30図 | 土壌19 (1/30)・出土遺物① (1/4) …………… | 25 |
| 第31図 | 土壌19出土遺物② (1/4・1/3) …………… | 26 |
| 第32図 | 土壌20 (1/30)・出土遺物 (1/2) …………… | 27 |
| 第33図 | 土壌21 (1/30) …………… | 27 |
| 第34図 | 溝1 (1/30) …………… | 27 |
| 第35図 | 溝2 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/3) …………… | 27 |
| 第36図 | 柱穴1・2出土遺物 (1/4) …………… | 27 |
| 第37図 | 遺構に伴わない遺物 (1/4・1/2・1/3) …………… | 28 |
| 第38図 | B区遺構配置および西壁断面 (1/60) …………… | 29 |
| 第39図 | 土壌22 (1/30)・出土遺物 (1/4) …………… | 29 |
| 第40図 | 土壌23 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/2) …………… | 29 |
| 第41図 | 土壌24 (1/30)・出土遺物 (1/4) …………… | 30 |
| 第42図 | 柱穴4・5 (1/30)・出土遺物 (1/2) …………… | 30 |
| 第43図 | 遺構に伴わない遺物 (1/4) …………… | 30 |
| 第44図 | C区遺構配置および東壁断面 (1/60) …………… | 31 |
| 第45図 | 土壌25 (1/30)・出土遺物 (1/4) …………… | 31 |
| 第46図 | 土壌26・27 (1/30)・出土遺物 (1/4) …………… | 32 |
| 第47図 | 土壌28 (1/30) …………… | 32 |
| 第48図 | 遺構に伴わない遺物 (1/2) …………… | 32 |
| 第49図 | D区遺構配置および西壁断面 (1/60) …………… | 33 |
| 第50図 | F区遺構配置および東壁断面 (1/60) …………… | 33 |
| 第51図 | 竪穴住居1 (1/60)・出土遺物 (1/4) …………… | 34 |
| 第52図 | 竪穴住居2 (1/60)・出土遺物 (1/4・1/3) …… | 34 |
| 第53図 | 土壌29 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/3) …………… | 35 |
| 第54図 | 土壌30 (1/30)・出土遺物 (1/4) …………… | 35 |
| 第55図 | 溝3 (1/30) …………… | 35 |
| 第56図 | 遺構に伴わない遺物 (1/3・1/2) …………… | 35 |
| 第57図 | G区遺構配置および東壁断面 (1/60) …………… | 36 |
| 第58図 | 土壌31 (1/30) …………… | 36 |
| 第59図 | 土壌32・33 (1/30)・土壌32出土遺物 (1/4) …… | 37 |
| 第60図 | 土壌34・35 (1/30)・土壌35出土遺物 (1/3) …… | 38 |
| 第61図 | 土壌36 (1/30) …………… | 38 |
| 第62図 | 遺構に伴わない遺物 (1/2) …………… | 38 |
| 第63図 | H区遺構配置および東壁断面 (1/60) …………… | 39 |
| 第64図 | 土壌37 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/2) …………… | 39 |
| 第65図 | 土壌38 (1/30) …………… | 40 |
| 第66図 | 土壌39 (1/30) …………… | 40 |
| 第67図 | 土壌40 (1/30) …………… | 40 |
| 第68図 | 土壌41 (1/30) …………… | 41 |

| | | | | | |
|------|-------------------------------|----|------|--|----|
| 第69図 | 土壙42 (1/30)・出土遺物 (1/2) …………… | 41 | 第82図 | 遺構に伴わない遺物 (1/4・1/2) …………… | 45 |
| 第70図 | 土壙43 (1/30)・出土遺物 (1/4) …………… | 41 | 第83図 | J区遺構配置および東壁断面 (1/60) …………… | 46 |
| 第71図 | 土壙44 (1/30)・出土遺物 (1/4) …………… | 41 | 第84図 | 竪穴住居3 (1/60) …………… | 46 |
| 第72図 | 遺構に伴わない遺物 (1/4) …………… | 41 | 第85図 | 竪穴住居3出土遺物 (1/4) …………… | 47 |
| 第73図 | I区遺構配置および東壁断面 (1/60) …………… | 42 | 第86図 | 井戸1 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/3) …………… | 47 |
| 第74図 | 土壙45 (1/30) …………… | 42 | 第87図 | 土壙51・52 (1/30)・土壙51出土遺物 (1/4・1/2) …………… | 48 |
| 第75図 | 土壙46 (1/30)・出土遺物 (1/4) …………… | 42 | 第88図 | 土壙53 (1/30)・出土遺物 (1/4) …………… | 49 |
| 第76図 | 土壙47 (1/30)・出土遺物① (1/4) …………… | 43 | 第89図 | 土壙54 (1/30)・出土遺物 (1/4) …………… | 49 |
| 第77図 | 土壙47出土遺物② (1/4・1/2・1/3) …………… | 44 | 第90図 | 遺構に伴わない遺物 (1/4・1/2) …………… | 50 |
| 第78図 | 土壙48 (1/30)・出土遺物 (1/4) …………… | 44 | 第91図 | K区遺構配置および東壁断面 (1/60) …………… | 50 |
| 第79図 | 土壙49 (1/30)・出土遺物 (1/4) …………… | 45 | 第92図 | 竪穴住居4 (1/60)・出土遺物 (1/4) …………… | 50 |
| 第80図 | 土壙50 (1/30)・出土遺物 (1/4) …………… | 45 | 第93図 | 竪穴住居5出土遺物 (1/4) …………… | 50 |
| 第81図 | 柱穴6出土遺物 (1/2) …………… | 45 | | | |

巻頭図版目次

| | |
|----------|--------------|
| 巻頭図版 1—1 | A区完掘状況 (北から) |
| 2 | 土壙5 (西から) |

| | |
|----------|------------|
| 巻頭図版 2—1 | 弥生時代中期出土土器 |
| 2 | 古墳時代前期出土土器 |

図版目次

| | |
|--------|------------------|
| 図版 1—1 | A～D区調査前全景 (北西から) |
| 2 | E～K区調査前全景 (北西から) |
| 3 | B区完掘状況 (南から) |
| 図版 2—1 | C区完掘状況 (南から) |
| 2 | D区完掘状況 (南から) |
| 3 | F区完掘状況 (南から) |
| 図版 3—1 | G区完掘状況 (南から) |
| 2 | H区完掘状況 (南から) |
| 3 | I区完掘状況 (南から) |
| 図版 4—1 | J区完掘状況 (南から) |
| 2 | K区完掘状況 (南から) |
| 3 | 土壙1 (東から) |

| | |
|--------|---|
| 図版 5—1 | 土壙19土器出土状況 (南から) |
| 2 | 土壙43・44 (東から) |
| 3 | 土壙47 (北から) |
| 図版 6 | 土壙4出土土器 |
| 図版 7 | 土壙5出土土器① |
| 図版 8 | 土壙5出土土器②、土壙16出土土器① |
| 図版 9 | 土壙16出土土器② |
| 図版10 | 土壙19出土土器 |
| 図版11 | 土壙43出土土器、土壙47出土土器、柱穴 1出土土器、出土土製品・石器・木器 |
| 図版12 | 土壙19出土土壺頸部、土壙5・16出土甕 タタキ技法 |

表目次

| | | |
|------------------------------|----------------|----|
| 第1表 編年対比表 | 第8表 溝一覧表 | 59 |
| 第2表 埋蔵文化財発掘の届出（法第57条の2：当時） | 第9表 土器観察表 | 59 |
| 5 | 第10表 土製品観察表 | 62 |
| 第3表 埋蔵文化財発掘調査の報告（法第58条の2：当時） | 第11表 石器観察表 | 63 |
| 5 | 第12表 木器観察表 | 63 |
| 第4表 埋蔵文化財発見通知（法第59条：当時） | 第13表 金属器観察表 | 63 |
| 5 | 第14表 獣骨観察表 | 64 |
| 第5表 竪穴住居一覧表 | 第15表 遺構名称新旧対照表 | 64 |
| 58 | | |
| 第6表 井戸一覧表 | | |
| 58 | | |
| 第7表 土壌一覧表 | | |
| 58 | | |

写真目次

| | |
|-----------------|----|
| 写真1 礫錐と環状石斧の組合せ | 53 |
|-----------------|----|

第1章 地理的・歴史的環境

南方遺跡は、岡山県三大河川の一つである旭川の西岸にあたる沖積平野に立地する。遺跡が位置する岡山平野の北部は、現在では平坦な地形であるが、かつては旭川の旧河道から派生した河川が、網目状に分流して、その間に大小様々な規模の微高地が点在するといった、複雑な地形であったと思われる。その微高地の多くは、河川の流路に規制されて、北東から南西に細長く伸びた島状を呈していたと考えられ、南方遺跡もこうした状況から誕生した微高地に展開した集落の一つであると思われる。

南方遺跡の周辺をみると、現在までのところ旧石器時代の遺跡は確認されていない。縄文時代に入ると、半田山南麓に分布が認められる。朝寝鼻貝塚では、縄文前期の土層からイネのプラントオパールが検出されており、稲作の開始との関係で注目される。時期が下って縄文後期になると、津島岡大遺跡で炉や貯蔵穴などが確認されており、また、縄文晩期には津島遺跡で遺構、遺物がわずかながら検出されている。こうした状況から、これらの時期に至って、平野部に定住が始まったと思われる。

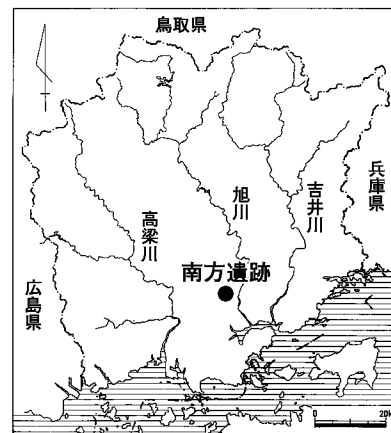
弥生時代に入ると、微高地縁辺の低位部で稲作が開始される。津島江道遺跡では縄文晩期末（弥生早期）とされる水田が報告されている。弥生前期では水田が拡大をみせ、津島遺跡のほか、津島岡大遺跡や北方下沼・地蔵・横田遺跡などに拓かれる。集落は津島遺跡で竪穴住居、掘立柱建物などが検出され、遺物も多数出土しているが、他の遺跡では水田経営の母体をなす集落の様相が明らかでない。

弥生中期になると、南方遺跡、上伊福九坪遺跡で多くの遺構、遺物が出土し、集落の拡大が認められる。南方遺跡では竪穴住居や土壙墓などが検出されたほか、河道から精巧に加工された多量の木製品や、石器製作を窺わせる石器の未製品が出土した。津島遺跡は中葉から後葉の集落が数か所確認されている。水田は北方中溝遺跡や津島遺跡で検出されているが、前期ほどの広がりは見られない。

弥生後期になると、沖積作用により微高地の面積は拡大し、集落も一層の発展をみせる。津島遺跡では、河道内から建築部材などの大量の木製品が出土している。津島江道遺跡では、多くの竪穴住居から獣骨や骨製品が出土している。南方遺跡では、集落周辺に形成された墓域と考えられる土器棺や土壙墓や多数の袋状土壙群も確認されている。

弥生後期末から古墳時代に入ると、半田山に都月坂2号墳丘墓が築かれ、以降、七つ坑1号墳、都月坂1号墳、京山に津倉古墳などの前期古墳が続く。都月坂1号墳は「都月型」と命名される最古段階の埴輪が出土している。平野部では4世紀末から5世紀前半頃と推定される神宮寺山古墳が特筆される。中期古墳としては一本松古墳などがあるが少なく、後期古墳は周辺で築かれなくなる。

古代以降は広範囲な水田層の存在から、平野部の水田化が進展したものと考えられる。津島遺跡などの周辺では、条里関連遺構と思われる溝が確認されており、津島江道遺跡では官衙的施設が存在が想定されている。この状況は、近世に至り、岡山城とその城下町が建設された後も変わることはなか

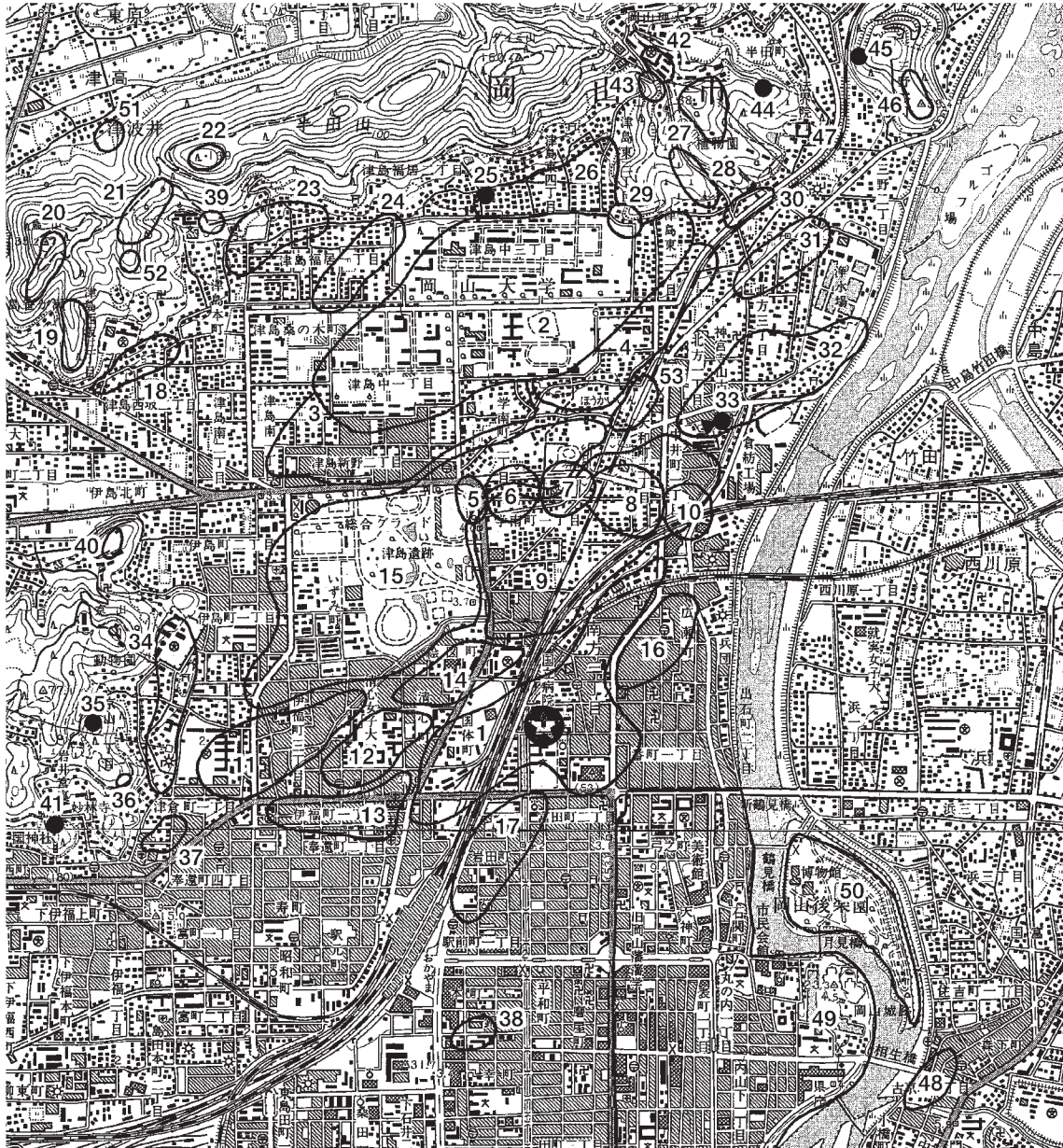


第1図 遺跡の位置 (1/2,000,000)

ったと考えられる。

参考文献

「津島遺跡6」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』190 岡山県教育委員会 2005



1. 南方遺跡 (星印は調査地点) 2. 津島岡大遺跡 3. 津島新野遺跡 4. 津島江道遺跡 5. 北方下沼遺跡 6. 北方横田遺跡 7. 北方中溝遺跡 8. 北方地藏遺跡 9. 北方上沼遺跡ほか 10. 北方藪ノ内遺跡 11. 上伊福遺跡・伊福定国前遺跡 12. 上伊福遺跡 13. 上伊福 (立花) 遺跡 14. 絵図遺跡 15. 津島遺跡 16. 広瀬遺跡 17. 集落跡 18. 散布地 19. 七つ坨古墳群 20. 烏山城跡 21. 都月坂墳墓群 22. 半田山城跡 23. 津島福居遺跡 24. 散布地 25. お塚様古墳 26. 津島東遺跡 27. 一本松古墳群 28. 散布地 29. 朝寝鼻貝塚 30. 鍵田遺跡 31. 三野宮之段遺跡 32. 北方長田遺跡 33. 神宮寺山古墳 34. 上伊福西・尾針神社南遺跡 35. 津倉古墳 36. 妙林寺遺跡 37. 津倉遺跡 38. 散布地 39. 寺 40. 古墳? 41. 古墳? 42. 墳墓 43. 津島東三丁目遺跡第1地点 44. 不動堂古墳 45. 古墳 46. 妙見山城跡 47. 道讚禪定門石燈籠 48. 散布地 49. 岡山城跡 50. 後楽園 51. 散布地 52. 散布地 53. 散布地

第2図 調査区周辺の遺跡と主要遺跡分布 (1/25,000)

第2章 発掘調査および報告書作成の経緯と経過

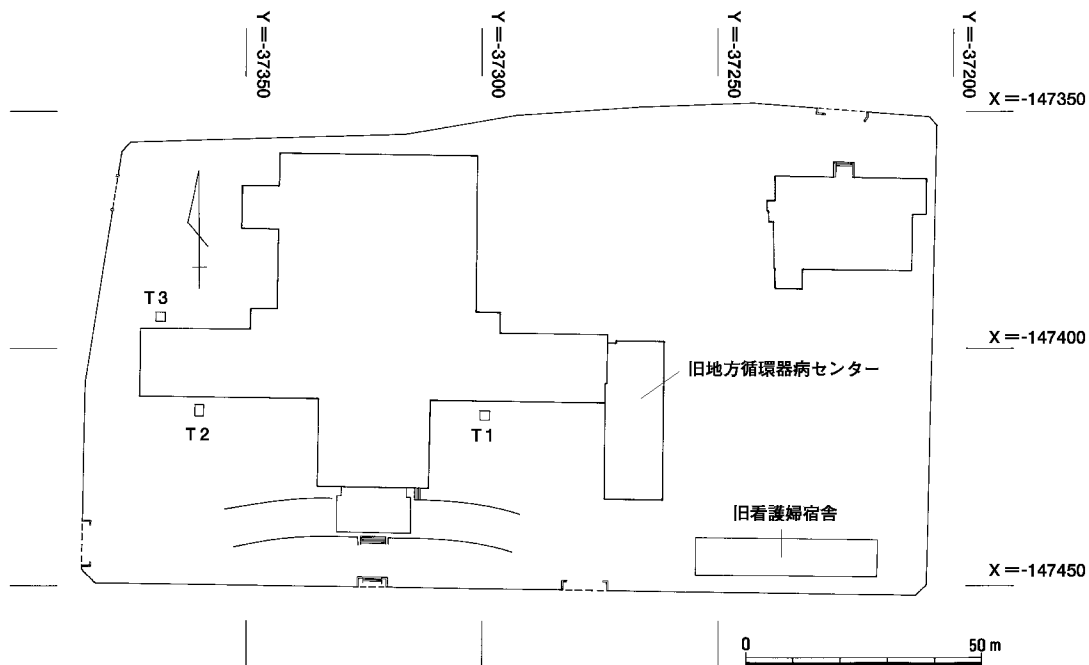
第1節 調査にいたる経緯

岡山県は、平成14年度に地域福祉とボランティア・NPOの活動を一層推進するための総合拠点施設として「新総合福祉・ボランティア・NPO会館（仮称）」、および県民の記録資料を保存利用する拠点施設として「岡山県立文書館（仮称）」を、岡山市南方の旧国立病院跡地において一体的に整備する「岡山県新総合福祉・ボランティア・NPO会館（仮称）等整備事業」計画を明らかにした。そして、整備に当たっては、既存建物をリニューアルすること、および設計・建設・管理・運営を民間の資金、技術・経営能力を活用して行う「PFI」を採用することを決定した。

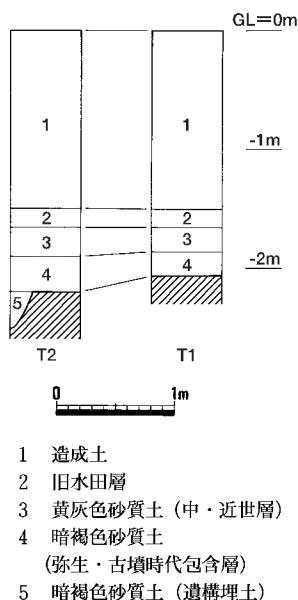
その後、平成15年4月にPFI事業者が入札によって決定したことに伴い、設計・建設を実施することとなった株式会社竹中工務店から具体的な設計案が示された。

岡山県教育委員会は、国立病院跡地が南方遺跡として周知されていることから、この事業の立案段階から、埋蔵文化財の取り扱いについて、事業者である岡山県保健福祉部保健福祉課と事前協議を行っていたが、株式会社竹中工務店の設計案によれば、既存の病院建物の周囲に多数の基礎杭を打ち込むこととなっており、遺跡に影響を及ぼす可能性が考えられたため、事前に確認調査を実施し、保護・保存のための基礎資料を得ることとした。

確認調査は、平成15年11月6日に、基礎杭設置予定場所のうち、既存施設のため既に掘削されていると考えられた建物北東部を除いた3か所にトレンチを設定（第3図のT1・2・3）して実施した。



第3図 確認トレンチ配置 (1/1,500)



第4図 T1・T2基本土層断面 (1/60)

調査の結果、T3は旧河道或いは低位部で遺構・遺物とも確認できなかったが、T1・2では弥生時代を中心とする遺構・遺物が確認できた。

この確認調査結果を基に、文化財課は保健福祉課および株式会社竹中工務店に対し、基礎杭の規模をできるだけ小さくすることや遺構面に及ぶ掘削を避けることなどについて協議を行った結果、どうしても基礎杭と地中梁によって影響を受けると考えられる部分についてのみを調査範囲として本調査を実施することとした。

当初計画では、平成16年度に発掘調査1か月、報告書整理1か月を予定していたが、遺構密度の濃さなどから平成16年度は発掘調査を2か月実施し、報告書の整理・刊行は平成17年度に実施することに変更した。

なお、「岡山県新総合福祉・ボランティア・NPO会館（仮称）等整備事業」はPFI事業であるため、本発掘調査、および報告書整理・刊行については、岡山県が設計・建設事業者である株式会社竹中工務店と委託契約を締結して実施した。

第2節 調査の経過

発掘調査は、調査員1名で期間は2か月であった。調査対象地は周知の遺跡である南方遺跡の中心付近にあたる。確認調査によって遺構、遺物の存在が明らかとなったが、過去に実施された旧国立岡山病院の地方循環器病センターや看護婦宿舎の建設に伴う発掘調査⁽¹⁾によって、弥生中期および古墳前期を主体とする集落が想定される地点でもあった。調査区は旧国立岡山病院本館建物南側の補強工事が必要な基礎構造部分となる合計11か所であった。各調査区は小規模であり、また、建物によって攪乱を受けた場所も考えられたが、調査区を西から順にA・B…K区と呼称することとした。

調査工程は、確認調査の成果から、始めに現地表下約1.9mまでである造成土層などを、排土置場と作業空間の確保を考慮しつつ、重機により除去した。次に、各調査区の範囲を打ち出した後に、弥生～古墳時代の包含層上面にあたる海拔約2.4mから人力によって掘下げを進め、遺構検出作業を行った。続いて、確認された遺構および調査区の西ないし東壁の土層断面の実測図を作成し、写真撮影を適宜行った。最後に各調査区の完掘状況の写真を撮影して、対象地全体の調査を終了した。

発掘調査の結果、対象地はやや北西方向へ下がりながらも、比較的安定した微高地に形成された集落にあたることを確認された。このうち、D区とE区については攪乱を受けていたが、遺構は全体で弥生時代から古墳時代の竪穴住居5軒、井戸1基、土壇54基、溝3条や柱穴・ピットなどを多数検出した。遺物は、弥生土器・土師器・須恵器・土製品・石器・木器・金属器・獣骨などが整理箱で45箱出土した。その主体は弥生中期の土器であったが、比較的残存状況が良好なものが多く認められた。

註

(1) 「南方遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』40 岡山県教育委員会 1981

『南方（国立病院）遺跡発掘調査報告』岡山市教育委員会 岡山市遺跡調査団 1981

第3節 日誌抄

平成16年度

| | |
|-------------------|------------------------------------|
| 5月6日(木) E～K区調査開始 | 6月7日(月) J区調査終了 |
| 5月10日(月) A～D区調査開始 | 6月10日(木) H・I区調査終了 |
| 5月11日(火) E区調査終了 | 6月16日(水) B・C区調査終了 岡山中央 北小学校現場見学 |
| 5月21日(金) D区調査終了 | 6月29日(火) A区調査終了 |
| 5月27日(木) K区調査終了 | 6月30日(水) 調査終了 |

第2表 埋蔵文化財発掘の届出(法第57条の2:当時)

| 番号 | 岡山県文書番号 日付 | 種類及び名称 | 所在地 | 面積(m ²) | 目的 | 届出者 | 期間 | 主な指示事項 |
|----|------------------------|-------------|--------------|---------------------|-------------------------|------------------------|----------------------|--------|
| 1 | 教文理 第17号 H16.4.6 | 集落跡 南方遺跡 | 岡山市南方2丁目13-1 | 17.546 | 新総合福祉・ボランティア ア・NP0会館 | (株)竹中工務店広島支店 支店長 藤勉 | H16.8.1～ H17.6.30 | 発掘調査 |

第3表 埋蔵文化財発掘調査の報告(法第58条の2:当時)

| 番号 | 文書番号 日付 | 種類及び名称 | 所在地 | 面積(m ²) | 原因 | 報告者 | 担当者 | 期間 |
|----|------------------------|-------------|--------------|---------------------|------|----------------------|------|----------------------|
| 1 | 岡吉調 第55号 H16.5.6 | 集落跡 南方遺跡 | 岡山市南方2丁目13-1 | 190 | 福祉施設 | 岡山県古代吉備文化財センター 所長 | 澤山孝之 | H16.5.6～ H16.5.31 |

第4表 埋蔵文化財発見通知(法第59条:当時)

| 番号 | 文書番号 日付 | 物件名 | 出土地 | 出土年月日 | 発見者 | 土地所有者 | 現保管場所 |
|----|-------------------------|---------------------------------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------|----------------|
| 1 | 教文理 第387号 H16.7.6 | 弥生土器・須恵器・土師器・ 土製品・石製品・木製品など 45箱 | 岡山市南方2丁目13-1 南方遺跡 | H16.5.6～ H16.6.30 | 岡山県教育委員会 教育長 宮野正司 | 岡山県知事 石井正弘 | 岡山県古代吉備文化財センター |

第4節 報告書作成の経過

報告書作成は、調査員1名で期間は3か月であった。遺物整理は、始めに遺物台帳を作成して、その総量と概要の把握に努めた。次に出土遺物の洗浄、注記作業を実施し、並行して土器を除く遺物の抽出を行った。

続いて、調査区の遺構および包含層ごとに出土土器の復元作業を行い、順次実測を実施した。その後、遺物実測図の浄写を進めて、遺構あるいは包含層の単位ごとにレイアウトを行ってWPを作成した。掲載遺物は土器263点、土製品6点、石器29点、木器1点、金属器1点である。また、重要で残存状況が良好な遺物は、適宜写真撮影を行った。なお、炭化物・石器・獣骨は、それぞれの専門機関、諸氏へ鑑定・同定を依頼した。

遺構整理は、遺構実測図を下図として浄写を行い、WPを作成した。また、遺構写真は選別して現像した。こうして完成した各WP、写真を基に割付作業を行った後、原稿の執筆や遺構一覧表、遺物観察表などの作成を実施した。

第5節 調査および報告書作成の体制

報告書に所収の南方遺跡は、平成15年度に確認調査、平成16年度に発掘調査、平成17年度に整理・報告書作成をそれぞれ実施した。次にその体制を記す。

平成15年度

岡山県教育委員会

教育長 宮野 正司

岡山県教育庁

教育次長 三浦 一男

文化財課

課長 西山 猛

課長代理 田村 啓介

課長補佐（埋蔵文化財係長）

平井 泰男

文化財保護主任 尾上 元規

（確認調査担当）

主 事 浜原 浩司

平成16年度

岡山県教育委員会

教育長 宮野 正司

岡山県教育庁

教育次長 釜瀬 司

文化財課

課長 芦田 和正

参事 田村 啓介

総括副参事（埋蔵文化財班長）

平井 泰男

主任 小林 利晴

主 事 秋山 良樹

岡山県古代吉備文化財センター

所長 正岡 睦夫

次長（総務課長） 内田 猛

参事 松本 和男

参事 伊藤 晃

〈総務課〉

総括副参事（総務班長） 笏本 弘忠

主 任 小坂 文男

主 任 小川 紀久

〈調査第三課〉

課 長 柳瀬 昭彦

総括副参事（第一班長） 浅倉 秀昭

主 査 澤山 孝之

（発掘調査担当）

平成17年度

岡山県教育委員会

教育長 宮野 正司

岡山県教育庁

教育次長 釜瀬 司

文化財課

課 長 芦田 和正

参 事 田村 啓介

総括副参事（埋蔵文化財班長）

平井 泰男

主 任 小林 利晴

主 事 金出地敬一

岡山県古代吉備文化財センター

所 長 松本 和男

次 長（総務課長） 内田 猛

参 事 平松 郁男

参 事 高畑 知功

〈総務課〉

総括副参事（総務班長） 若林 一憲

主 任 小川 紀久

〈調査第三課〉

課 長 中野 雅美

総括副参事（第二班長） 山磨 康平

主 査 澤山 孝之

（報告書担当）

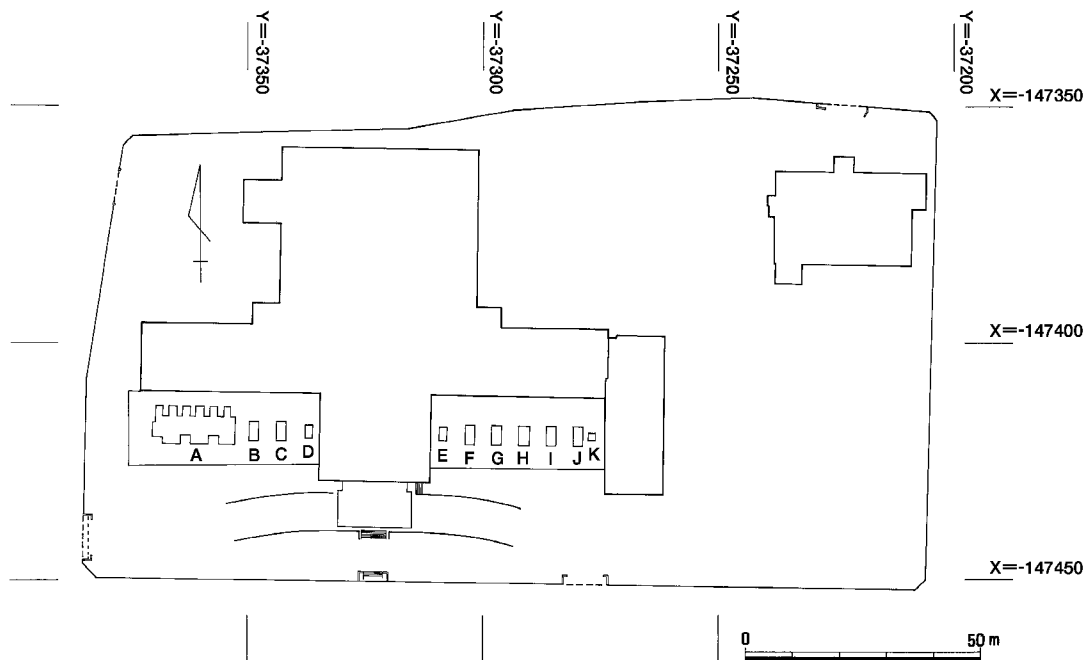
第3章 発掘調査の概要

第1節 調査区の概要

調査対象地はA～K区の11か所であり、発掘調査の結果、同所は比較的安定した微高地に形成された集落域にあたることが明らかとなった。集落変遷をみると、調査対象地の西側のA、B区で、弥・前・Ⅲから弥・中・Ⅰの遺構、遺物が認められた。弥・中・Ⅱには各区で遺構、遺物が確認され、集落の拡大が窺える。特に弥・中・Ⅱの中相の時期は、遺構数、遺物量ともに最大となる。

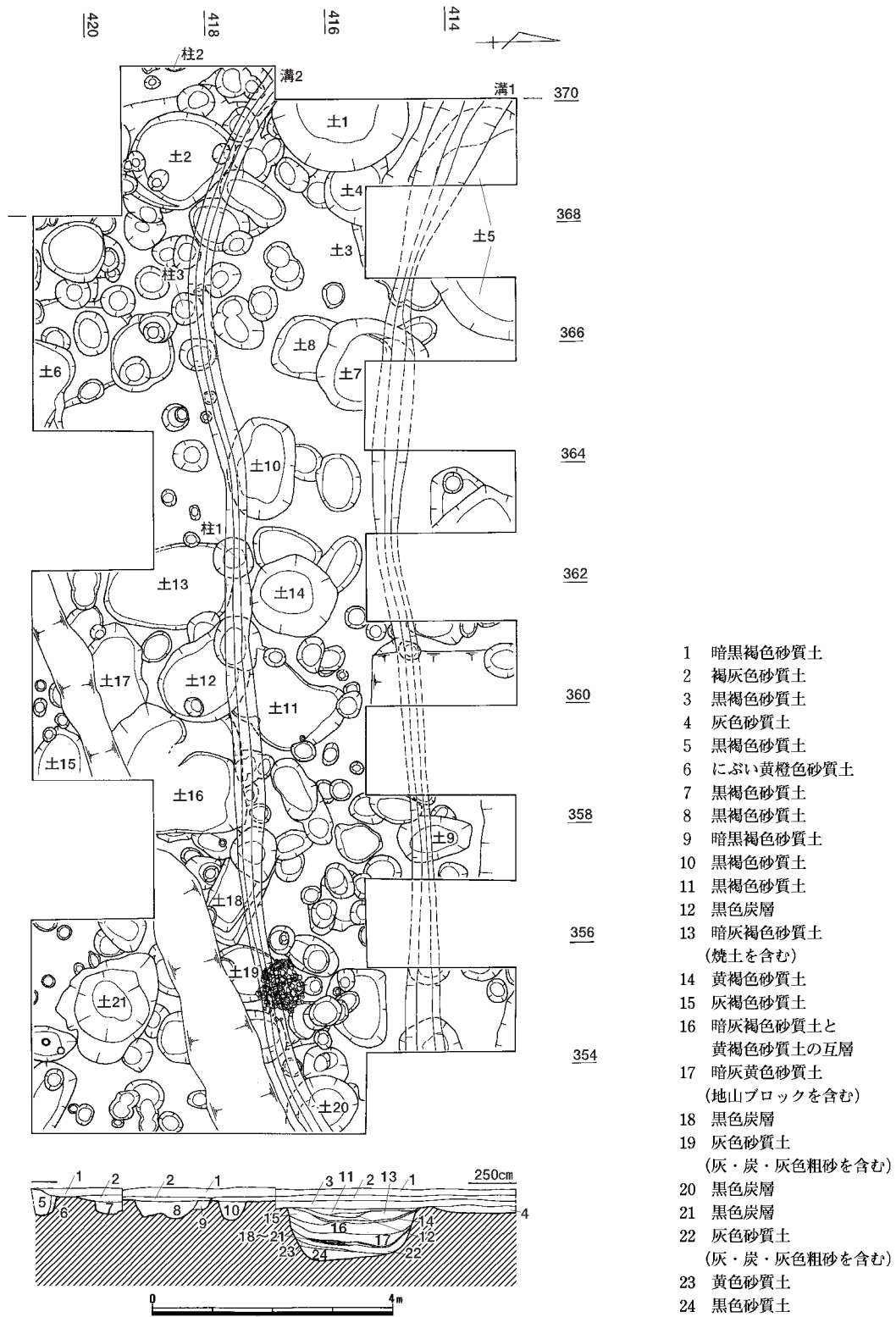
ところが、弥・中・Ⅲに入ると遺構は認められず、遺物も摩滅した土器片が出土したのみである。この状況は弥生後期でも同様であり、この期間の集落は調査対象地から他地域へ移動していたと考えられる。古墳前期になると、A、F、J、K区などで再び遺構、遺物が確認された。特にJ、K区は、調査対象地の東方に近接する旧国立岡山病院の地方循環器病センター建設に伴う発掘調査で、同期の遺構が確認されていることから、これらの集落との関係が想起される。古墳後期から古代にかけては、須恵器、土師器の破片が各区で少量出土した一方、遺構は確認されなかったため、同時期の集落実体は判然としなかった。古代以降は周辺の平野部の状況と同様に、水田化が進展したことが認められた。

第2節 調査区の遺構と遺物



第5図 調査区配置 (1/1,500)

1 A区



第6図 A区遺構配置および西壁断面 (1/100)

概要 (第5・6図、巻頭図版1—1)

今回の調査対象地では最西端に位置する。調査区は基本的に方形であるが、補強工事の関係で各辺は凸凹となっている。規模は東西最大長17.8m、南北最大長8.0mを測り、今回の調査区では最大の範囲をもつ。

遺構は土壇21基、溝2条や多数の柱穴・ピットを検出した。遺構密度はたいへん高く、それぞれ重複した状況で確認されたものが多くみられた。時期は弥・中・Ⅱのものが最も多く、次いで弥・中・Ⅰ、古・前・Ⅱのものがわずかに検出された。土壇は比較的大形のものがみられ、遺物もまとまった量が認められた。また、これらの出土土器のなかには残存状況が高いものがあることから、土壇が掘削された早い段階で、遺物が一括投棄されたことが想起させられた。ただし、狭小な調査区のために遺構全体をすべて完掘できなかったものも少なくない。

なお、調査区西側の調査において、主に弥・前・Ⅲから弥・中・Ⅰの土器が比較的認められたが、このことは該期の集落域の広がりを反映しているとも考えられる。

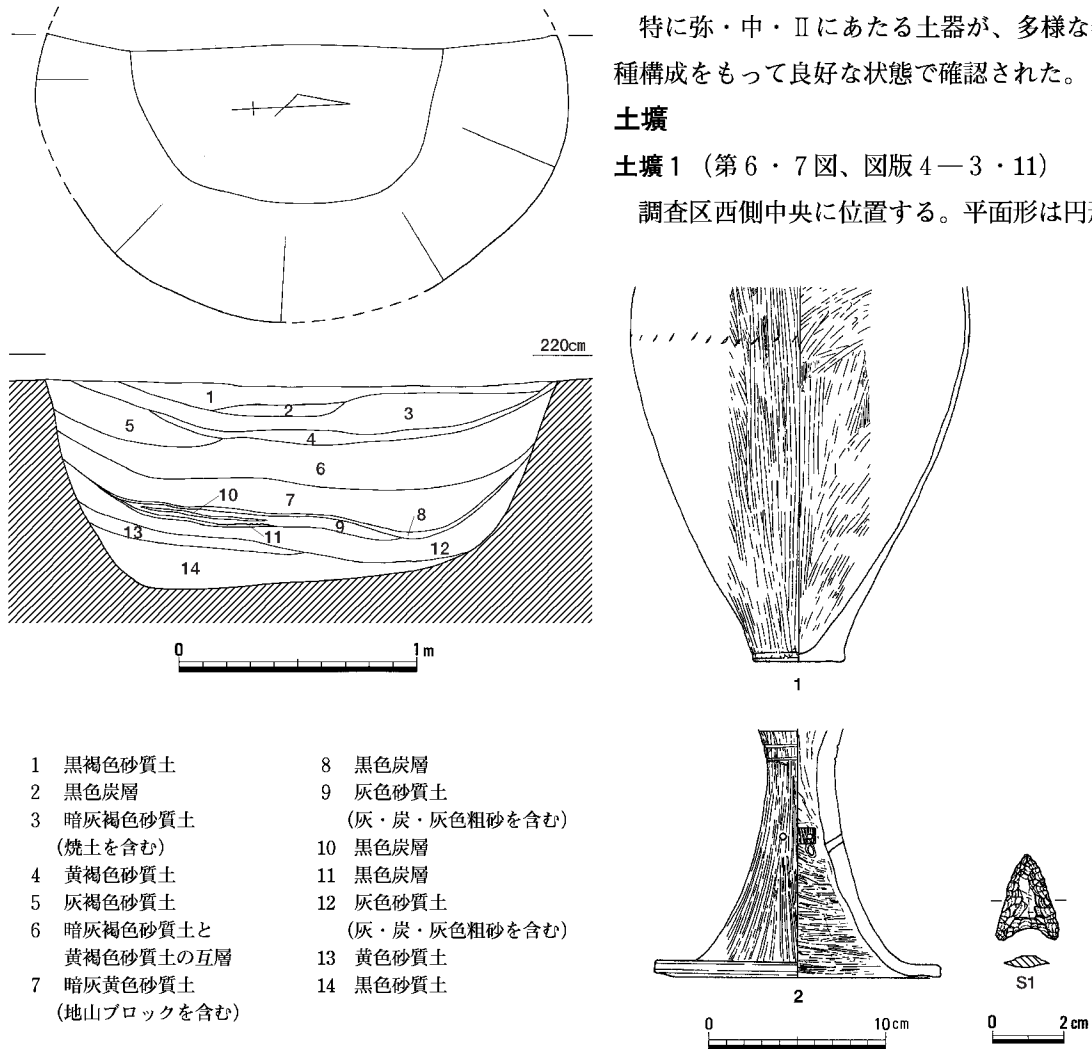
遺物は弥生土器、土師器、須恵器、土製品、石器、獣骨などがまとめて出土した。

特に弥・中・Ⅱにあたる土器が、多様な器種構成をもって良好な状態で確認された。

土壇

土壇1 (第6・7図、図版4—3・11)

調査区西側中央に位置する。平面形は円形



第7図 土壇1 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/2)

と思われ、長軸225cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは88cm、底面海拔高は121cmを測る。断面観察から第7層と第8層の間に埋没の時期差が窺え、第8層以下では、灰色砂質土と黒色炭層が互層をなしており、その灰色砂質土中には灰と炭が多く含まれていた。

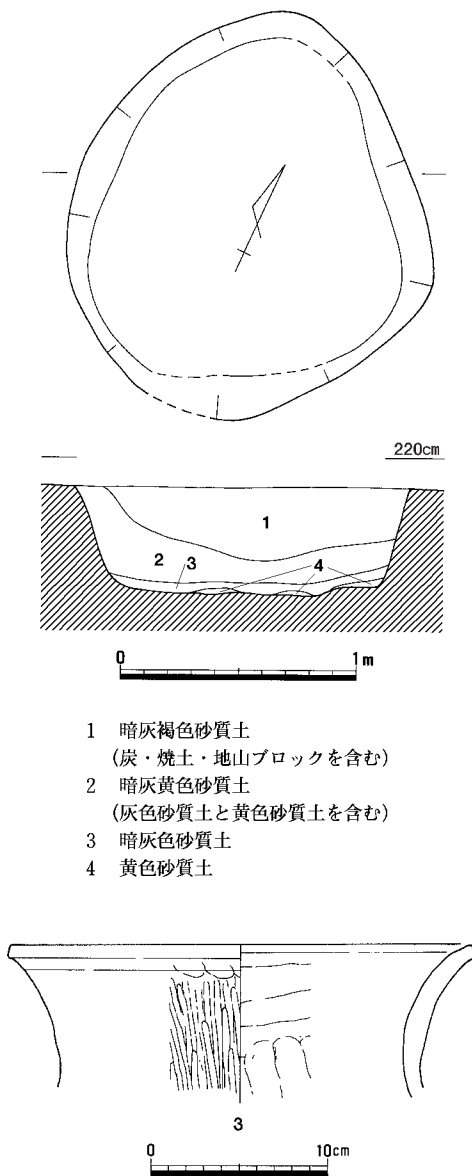
遺物は弥生土器の壺片、甕1、高杯2や石鏃S1、獣骨（ニホンジカ、コイ科など）、炭化物、ガラス溶塊と思われる多孔質の物質が出土した。この物質の生成と埋土中の灰と炭は、何らかの関係があるとも考えられる。炭化物は4個体確認され、種実遺体分析を実施した結果、これらは栽培植物のイネ（*Oryza sativa* L.;イネ科イネ属）の可食部にあたる胚乳と同定された。時期は弥・中・IIである。

土壌2（第6・8図）

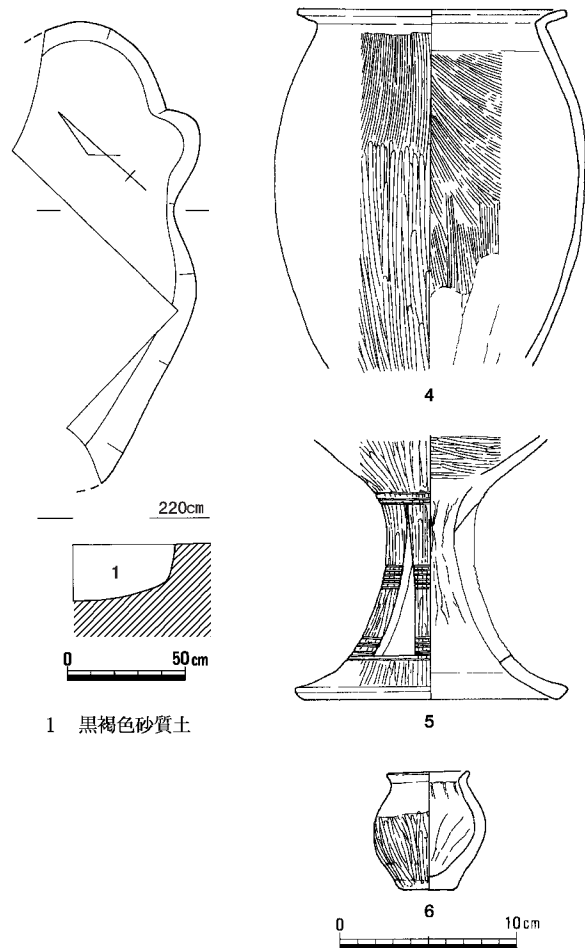
調査区南西側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸172cm、短軸157cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは44cm、底面海拔高は162cmを測る。第1層には炭、焼土が含まれていた。遺物は弥生土器の壺3、甕片などが出土した。時期は弥・中・Iである。

土壌3（第6・9図）

調査区北西側に位置する。平面形は楕円形と思われ、断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもつ。深さは



第8図 土壌2（1/30）・出土遺物（1/4）



第9図 土壌3（1/30）・出土遺物（1/4）

24cm、底面海拔高は185cmを測る。調査区の関係のため、遺構全体をすべて完掘できなかった。遺物は弥生土器の壺片、甕4、高杯5、小形壺6などが出土した。時期は弥・中・Ⅱである。

土壌4（第6・10・11図、図版6）

調査区北西側に位置する。平面形は楕円形を呈すと思われる、長軸145cm、短軸119cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは76cm、底面海拔高は132cmを測る。断面観察から第4層と第5層の間に埋没の時期差が窺える。

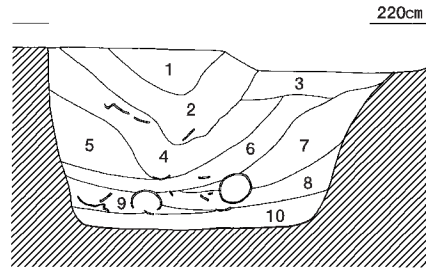
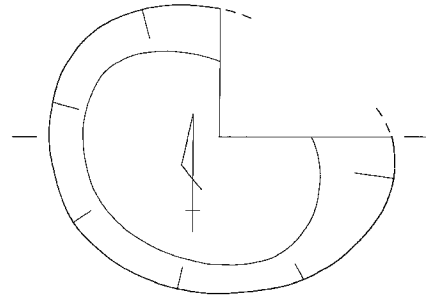
遺物は土師器の壺7、甕8～20、台付鉢21、鉢22などが出土した。甕11・12・18の肩部には刺突文が看取され、甕18の胴部には焼成後に円孔が施されている。

特に甕が多く認められ、甕8～19についてはすべて第5層以下の出土である。残存状況もほぼ完形に近いものばかりであることから、これらは土壌が掘削された早い段階に一括して投棄されたものと考えられる。

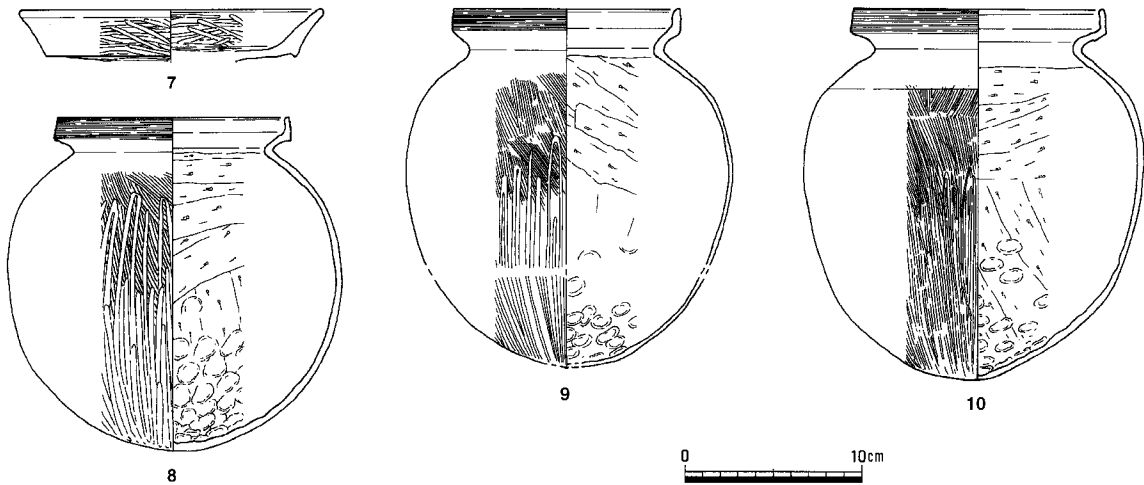
しかし、それぞれの分量や容量、そして最大胴部径の位置からみた形態などを比較すると、それぞれにわずかな個体差が認められる。

なお、甕については、破片となってから埋没した可能性が高いが、口縁部の破片からみると、完形品には復元できなかったものが、あと2個体程度存在している。

その一方、甕を除く器種があまり出土しなかったことについては、こうした土器廃棄の必然性を示しているのか、また、遺構の性格を反映したことによるものなのか判然としない。ただし、底面付近の堆積土層の状況や湧水の有無、底面海拔高などを考えると、井戸としては機能していなかったようである。時期は古・前・Ⅱである。



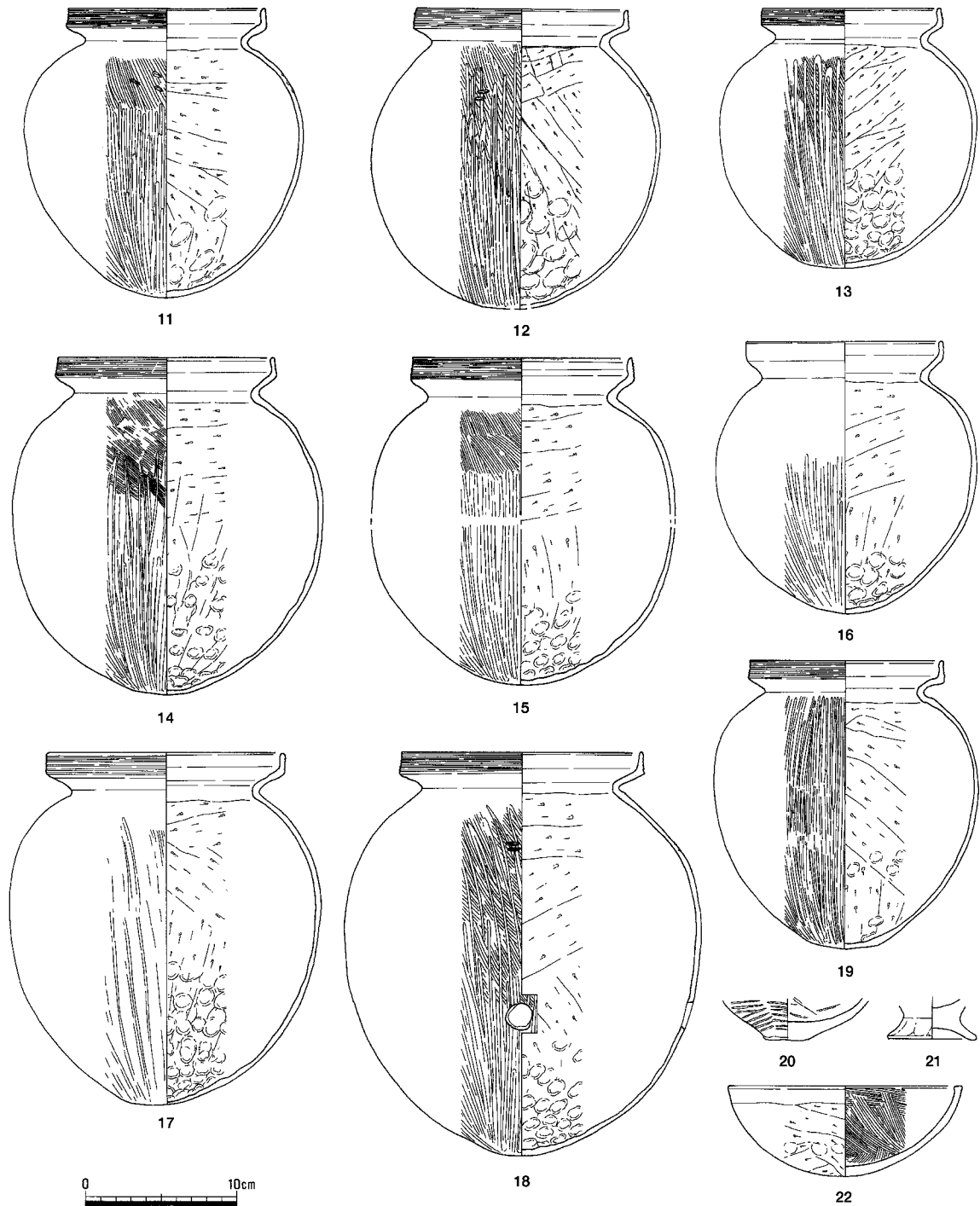
- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色砂質土 (焼土を含む) | 6 暗灰褐色砂質土 (地山ブロックを含む) |
| 2 淡黄褐色砂質土 (地山ブロックを含む) | 7 黄褐色砂質土 |
| 3 暗黄褐色砂質土 | 8 暗灰褐色砂質土 (炭を含む) |
| 4 暗灰黄色砂質土 (地山ブロックを含む) | 9 暗灰色砂質土 |
| 5 暗灰黄色砂質土 | 10 淡緑灰色砂質土 (グライ化) |



第10図 土壌4 (1/30)・出土遺物① (1/4)

土壌5 (第6・12・13・14図、巻頭図版1—2、図版7・8・11・12)

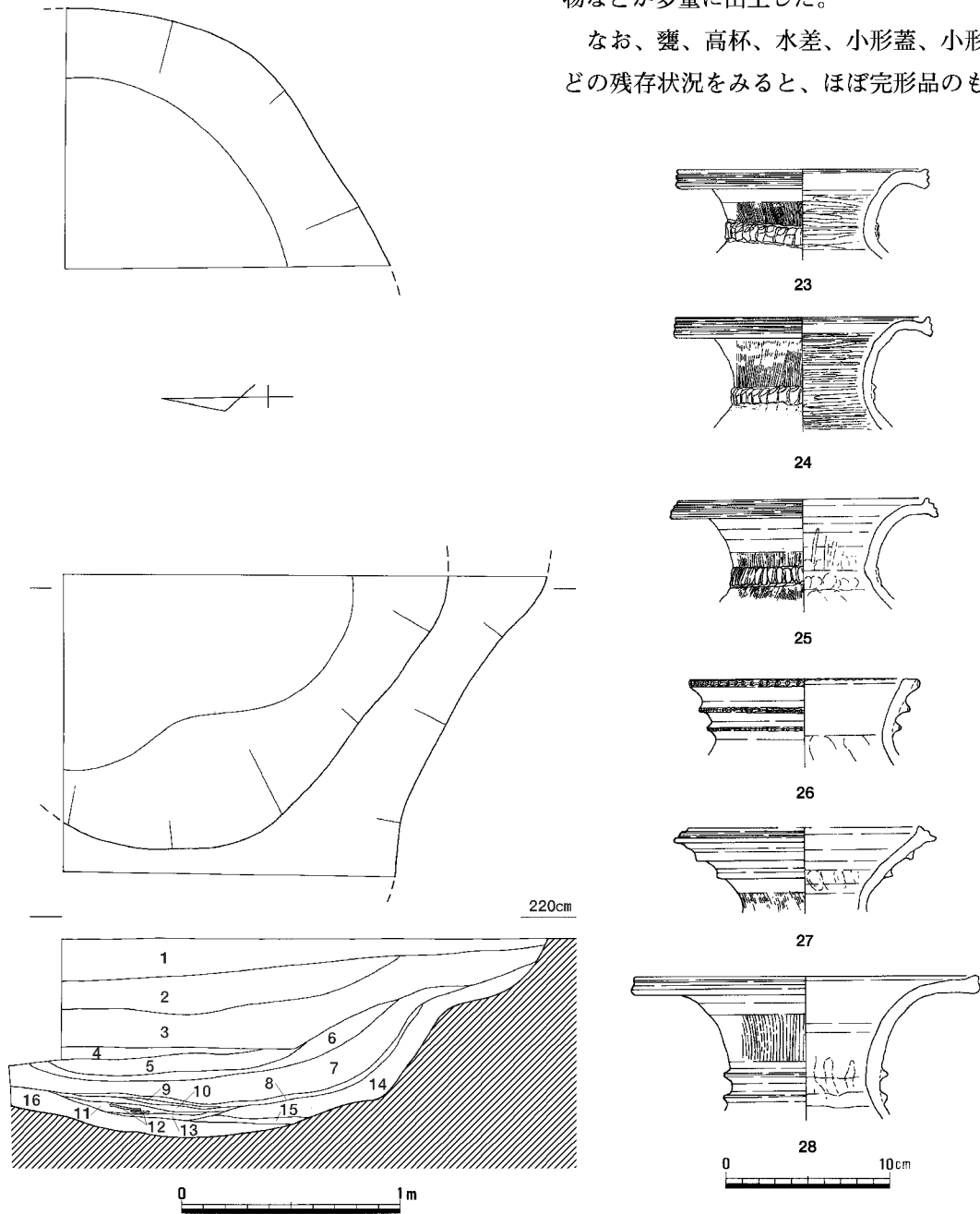
調査区北西端に位置する。調査区の関係で完掘し得なかったが、規模は極めて大形であるといえる。平面形は楕円形と思われ、長軸388cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもち、深さは92cm、底面海拔高は120cmを測る。断面観察から第3層と第4層、第6層と第7層の間にそれぞれ埋没の時期差が窺える。また、第7層以下では、砂質土と黑色炭層が互層をなしている。



第11図 土壌4 出土遺物② (1/4)

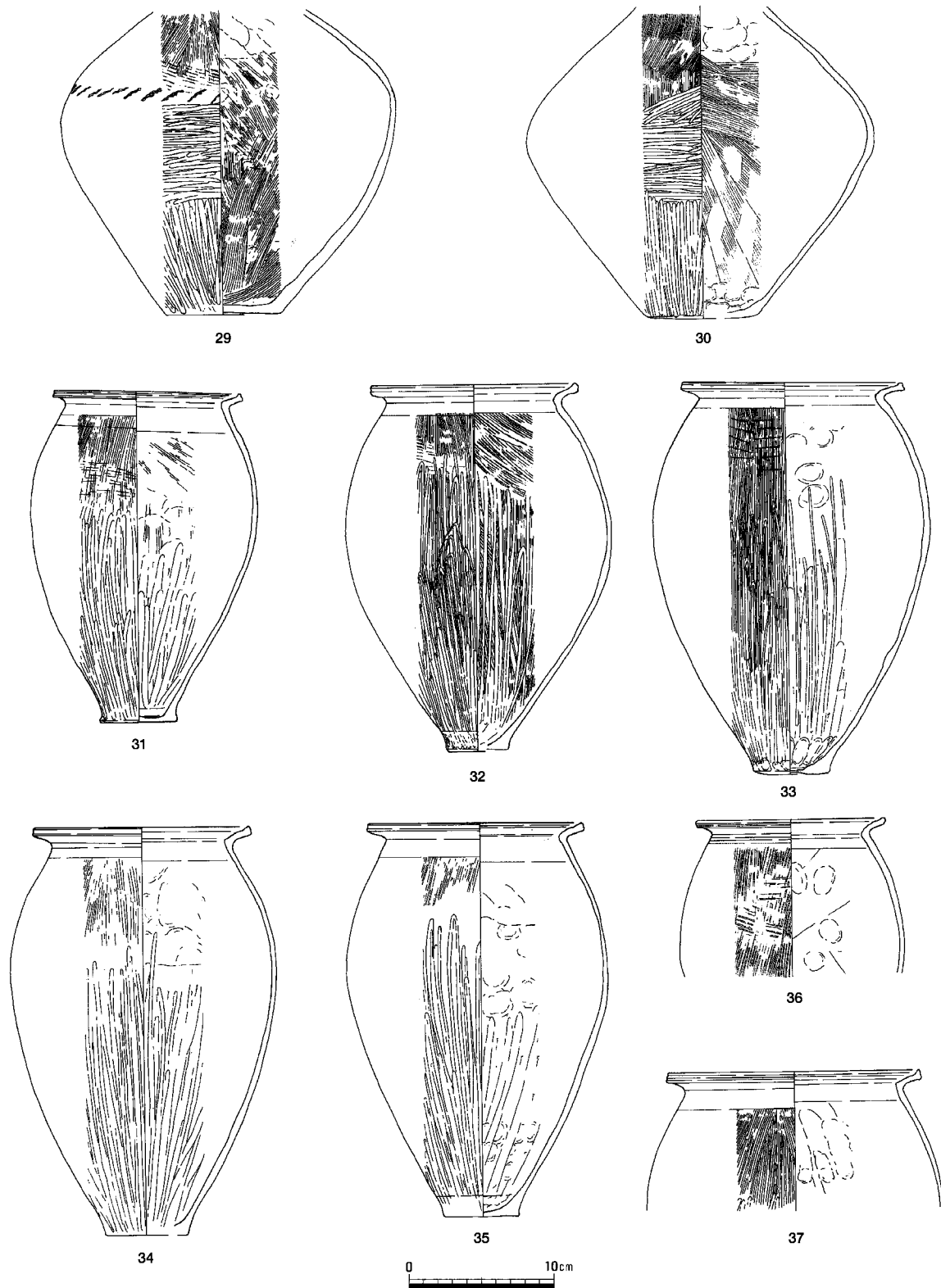
遺物は主に第7層以下から出土したものであり、弥生土器の壺23~30、甕31~42、高杯43・44、台付鉢45~49、小形蓋50、小形壺51・52、水差53や分銅形土製品C1、一部被熱痕跡をもつ台石、獣骨（イノシシ類、アナゴの仲間など）、炭化物などが多量に出土した。

なお、甕、高杯、水差、小形蓋、小形壺などの残存状況をみると、ほぼ完形品のものが

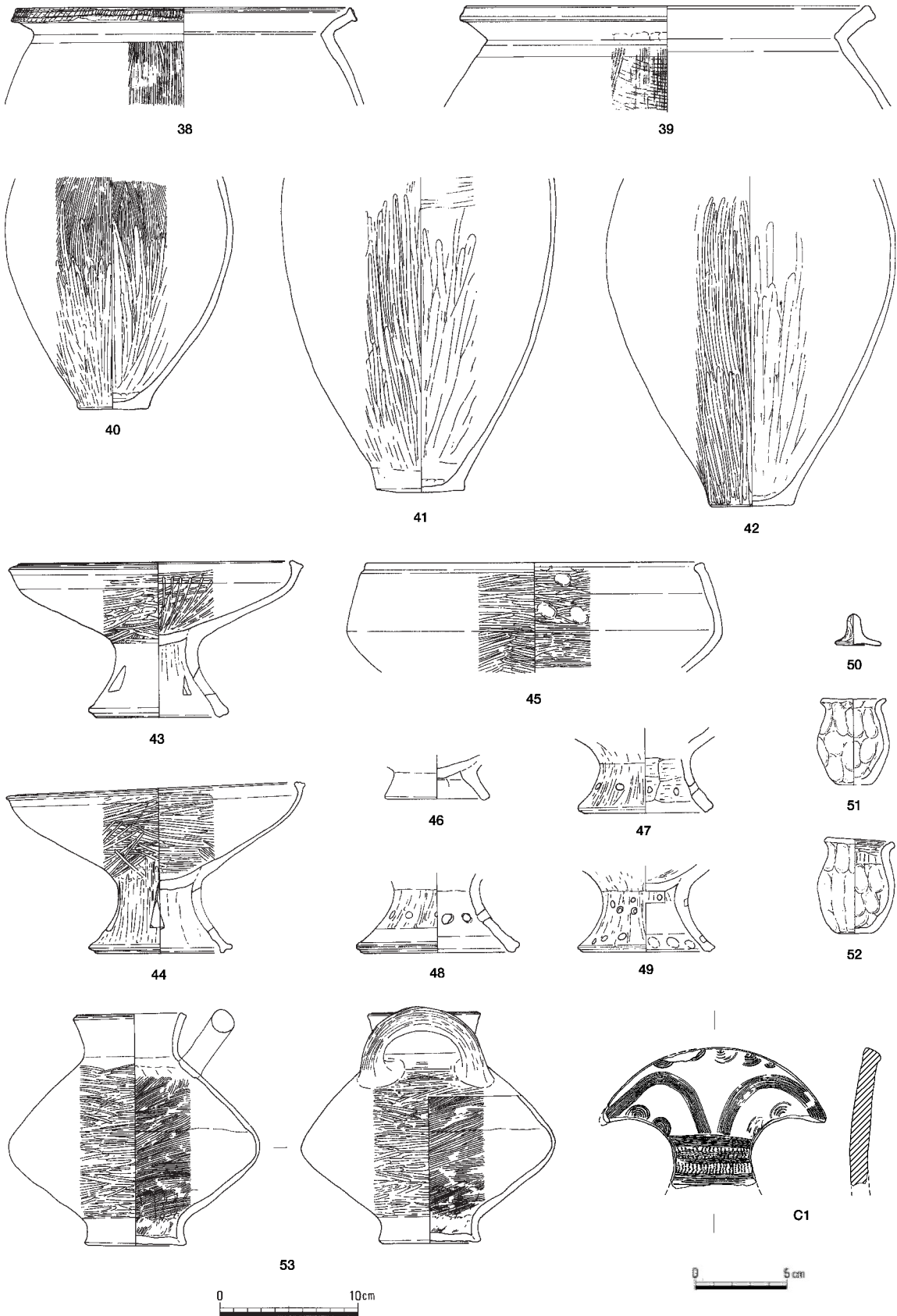


- | | | | | |
|--------------------|-------------------|----------|----------|-----------|
| 1 黒褐色砂質土 | 4 淡黄色砂質土 | 7 暗灰色砂質土 | 10 黒色炭層 | 14 灰褐色砂質土 |
| 2 淡褐色砂質土 (炭を含む) | 5 淡灰褐色砂質土 | (炭を多く含む) | 11 黄色砂質土 | 15 黒色炭層 |
| 3 灰黒色砂質土 (炭を含む) | 6 黄色砂質土 (Fe沈着) | 8 黒色炭層 | 12 黒色炭層 | 16 淡灰色砂質土 |
| | | 9 黄色砂質土 | 13 黒色炭層 | |

第12図 土壌5 (1/30)・出土遺物① (1/4)



第13図 土壙5出土遺物② (1/4)



第14図 土壙5出土遺物③ (1/4・1/3)

多いことから、これらの土器は土壌掘削後の早い段階に、一括して投棄されたものと考えられる。

出土土器の特徴をみると、壺29、甕31～33・36・39の外面肩部から胴部上半付近にかけて、タタキメが口縁部に対して平行あるいは右下がりに施された状況で看取された。これらは器面観察からハケメやヘラミガキより先行して行われている。また、タタキメがみられたその内面側では、ユビオサエまたはそれに準じる器面の凹凸がみられた。

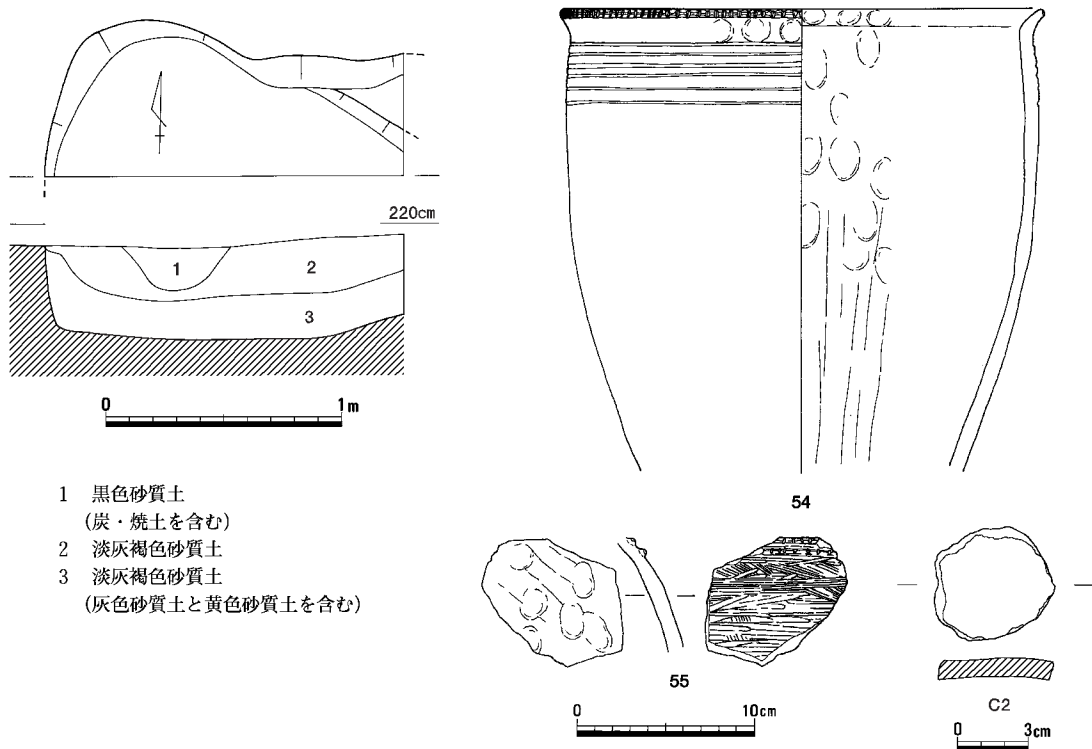
一方、甕31・33～35・40～42の内面調整をみると、胴部下半に縦方向のヘラケズリが行われた後、やや粗いヘラミガキあるいは板状工具か指によるナデを施したような状況が認められた。この土壌から出土した甕には多く用いられている技法のようであるが、こうして看取される平滑面の痕跡については、今後注視すべきであろう。また、台付鉢47の脚部内面には、横方向のヘラケズリがみられた。

炭化物は1個体確認され、種実遺体分析を実施した結果、これらは栽培植物のイネ (*Oryza sativa* L.;イネ科イネ属) の可食部にあたる胚乳と同定された。また、胚乳表面には炭化した穎の小片が付着している状況が確認された。時期は弥・中・Ⅱである。

土壌6 (第6・15図)

調査区南西側に位置する。平面形は楕円形と思われ、断面形は上部が広がる壁面に平らな底部を持ち、深さは45cm、底面海拔高は171cmを測る。調査区の関係のため、遺構全体を完掘できなかった。

遺物は弥生土器の壺片、甕54、鉢55や円板形土製品C2などが出土した。時期は甕54の特徴から、弥・前・Ⅲまで遡る可能性が高いが、小片ながら鉢55の出土がみられることから、弥・中・Ⅰであると思われる。



第15図 土壌6 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/3)

土壌7 (第6・16図)

調査区北西側に位置する。平面形は楕円形と思われ、短軸174cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは52cm、底面海拔高は168cmを測る。調査区の関係のため、遺構全体をすべて完掘できなかつた。遺物は弥生土器の壺片、甕56~59、高杯60・61や蛤刃石斧からの転用あるいは未製品と思われるS2などが出土した。時期は弥・中・Ⅱである。

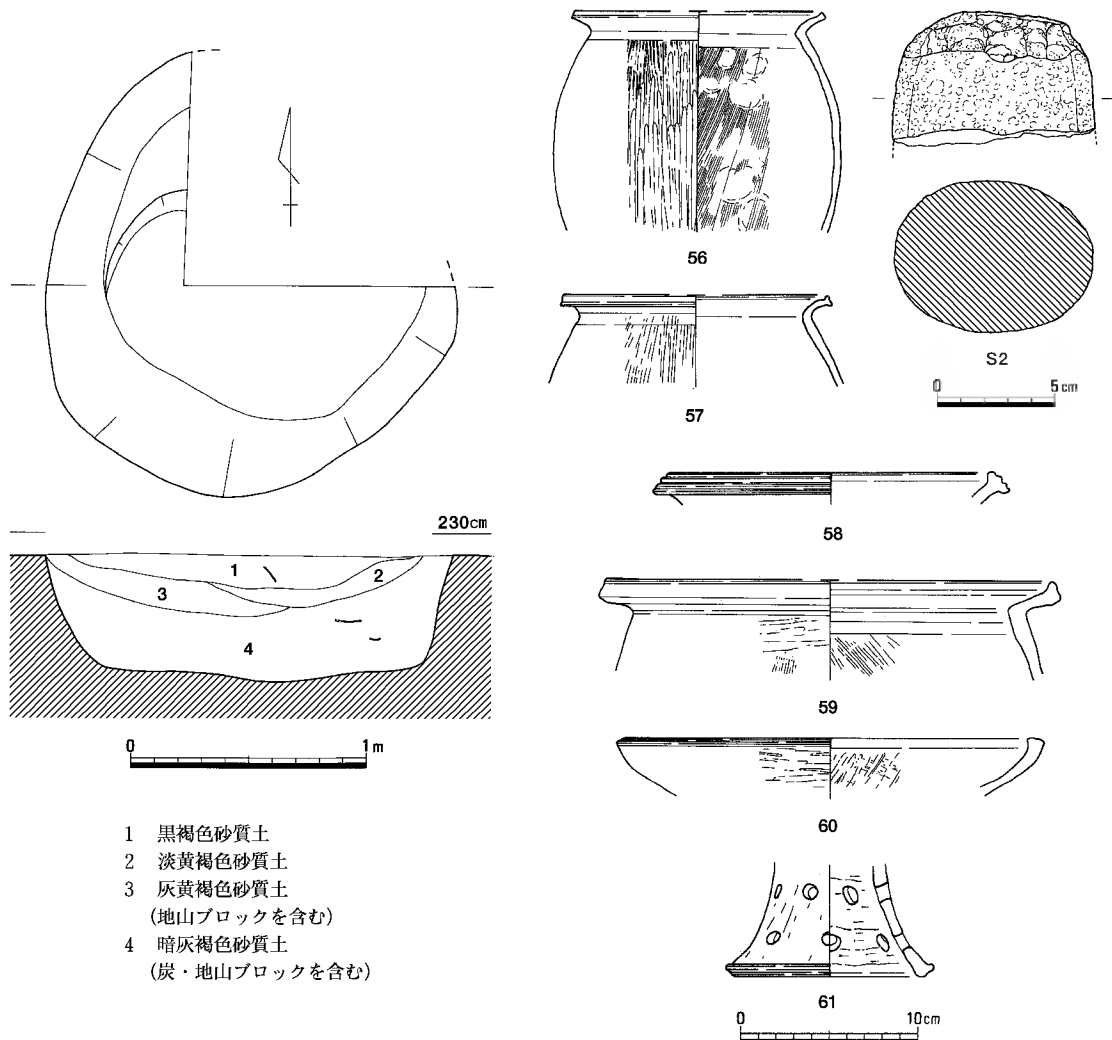
土壌8 (第6・17図、図版11)

調査区北西側に位置する。平面形は円形と思われ、短軸107cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは55cm、底面海拔高は155cmを測る。

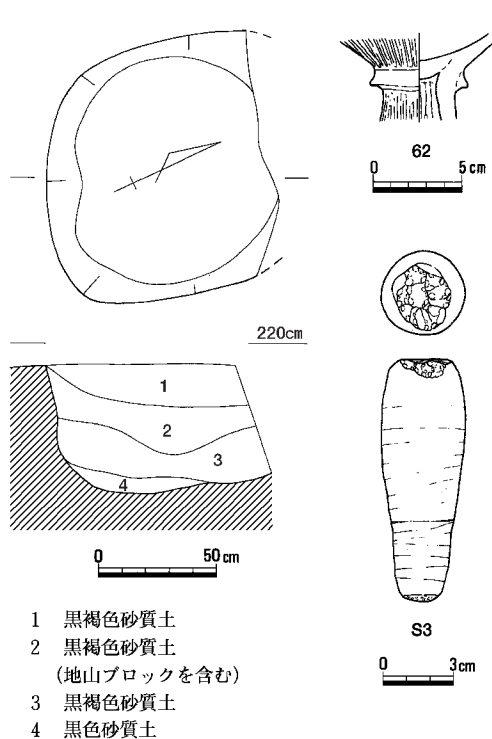
遺物は弥生土器の壺片、甕片、高杯62や礫錐S3などが出土した。礫錐S3の錐部には横方向の回転によると思われる擦痕が認められ、上端部には敲打痕がみられる。形態的に環状石斧などの穿孔具として使用されたものと思われる。時期は弥・中・Ⅱである。

土壌9 (第6・18図、図版11)

調査区北東側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸124cm、短軸77cmを測る。断面形は上部が



第16図 土壌7 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/3)



- 1 黒褐色砂質土
- 2 黒褐色砂質土
(地山ブロックを含む)
- 3 黒褐色砂質土
- 4 黒色砂質土

第17図 土壌8 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/3)

広がる壁面に窪む底部をもち、深さは49cm、底面海拔高は153cmを測る。

遺物は、弥生土器の壺片、甕片や円板形土製品C3などが出土した。時期は弥・中・Ⅱと思われる。

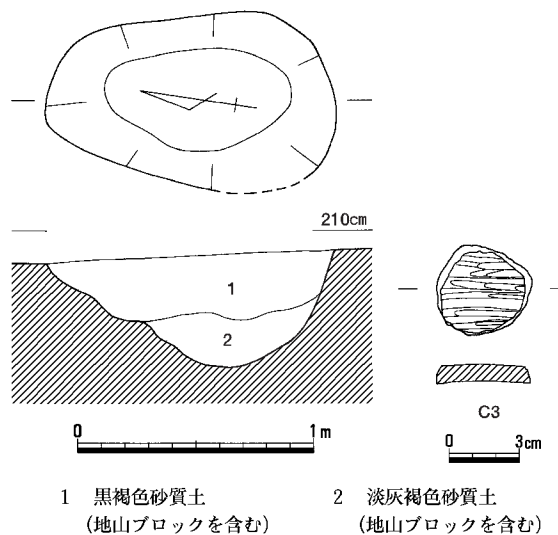
土壌10 (第6・19図)

調査区中央付近に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸168cm、短軸114cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもち、深さは36cm、底面海拔高は174cmを測る。

遺物は弥生土器の甕63、高杯64、鉢65などが出土した。高杯64の外面調整は縦方向のハケメが認められるものであるが、壺の口縁部といった他器種の可能性も否定できない。時期は弥・中・Ⅰである。

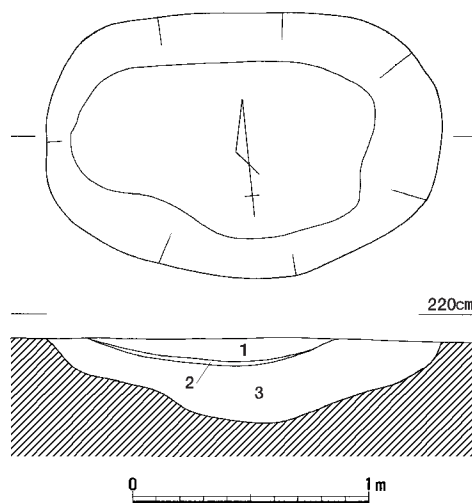
土壌11 (第6・20図、図版11)

調査区中央付近に位置する。平面形は隅丸長方形と思われ、短軸119cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは39cm、底面海拔高は169cmを測る。

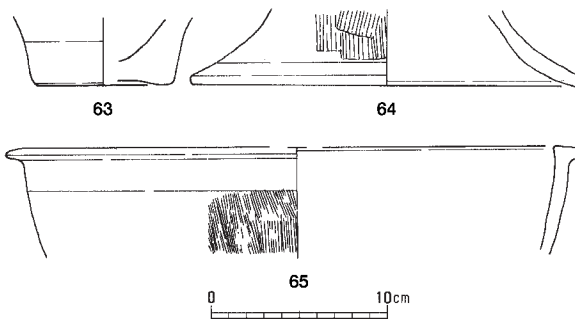


- 1 黒褐色砂質土
(地山ブロックを含む)
- 2 淡灰褐色砂質土
(地山ブロックを含む)

第18図 土壌9 (1/30)・出土遺物 (1/3)



- 1 黒褐色砂質土
(焼土を含む)
- 2 黒色炭層
- 3 灰黒褐色砂質土
(地山ブロックを含む)



第19図 土壌10 (1/30)・出土遺物 (1/4)

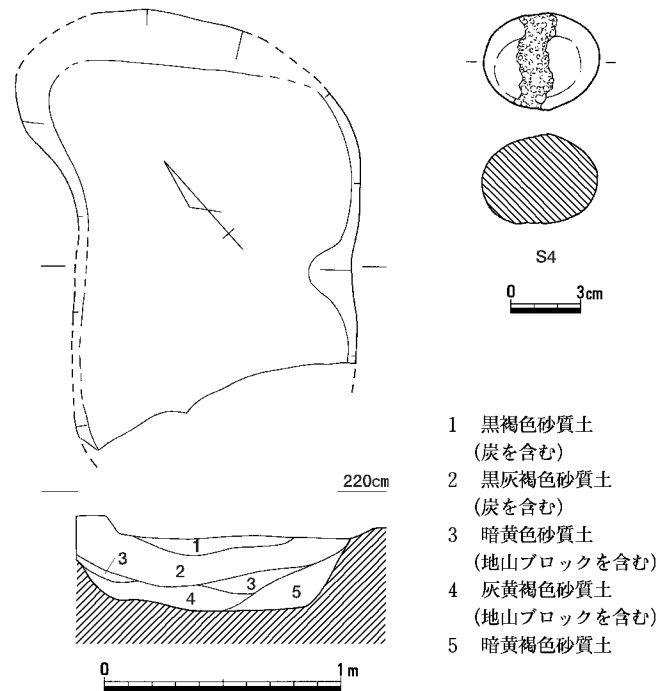
遺物は弥生土器の壺片、甕片、高杯片や敲打による溝状痕が認められる石錘S4などが出土した。時期は弥・中・Ⅱと思われる。

土壙12 (第6・21図)

調査区中央付近に位置する。平面形は楕円形と思われ、短軸136cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは48cm、底面海拔高は150cmを測る。

断面観察から第6層と第7層の間に埋没の時期差が窺える。また、上位の土層の埋土には、炭や焼土が含まれる。

遺物は弥生土器の壺片、甕66、高杯片、台付鉢67などが出土した。時期は弥・中・Ⅱである。



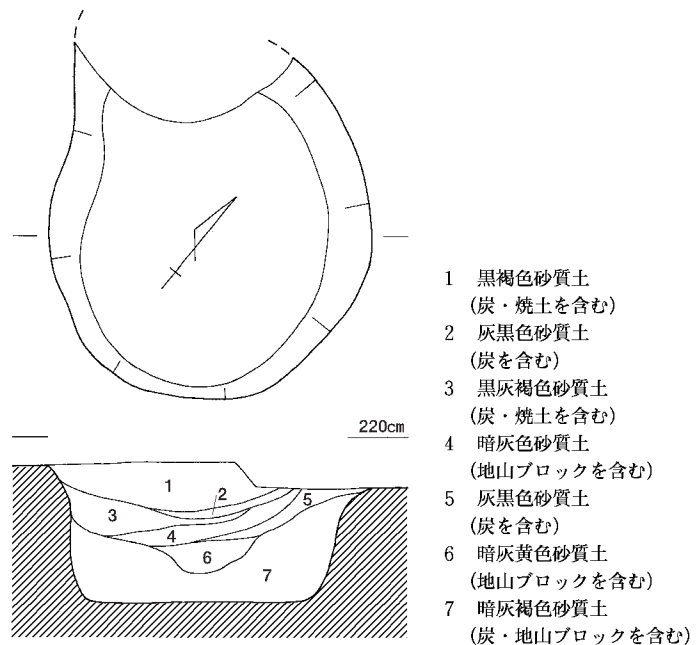
第20図 土壙11 (1/30)・出土遺物 (1/3)

土壙13 (第6・22図)

調査区中央付近に位置する。平面形は楕円形と思われ、長軸216cm、短軸140cmを測る。

断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは30cm、底面海拔高は181cmを測る。また、第2、3層は炭、焼土を多く含んでいた。

凶化し得る遺物はなかったが、弥生土器の壺片、甕片が出土した。時期は弥・中・Ⅱと思われる。

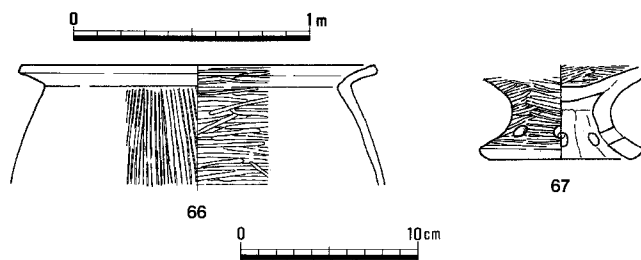


土壙14 (第6・23図)

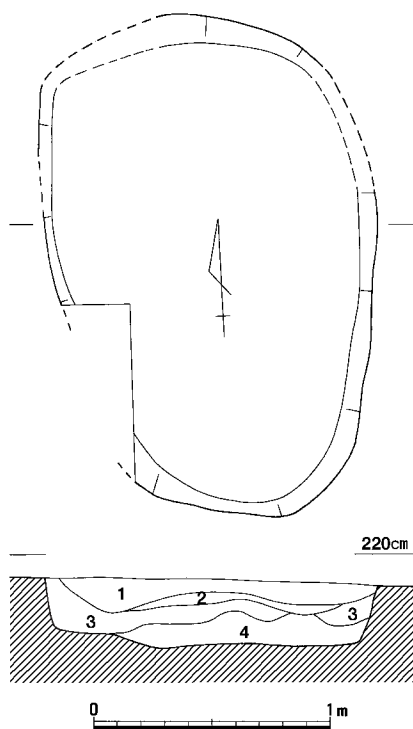
調査区中央付近に位置する。平面形は円形を呈し、長軸145cm、短軸132cmを測る。

断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは65cm、底面海拔高は145cmを測る。

凶化し得る遺物はなかったが弥生土器の壺片、甕片が出土した。時期は弥・中・Ⅱと思われる。

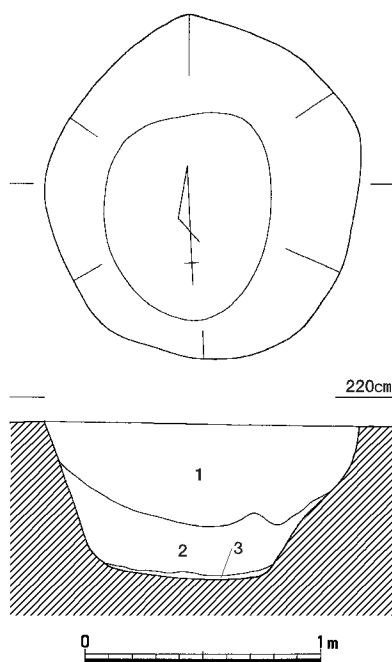


第21図 土壙12 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色砂質土 (炭・焼土を含む) | 3 淡灰褐色砂質土 (炭・焼土を含む) |
| 2 灰黒色砂質土 (炭を多く含む、焼土を含む) | 4 灰黄色砂質土 |

第22図 土壌13 (1/30)



- | |
|-------------------------|
| 1 黒褐色砂質土 (地山ブロックを含む) |
| 2 淡黄灰色砂質土 |
| 3 淡灰色砂質土 (炭を含む) |

第23図 土壌14 (1/30)

土壌15 (第6・24図)

調査区南側中央付近に位置する。平面形は楕円形と思われる。断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは45cm、底面海拔高は173cmを測る。また、第5層は黒色炭層である。

図化し得る遺物はなかったが、弥生土器の壺片、甕片が出土した。時期は弥・中・Ⅱと思われる。

土壌16 (第6・25・26・27図、図版8・9・12)

調査区南側中央付近に位置する。調査区の関係で完掘し得なかったために、規模は不明であるが、極めて大形であるといえる。平面形は楕円形と思われ、断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは62cm、底面海拔高は142cmを測る。

断面観察から第5層と第6層の間に埋没の時期差が窺え、遺物の出土は主に第6層以下からのものが多く認められた。また、第7層では黒色炭層が厚く堆積していた。こうした状況において、甕、水差などの残存状況はほぼ完形品のものが多くみられることから、これらの土器は土壌が掘削された早い段階で一括して投棄されたものと考えられる。

遺物は弥生土器の壺68～71、甕72～85、高杯86～89、台付鉢90・91、水差92・93や焼土塊、獣骨(ニホンジカ)などが多量に出土した。土器の特徴をみると、土壌5で指摘したように、甕79・81・83・84の外周肩部から胴部上半付近にはタタキメがみられ、その内面側ではユビオサエまたはそれに準じる器面の凹凸がみられた。また、甕76・79～81・84の内面調整をみると、胴部下半に縦方向のヘラケズリが行われた後、やや粗いヘラミガキあるいは板状工具か指によるナデを施したような状

況が認められた。一方、甕85は、外面体部の中央付近にのみ、ススや被熱痕跡が認められ、その内面には、被熱によって中央から同心円的に広がった変色と炭化物の付着がみられた。このことから、半欠状態の体部を横にして土鍋のように使用したと思われる。時期は弥・中・Ⅱである。

土壌17 (第6・28図)

調査区中央付近に位置する。平面形は楕円形と思われる。断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは32cm、底面海拔高は176cmを測る。断面観察から中位の土層には炭層が認められた。

遺物は弥生土器の壺片、甕片や砥石S5などが出土した。時期は弥・中・Ⅱと思われる。

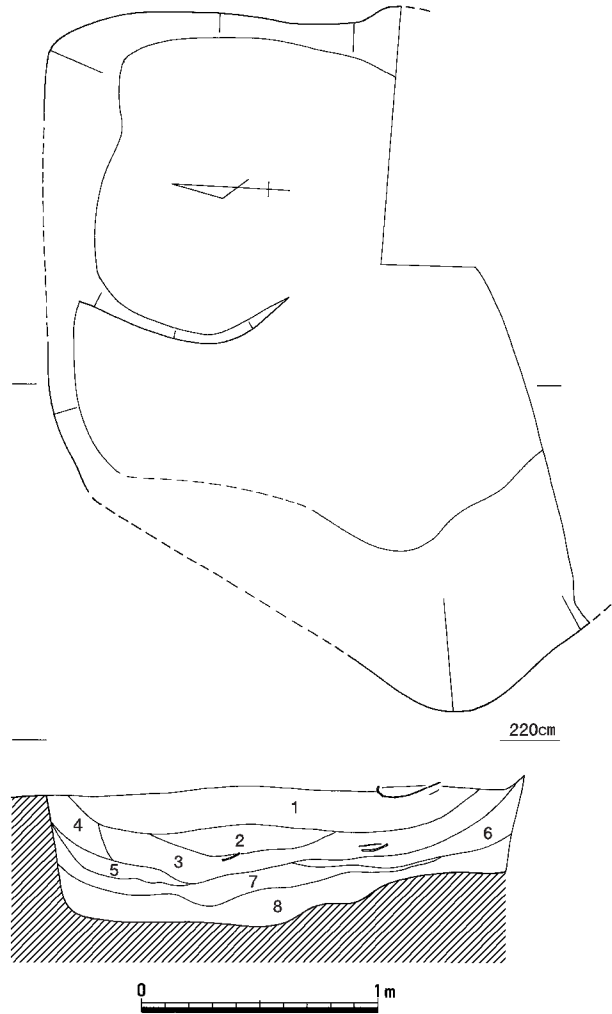
土壌18 (第6・29図)

調査区中央付近に位置する。平面形は隅丸長方形と思われ、短軸84cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは39cm、底面海拔高は162cmを測る。

遺物は弥生土器の壺94、甕95、高杯片、鉢96や床面から獣骨（ニホンジカ）などが出土した。時期は弥・中・Ⅰである。

土壌19 (第6・30・31図、図版5-1・10・12)

調査区中央東側に位置する。平面形は楕円形で、長軸82cm、短軸72cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもち、深さは

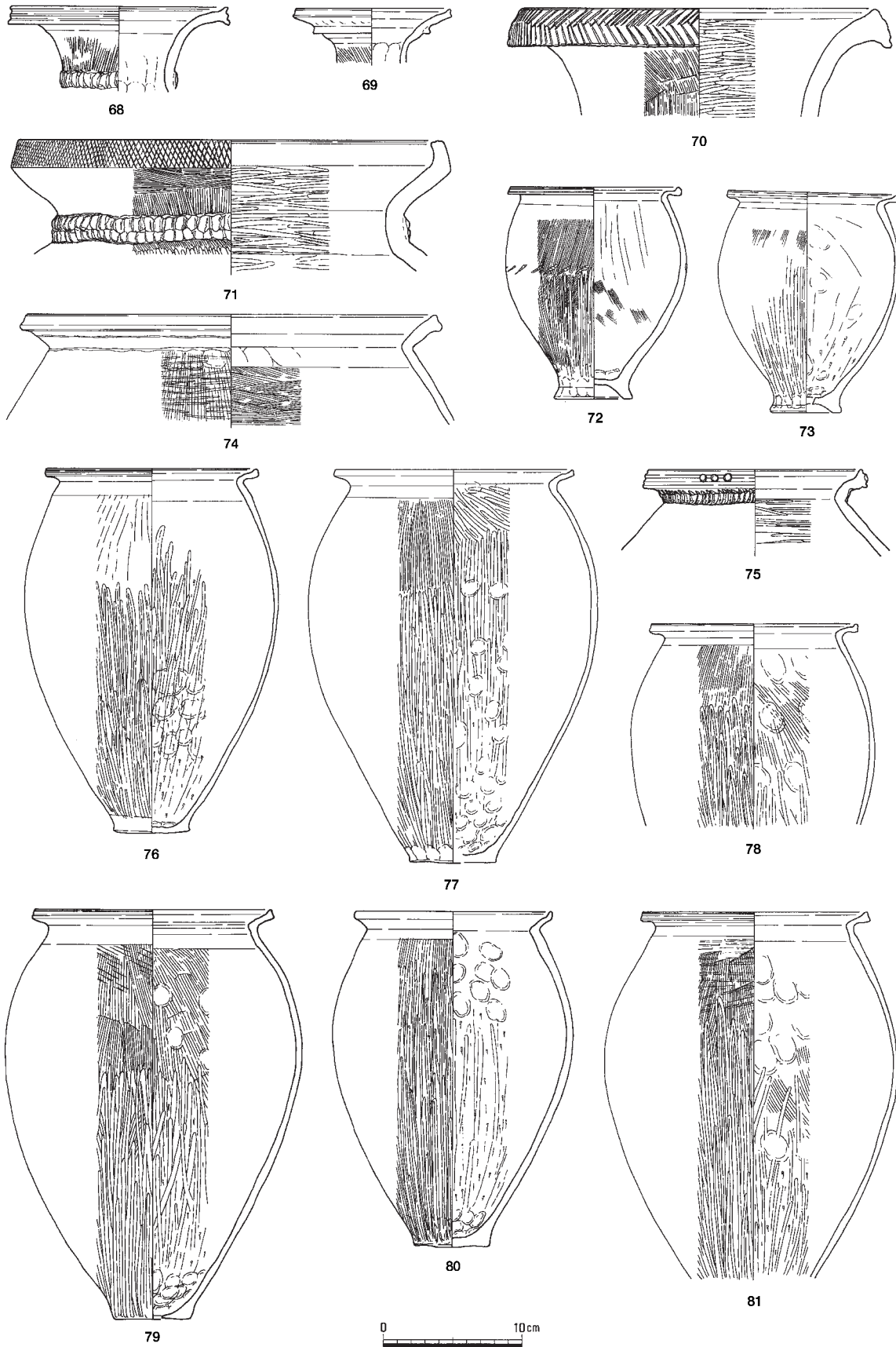


- 1 暗褐色砂質土
- 2 黄色砂質土
- 3 暗灰褐色砂質土
(炭・焼土を含む)
- 4 灰黒色砂質土
- 5 黒色炭層
- 6 暗灰黒色砂質土
(炭・焼土・地山ブロックを含む)

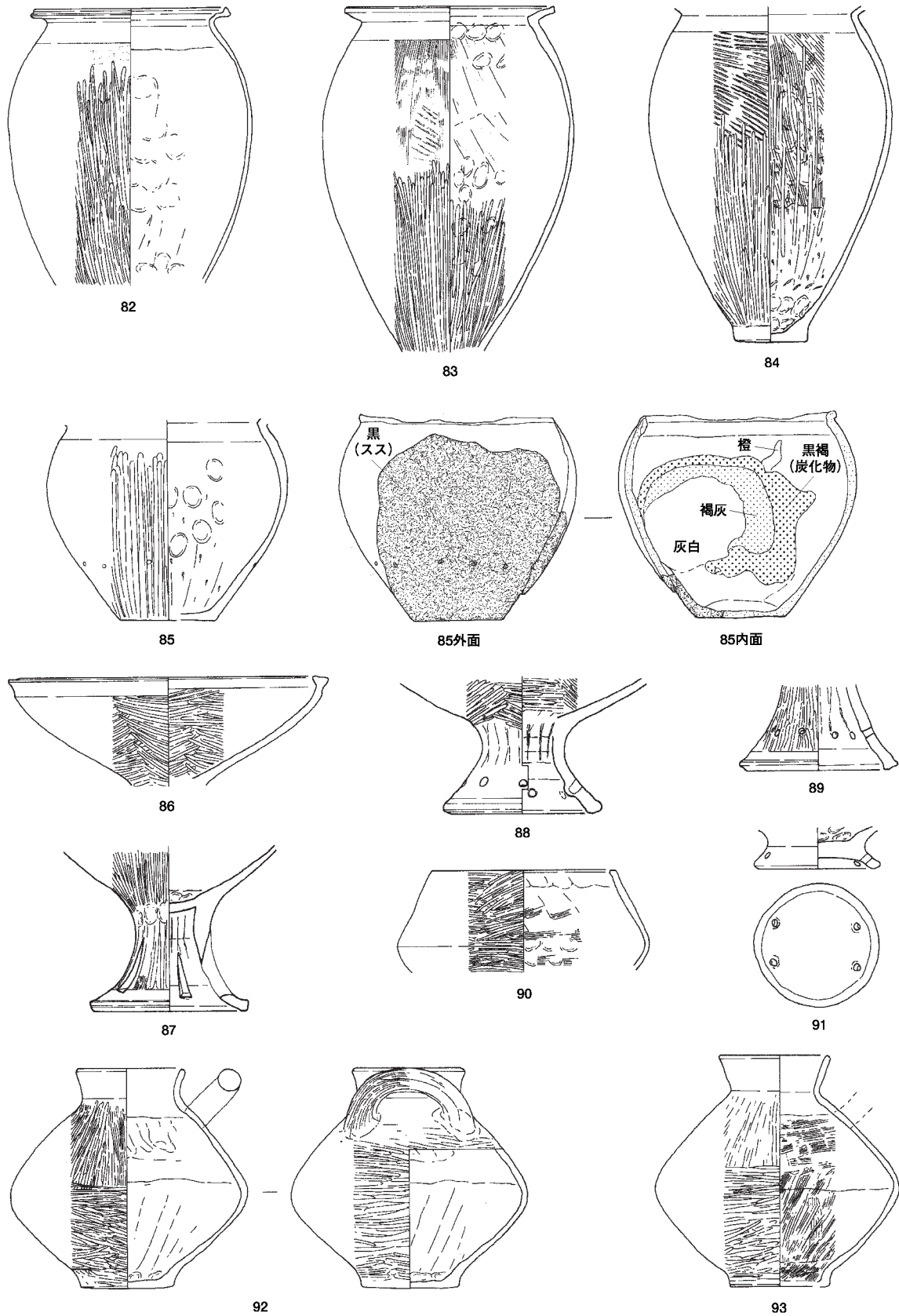
- 1 黒褐色砂質土
- 2 黒褐色砂質土
(炭を含む)
- 3 褐灰色砂質土
- 4 明黄褐色砂質土
- 5 黒褐色砂質土
- 6 黄灰色砂質土
- 7 黒色炭層
- 8 黄灰色砂質土
(地山ブロックを含む)

第24図 土壌15 (1/30)

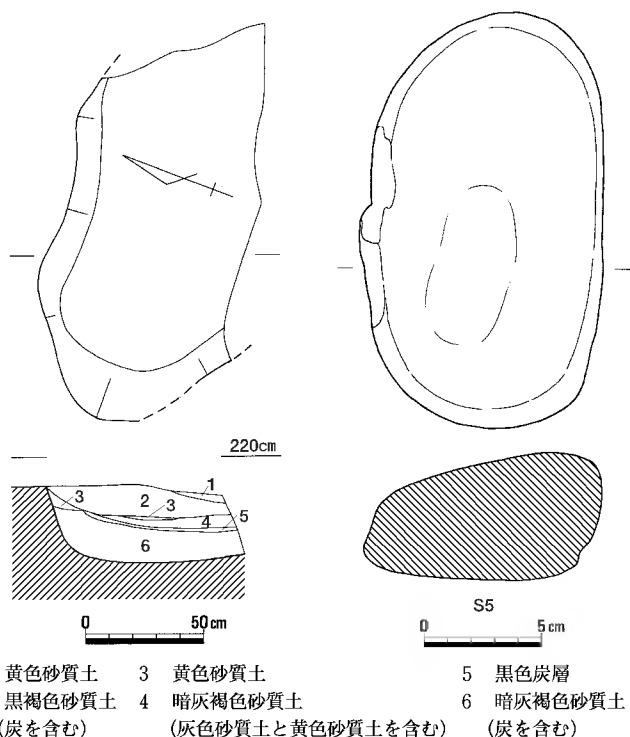
第25図 土壌16 (1/30)



第26図 土壙16出土遺物① (1/4)



第27図 土壙16出土遺物② (1/4)



第28図 土壌17 (1/30)・出土遺物 (1/3)

30cm、底面海拔高は191cmを測る。土壙内部には多量の土器片が重層的に堆積しており、状況的には一括投棄されたものと思われる。

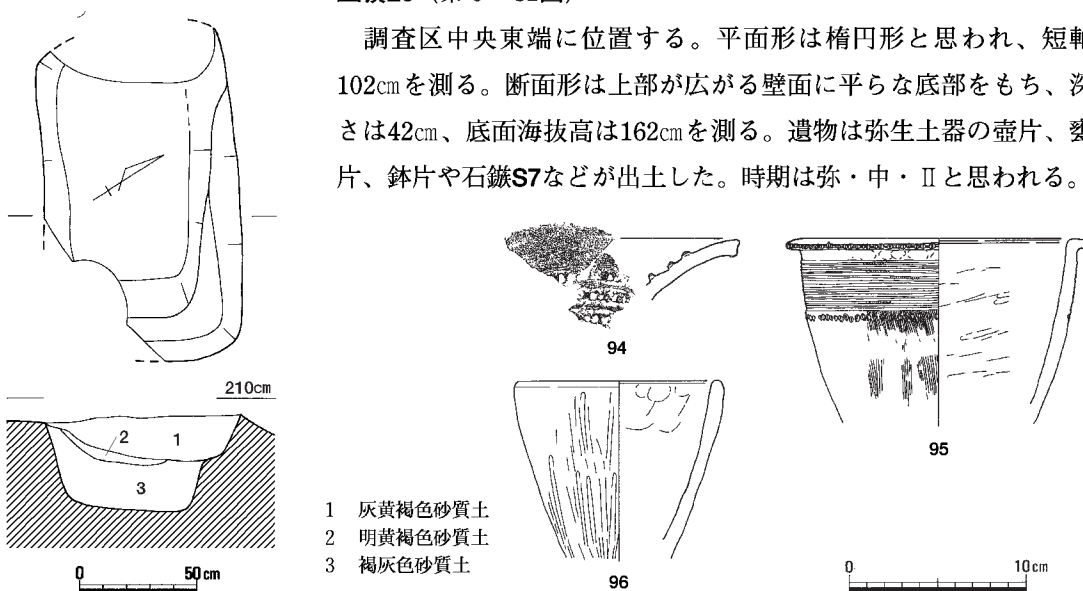
遺物は弥生土器の壺97～111・118・121、甕112～117・119・120、高杯122～127、鉢128・129や蛤刃石斧S6、被熱痕跡をもつ砥石が出土した。

土器の特徴をみると、壺97～100には、頸胴部に断面形が台形の貼付突帯文が施されている。このうち、壺97～99には、貼付突帯文の上に押圧文が認められるが、壺100にはみられない。また、壺101～106には三角形の貼付突帯文が施されている。

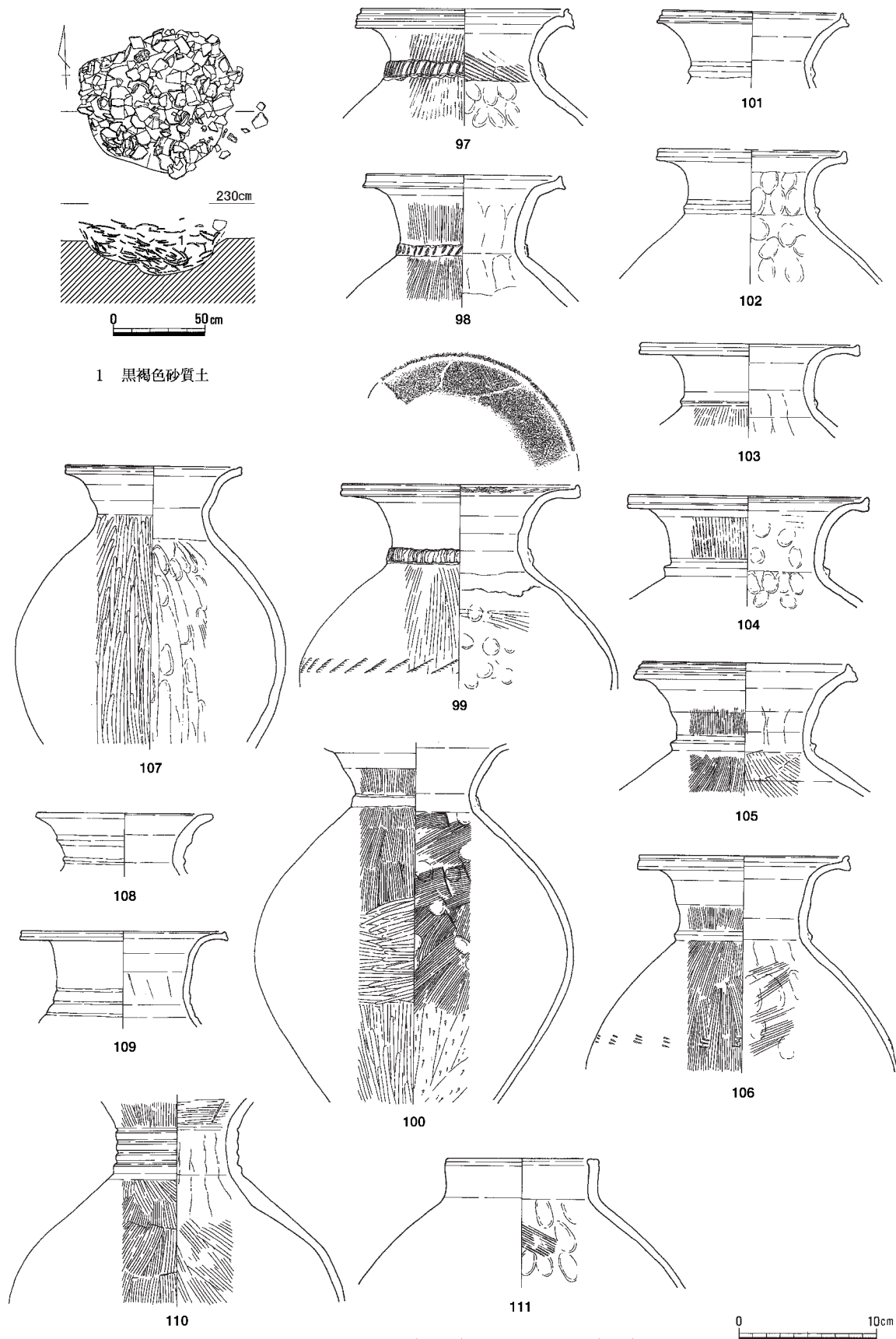
一方、壺100・105～107の頸部には、成形段階のやや強いヨコナデによって、緩やかな凹凸面が形成されている。また、壺108は板状工具による強いヨコナデのために器面の粘土が上下に隆起し、2条の突帯文を施した状況となっている。これらの一群は、頸部にヨコナデを行う指向性が窺え、技法が通じるB種凹線文の萌芽とも考えられる。壺109・110の頸部にはB種凹線文が施されるが、その形態や器壁の厚さに伴って技法が異なるためか、凹凸部の間隔や隆起に差異がみられる。高杯125・126の脚部内面には、横方向のヘラケズリがみられた。時期は弥・中・Ⅱである。

土壙20 (第6・32図)

調査区中央東端に位置する。平面形は楕円形と思われ、短軸102cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは42cm、底面海拔高は162cmを測る。遺物は弥生土器の壺片、甕片、鉢片や石鏃S7などが出土した。時期は弥・中・Ⅱと思われる。



第29図 土壙18 (1/30)・出土遺物 (1/4)



第30図 土壌19 (1/30)・出土遺物① (1/4)

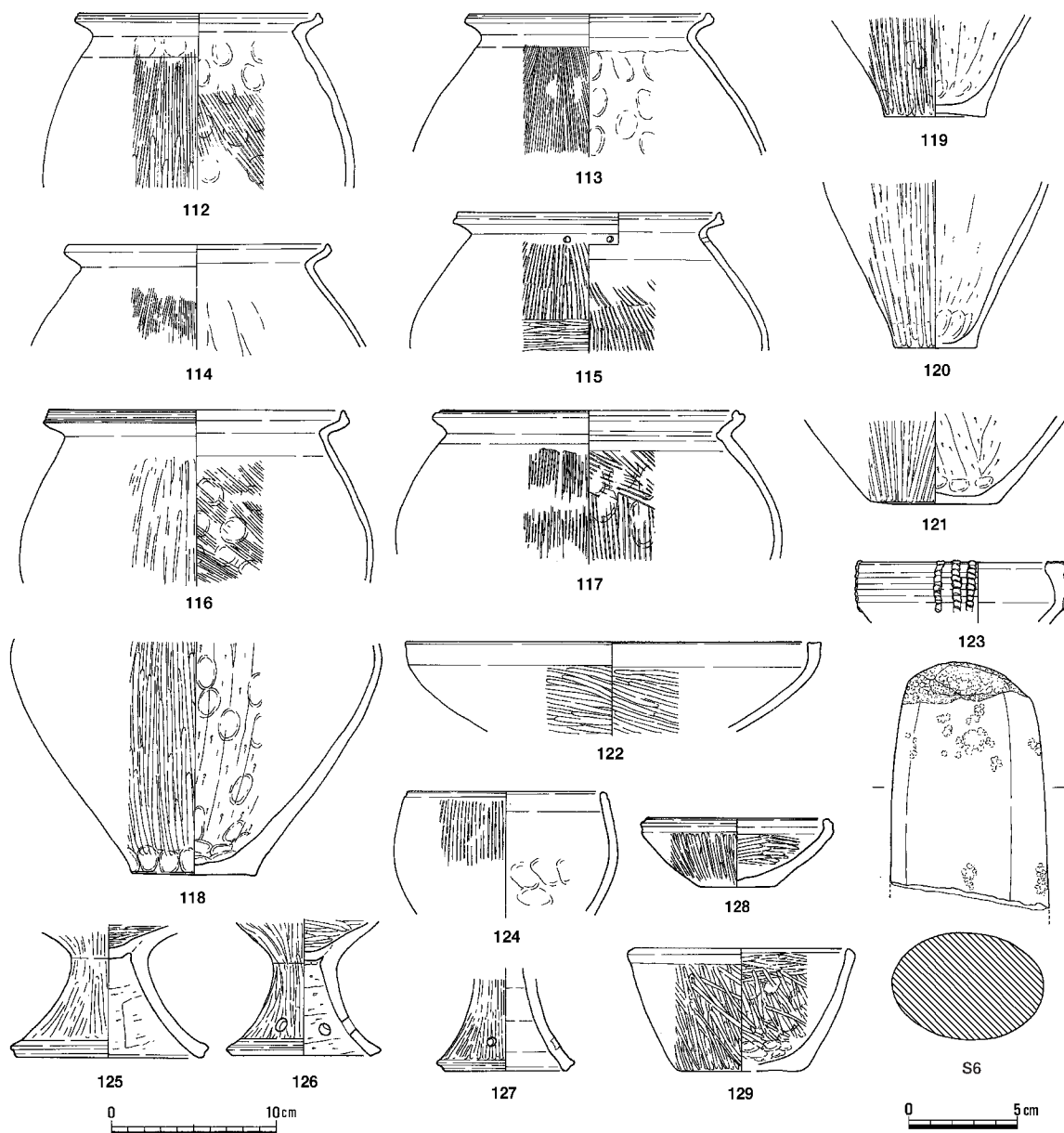
土壌21 (第6・33図)

調査区南東側に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸199cm、短軸145cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは74cm、底面海拔高は135cmを測る。図化し得る遺物はなかったが、弥生土器の壺片、甕片や獣骨(スズキ)などが出土した。時期は弥・中・Ⅱと思われる。

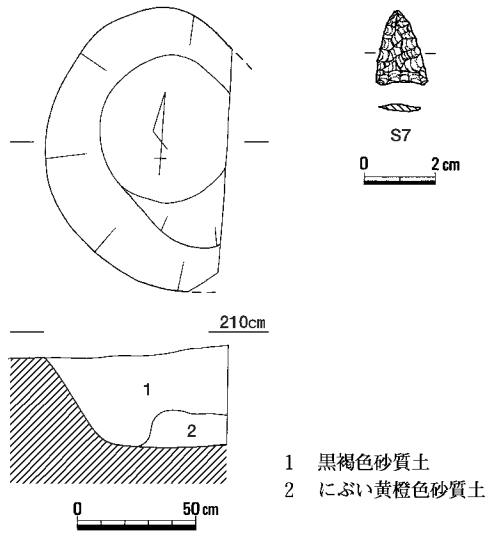
溝

溝1 (第6・34図)

調査区北側に位置し、水流方向は東から北西へ湾曲している。断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもち、上端幅35~96cm、下端幅10~27cmを測る。深さは12cmを測り、底面海拔高は219cmである。遺物は弥生土器の壺片、甕片、高杯片などが出土した。時期は弥・中・Ⅱと思われる。



第31図 土壌19出土遺物② (1/4・1/3)



第32図 土坑20 (1/30)・出土遺物 (1/2)

溝2 (第6・35図、図版11)

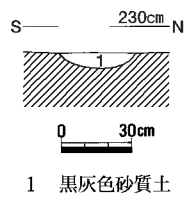
調査区中央付近に位置し、水流方向は溝1とほぼ並行であるが、西側の湾曲がやや強い。断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもち、上端幅27~54cm、下端幅7~18cmを測る。深さは15cmを測り、底面海拔高は210cmである。

遺物は弥生土器の壺片、甕130や分銅形土製品C4が出土した。時期は弥・中・Ⅱである。

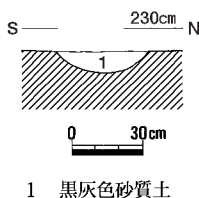
柱穴

柱穴1~3 (第6・36図、図版11)

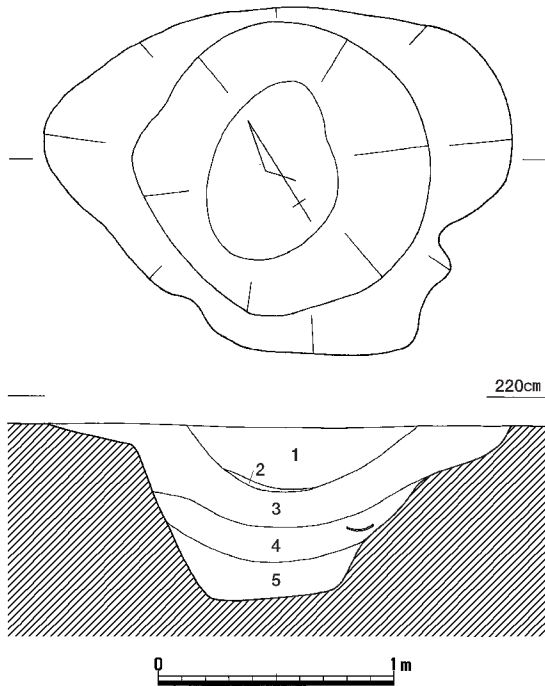
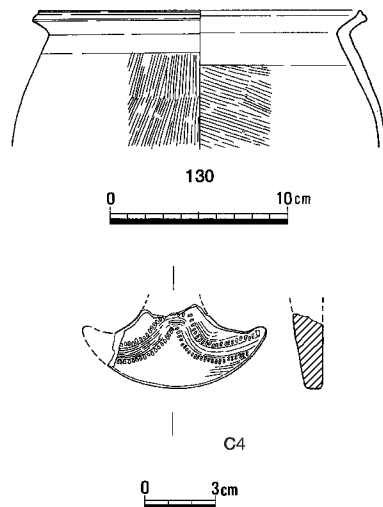
柱穴1からは、把手付鉢131が出土した。把手の挿入部は方形に面取りしたほぞが作られ、体部に



第34図 溝1 (1/30)

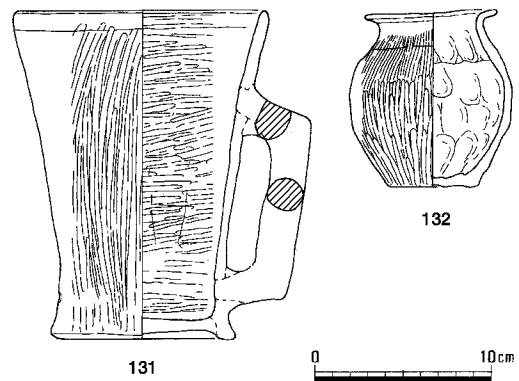


第35図 溝2 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/3)



- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1 黒灰色砂質土 (Mn沈着) | 4 淡褐色砂質土 (地山ブロックを含む) |
| 2 黒色炭層 | 5 灰黄褐色砂質土 (炭を含む) |
| 3 黒灰色砂質土 (Mn沈着) | |

第33図 土坑21 (1/30)

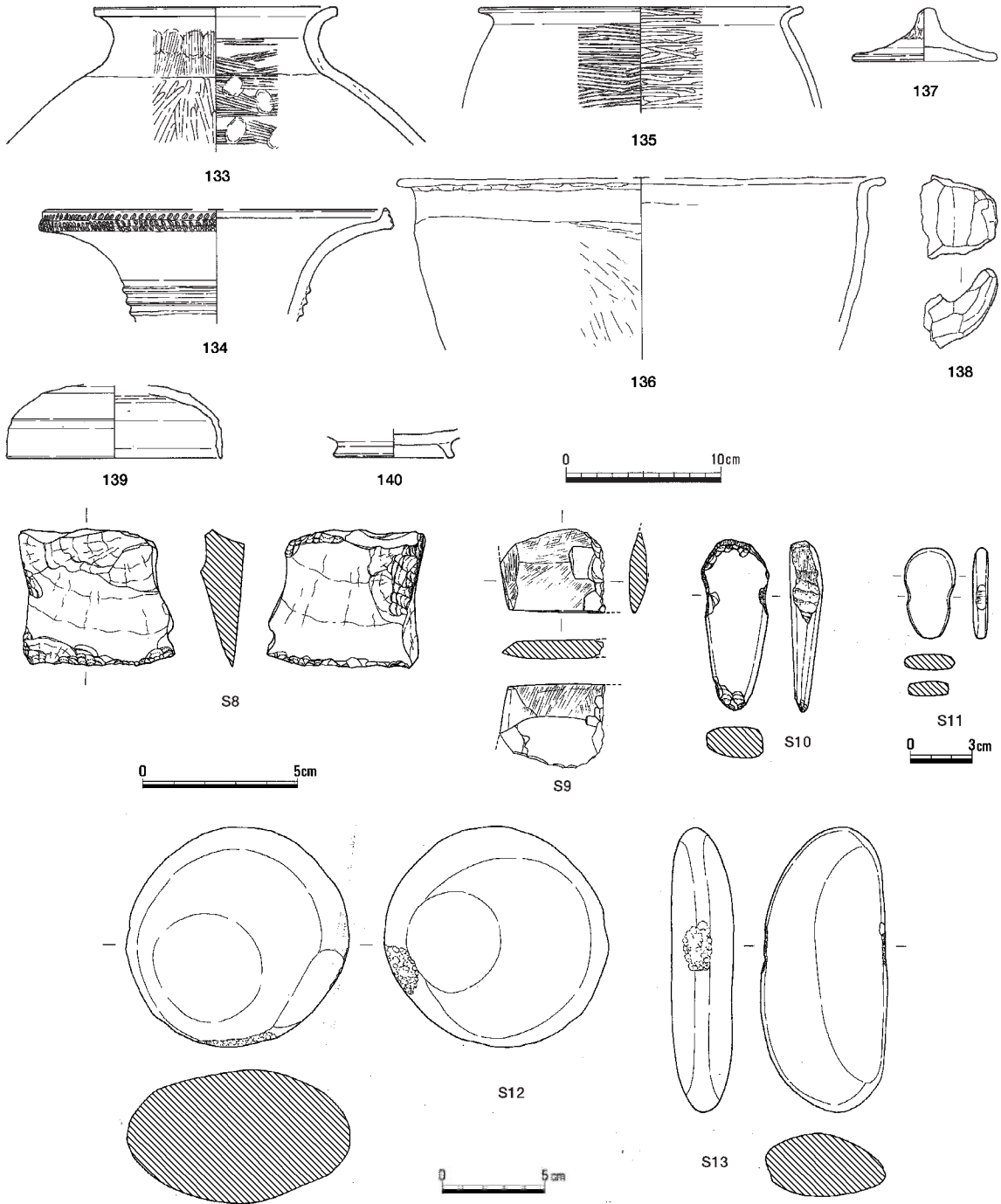


第36図 柱穴1・2出土遺物 (1/4)

開けた方形孔へ挿入後、粘土を充填している。このほか、柱穴2からは小形壺132が、柱穴3は獣骨が出土した。時期は弥・中・Ⅱと思われる。

遺構に伴わない遺物 (第37図、図版11)

図化し得た出土遺物として、弥生土器の壺133・134、甕135・136、蓋137、土師器の甕138、須恵器の杯蓋139、高台杯140、打製石包丁S8、磨製石剣S9、挟入り石器S10、分銅形石器S11、叩き石S12・S13などがある。他の調査区と比べて、弥・前・Ⅲ～弥・中・Ⅰの土器片も比較的認められた。



第37図 遺構に伴わない遺物 (1/4・1/2・1/3)

2 B区

概要 (第5・38図、図版1-3)

調査区は東西長2m、南北長4mを測る。遺構は土壇3基や柱穴・ピットなどを検出した。また、調査区の中央付近から南北方向に向かって、ゆるやかなたわみが認められた。遺物は弥生土器、石器などが出土した。

土壇

土壇22 (第38・39図)

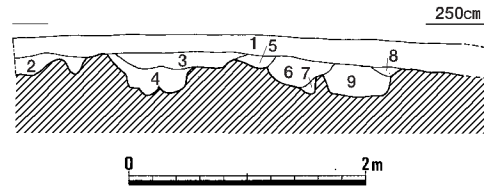
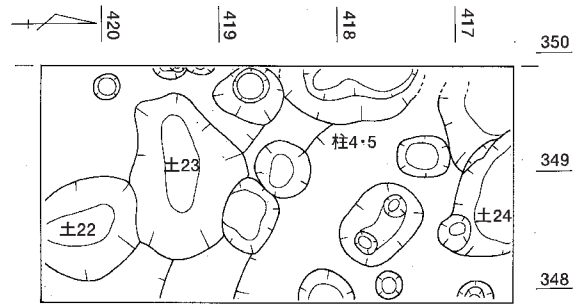
調査区南側中央付近に位置する。平面形は楕円形と思われ、短軸86cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは19cm、底面海拔高は190cmを測る。

遺物は弥生土器の壺片、甕141や焼土塊などが出土した。時期は弥・中・Iである。

土壇23 (第38・40図、図版11)

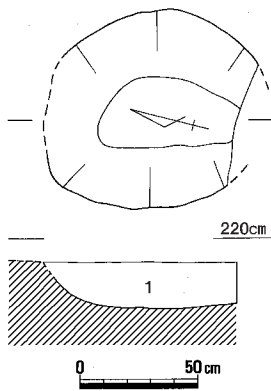
調査区中央付近に位置する。平面形は不整楕円形と思われ、長軸140cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもち、深さは33cm、底面海拔高は188cmを測る。

遺物は弥生土器の壺142、甕片や石鏃S14など

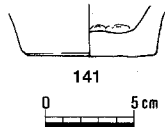


- | | |
|-----------|----------|
| 1 暗灰褐色砂質土 | 6 黄灰色砂質土 |
| 2 黒褐色砂質土 | 7 黒灰色砂質土 |
| 3 黒褐色砂質土 | 8 黄灰色砂質土 |
| 4 黒灰色砂質土 | 9 灰褐色砂質土 |
| 5 暗灰色砂質土 | |

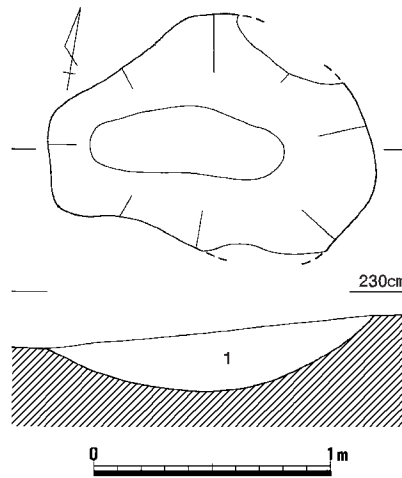
第38図 B区遺構配置および西壁断面 (1/60)



1 黄橙色砂質土

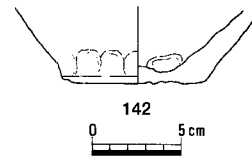


第39図 土壇22 (1/30)・
出土遺物 (1/4)



1 黒褐色砂質土

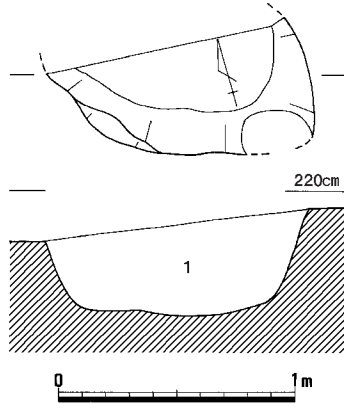
第40図 土壇23 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/2)



どが出土した。時期は弥・中・Ⅰと思われるが、弥・前・Ⅲまでさかのぼる可能性がある。

土壌24 (第38・41図)

調査区北側中央付近に位置する。平面形は楕円形と思われる。断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもち、深さは45cm、底面海拔高は168cmを測る。調査区の関係のため、遺構全体を完掘できなかった。遺物は弥生土器の壺143、甕144~146などが出土した。時期は弥・中・Ⅱである。



1 黄橙色砂質土

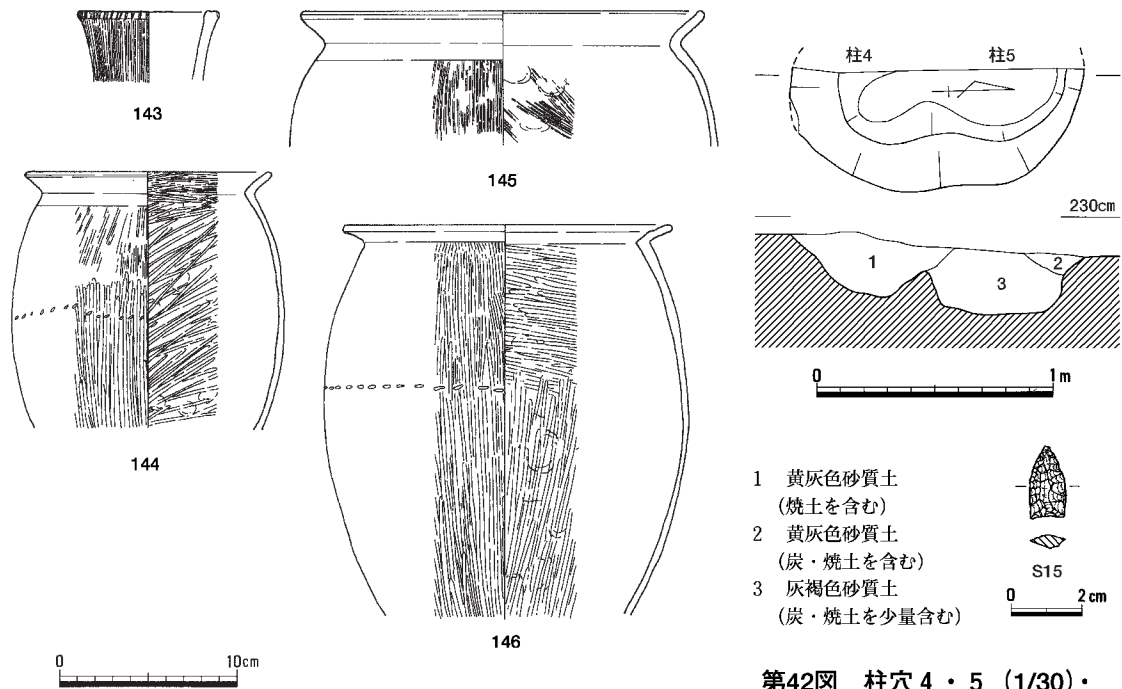
柱穴

柱穴4・5 (第38・42図、図版11)

調査区西側中央付近に位置する。平面形は不整円形を呈し、断面形はいずれも上部が広がる壁面に平らな底部をもつ。遺物は石鏃S15などが出土した。時期は弥・中・Ⅱと思われる。

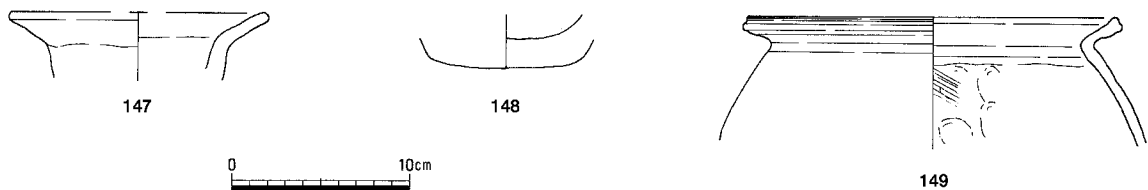
遺構に伴わない遺物 (第43図)

図化し得た出土遺物は、弥生土器の壺147、甕148・149などがある。また、弥・前・Ⅲ~弥・中・Ⅰの土器片も比較的認められた。



第41図 土壌24 (1/30)・出土遺物 (1/4)

第42図 柱穴4・5 (1/30)・
出土遺物 (1/2)



第43図 遺構に伴わない遺物 (1/4)

3 C区

概要 (第5・44図、図版2-1)

調査区は東西長2m、南北長4mを測る。遺構は土壇4基や柱穴・ピットを検出した。遺物は弥生土器、石器が出土した。

土壇

土壇25 (第44・45図)

調査区北側中央に位置する。平面形は楕円形で、断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもつ。深さは41cm、底面海拔高は169cmを測る。

遺物は弥生土器の壺151、甕150、台付鉢152などが出土した。時期は弥・中・IIである。

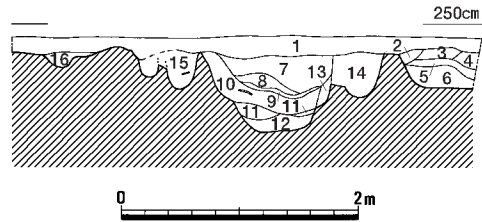
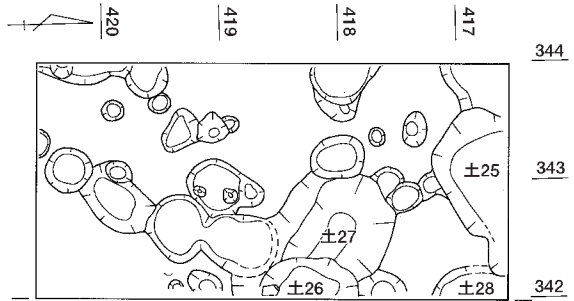
土壇26 (第44・46図)

調査区東側中央に位置する。平面形は楕円形で、断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもつ。深さは61cm、底面海拔高は156cmを測る。遺物は弥生土器の壺片、甕153~156、高杯157、台付鉢158が出土し、時期は弥・中・IIである。

土壇27 (第44・46図)

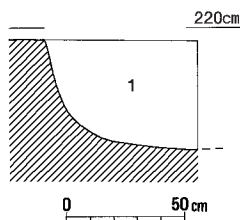
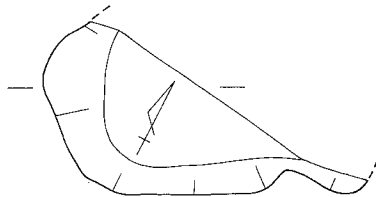
調査区中央に位置する。平面形は楕円形と思われる、短軸75cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもつ。深さは53cm、底面海拔高は163cmを測る。

遺物は弥生土器の壺片、甕159・160、高杯161~163や焼土塊などが出土した。時期は弥・中・IIである。

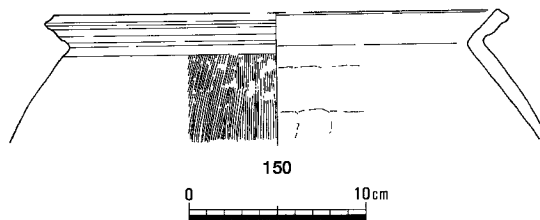


- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 暗灰褐色砂質土 | 8 灰色砂質土 |
| 2 暗灰色砂質土 (炭・焼土を含む) | (焼土を含む) |
| 3 灰色砂質土 (焼土を多く含む) | 9 黒色炭層 |
| 4 暗灰色砂質土 (炭・焼土を含む) | 10 黒褐色砂質土 (焼土・炭を多く含む) |
| 5 灰褐色砂質土 (焼土を多く含む) | 11 黄褐色砂質土 |
| 6 黄灰色砂質土 (焼土・炭を少量含む) | 12 黄灰色砂質土 (炭を含む) |
| 7 黒褐色砂質土 (焼土・炭を含む) | 13 暗黄灰色砂質土 |
| | 14 灰色砂質土 (焼土・炭を少量含む) |
| | 15 暗灰色砂質土 |
| | 16 黄灰色砂質土 |

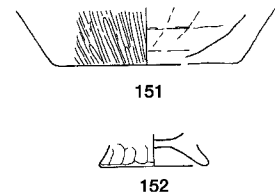
第44図 C区遺構配置および東壁断面 (1/60)



1 黒褐色砂質土



第45図 土壇25 (1/30)・出土遺物 (1/4)

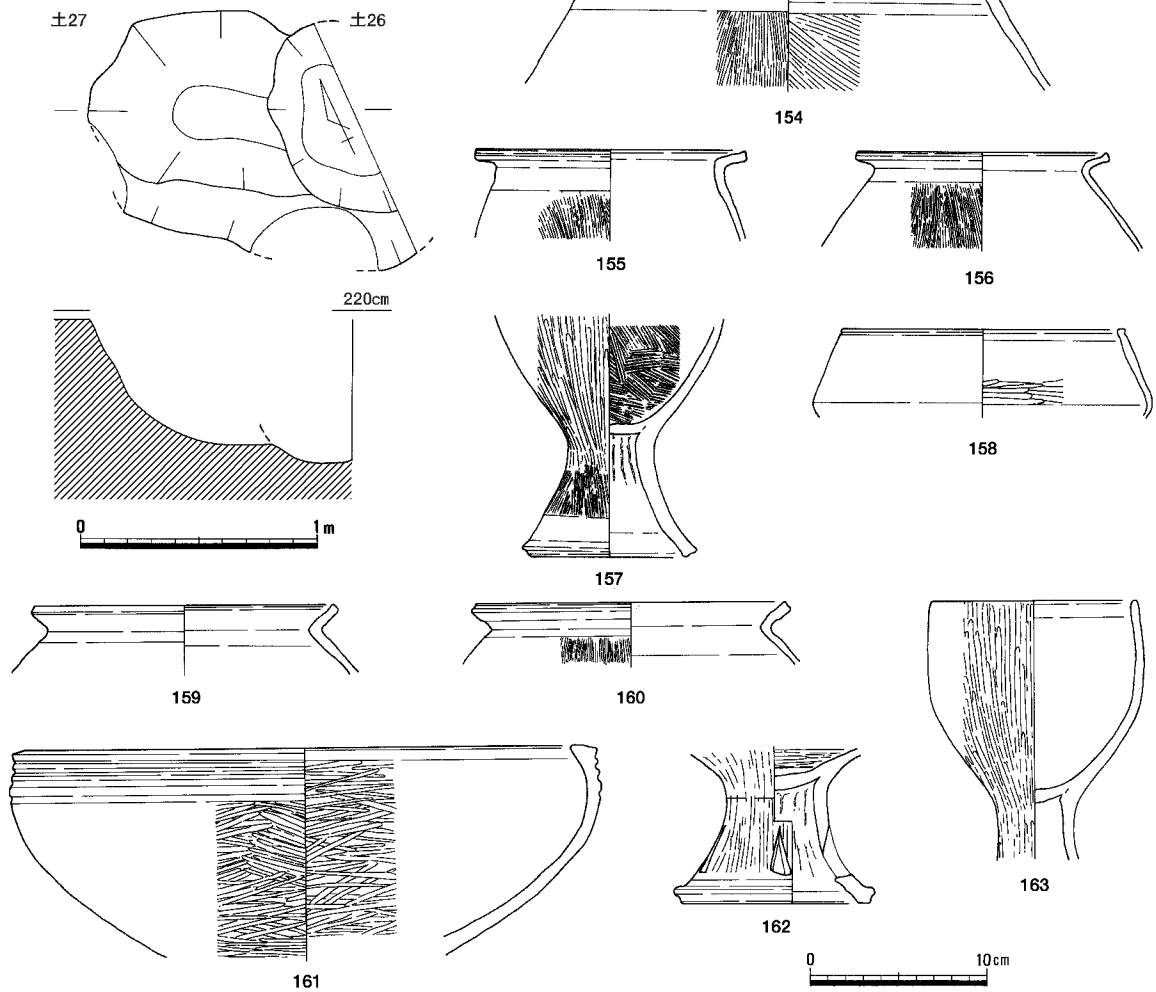


土壌28 (第44・47図)

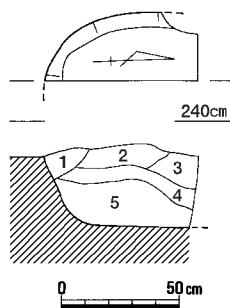
調査区北東端に位置し、平面形は楕円形で、断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもつ。深さは35cm、底面海拔高は195cmを測る。埋土に炭、焼土を多く含む。時期は弥・中・Ⅱと思われる。

遺構に伴わない遺物 (第48図、図版11)

図化し得た遺物は、石鏃S16がある。



第46図 土壌26・27 (1/30)・出土遺物 (1/4)



- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 暗灰色砂質土 (炭・焼土を含む) | 4 灰褐色砂質土 (焼土を多く含む) |
| 2 灰色砂質土 (焼土を多く含む) | 5 黄灰色砂質土 (炭・焼土を少量含む) |
| 3 暗灰色砂質土 (炭・焼土を含む) | |

第47図 土壌28 (1/30)



第48図 遺構に伴わない遺物 (1/2)

4 D・E区

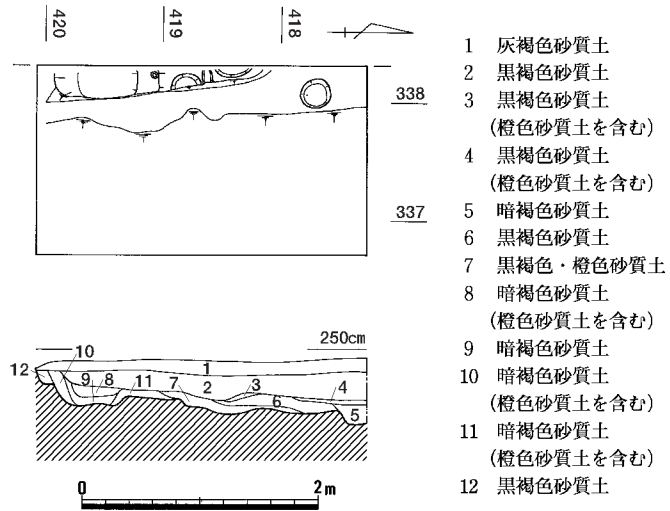
概要 (第5・49図、図版2-2)

D区、E区はともに東西長1.6m、南北長2.8mを測る。

D区は旧国立岡山病院本館の出入口西側に、E区は東側に位置するが、それぞれ、この出入口付近の工事によると思われる攪乱を大きく受けていた。

ただし、D区西壁の土層断面では、南側から深さ約40cmの掘り込みが確認された。また、底面では柱穴・ピットなどが検出されたことから、同所にも遺構が存在していたと考えられる。

一方、E区は、基盤層下となる海拔高約170cmまで掘り下げを行なったが、全体に攪乱土によって埋められていたことから、遺構は検出できなかった。

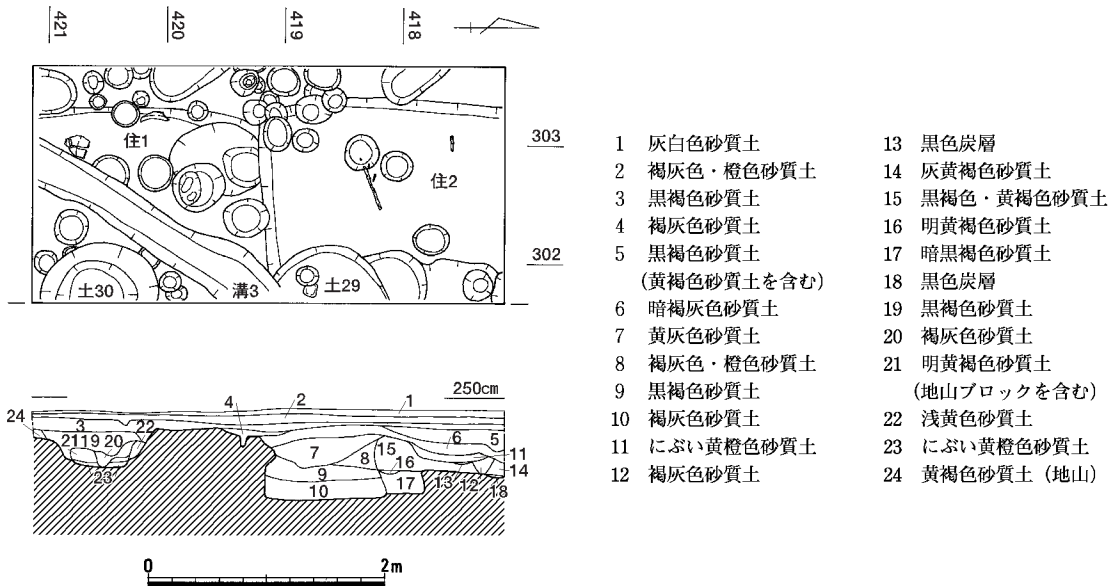


第49図 D区遺構配置および西壁断面 (1/60)

5 F区

概要 (第5・50図、図版2-3)

調査区は東西長2m、南北長4mを測る。遺構は竪穴住居2軒、土壇2基、溝1条や柱穴・ピットなどを検出した。また、遺物は弥生土器、土師器、土製品、石器、金属器などが出土した。



第50図 F区遺構配置および東壁断面 (1/60)

竪穴住居

竪穴住居 1 (第50・51図)

調査区南側に位置する。平面形は掘り方、床面とも円形と思われる。断面形は床面からやや外方に立ち上がり、深さは9cm、底面海拔高は212cmを測る。遺物は弥生土器の壺片、床面直上で甕164・165などが出土した。時期は弥・中・Ⅱである。

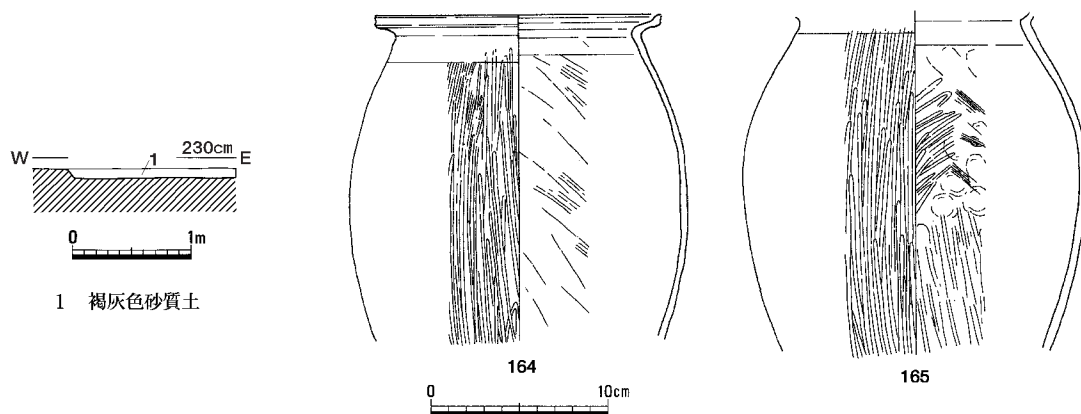
竪穴住居 2 (第50・52図)

調査区北側に位置する。平面形は掘り方、床面とも方形と思われ、主軸はN-4°-Eをとる。断面形は床面からやや外方気味に立ち上がり、深さは30cm、底面海拔高は190cmを測る。床面では炭化材を確認した。遺物は土師器の甕166、鉢167、台付鉢168、器台169や床面直上で検出した刀子と思われるM1などが出土した。時期は古・前・Ⅱである。

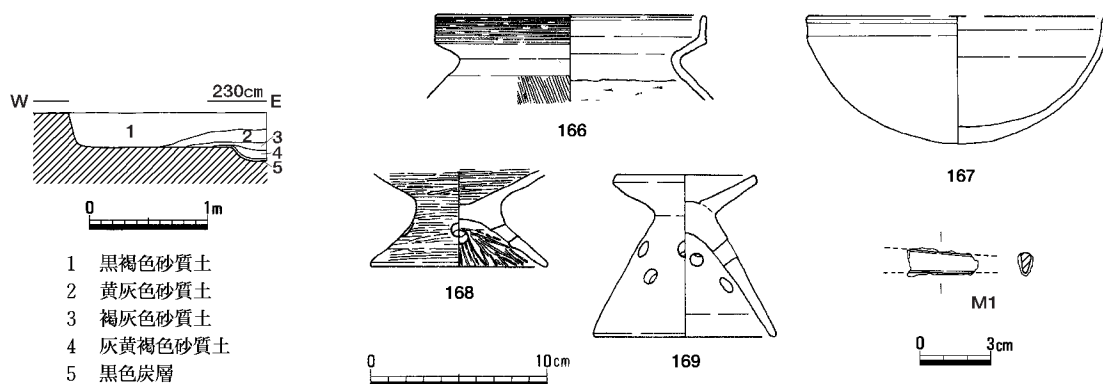
土壌

土壌29 (第50・53図)

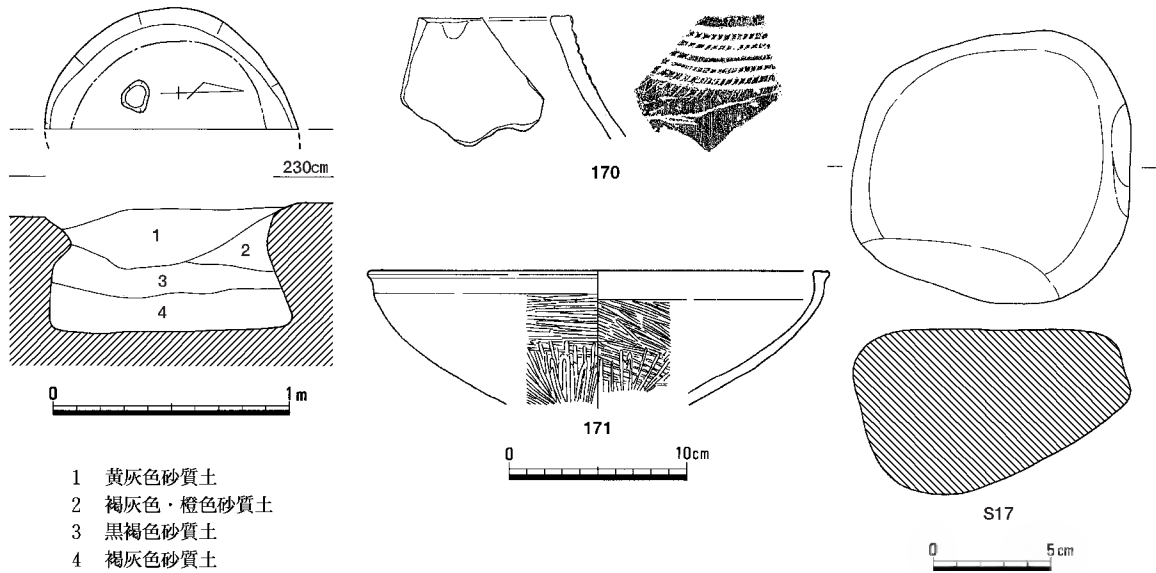
調査区東側中央付近に位置する。平面形は円形と思われ、長軸108cmを測る。断面形は下部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは52cm、底面海拔高は164cmを測る。断面観察から第2層と第3層の間に埋没の時期差が窺える。遺物は弥生土器の壺170、甕片、高杯171や砥石S17などが出土した。時期は弥・中・Ⅱである。



第51図 竪穴住居 1 (1/60)・出土遺物 (1/4)



第52図 竪穴住居 2 (1/60)・出土遺物 (1/4・1/3)

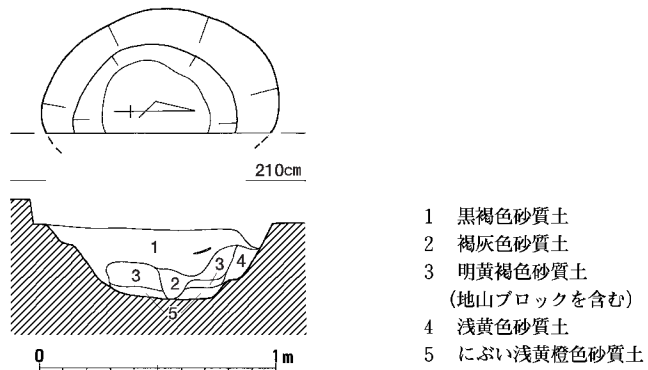


第53図 土壌29 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/3)

土壌30 (第50・54図)

調査区南東側に位置する。平面形は楕円形と思われ、長軸100cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に平らな底部を持ち、深さは32cm、底面海拔高は160cmを測る。

遺物は弥生土器の壺片、甕172、高杯173や焼土塊などが出土した。時期は弥・中・Ⅱである。



溝

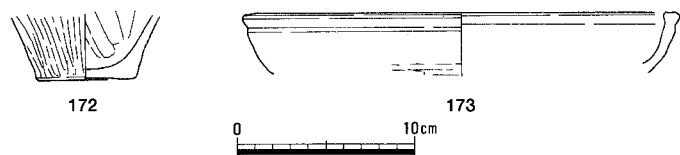
溝3 (第50・55図)

調査区南東側に位置し、水流方向は北東から南西であったと思われる。断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもち、上端幅は32~46cm、下端幅は9~14cmを測る。深さは8cmを測り、底面海拔高は210cmである。

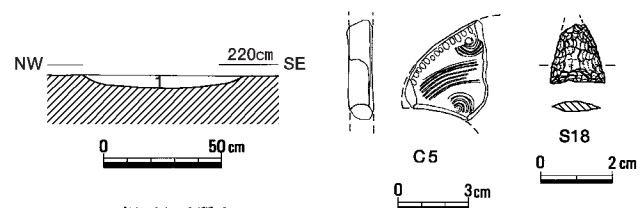
図化し得る遺物はなかったが、弥生土器の壺片、甕片などが出土した。時期は弥・中・Ⅱである。

遺構に伴わない遺物 (第56図)

図化し得た出土遺物では、分銅形土製品C5、石鏃S18がある。



第54図 土壌30 (1/30)・出土遺物 (1/4)



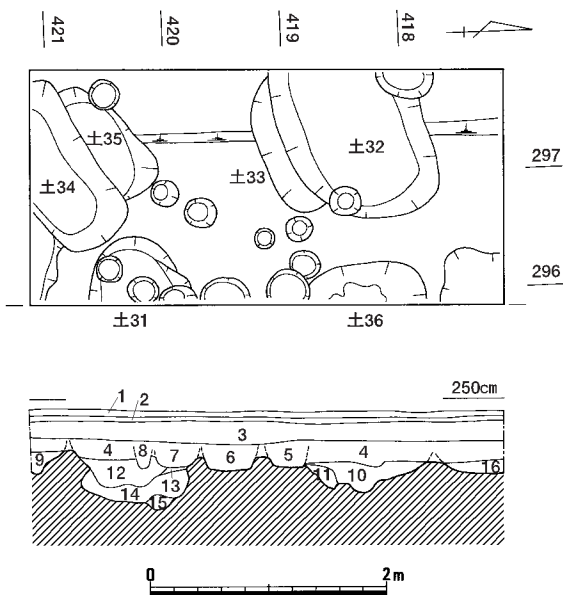
1 褐灰色砂質土

第55図 溝3 (1/30)

第56図 遺構に伴わない遺物

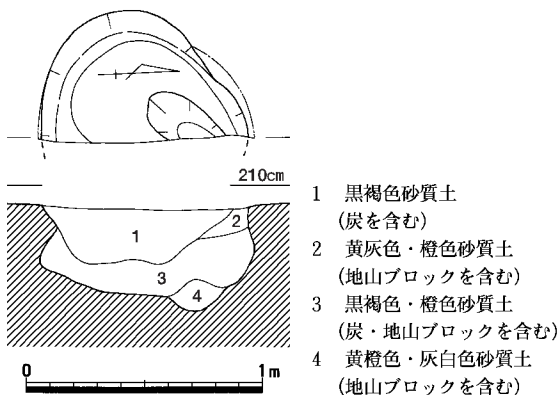
(1/3・1/2)

6 G区



- | | |
|----------------|-------------------------------|
| 1 灰白色砂質土 | 12 黒褐色砂質土 (炭を含む) |
| 2 明赤褐色砂質土 | 13 黄灰色・橙色砂質土 (地山ブロックを含む) |
| 3 黒褐色砂質土 | 14 黒褐色・橙色砂質土 (炭・地山ブロックを含む) |
| 4 褐灰色砂質土 | 15 黄橙色・灰白色砂質土 (地山ブロックを含む) |
| 5 暗灰色砂質土 | 16 褐色・明黄褐色砂質土 (地山ブロックを含む) |
| 6 暗灰色砂質土 | |
| 7 暗灰色砂質土 | |
| 8 暗灰色砂質土 | |
| 9 黒褐色砂質土 | |
| 10 暗褐色砂質土 | |
| 11 褐灰色・明黄橙色砂質土 | |

第57図 G区遺構配置および東壁断面 (1/60)



第58図 土壙31 (1/30)

概要 (第5・57図、図版3-1)

調査区は東西長2m、南北長4mを測る。調査区西側の3割近くが攪乱を受けていたが、基盤層下まで達していなかったため、この範囲についても遺構を確認することが可能であった。

遺構は土壙6基や柱穴・ピットなどを検出した。また、遺物は弥生土器、土製品、石器などが出土した。

土壙

土壙31 (第57・58図)

調査区南東側に位置する。平面形は円形と思われる、長軸88cmを測る。断面形は下部が広がる壁面に窪む底部をもち、深さは45cm、底面海拔高は157cmを測る。

図化し得る遺物はなかったが、弥生土器の壺片、甕片、高杯片などが出土した。時期は弥・中・Ⅱと思われる。

土壙32 (第57・59図)

調査区北西側に位置する。平面形は楕円形と思われる、短軸119cmを測る。

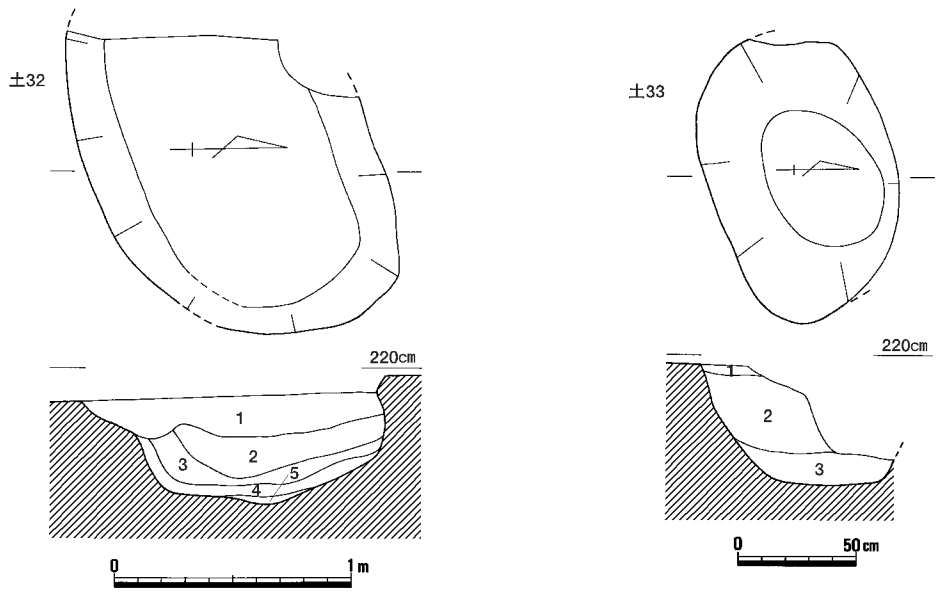
断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもち、深さは48cm、底面海拔高は162cmを測る。第4層には炭が多く含まれている。

遺物は弥生土器の壺片、甕174・175、高杯176、台付鉢177などが出土した。なお、甕175の胴部には、円孔とも思われる打ち欠き痕跡が認められたために図化を行った。しかし、周辺の多くが欠損しているため、果たして、そういった人工的な加工によってなされた状況のものか、判然としない点がある。

時期は弥・中・Ⅱである。

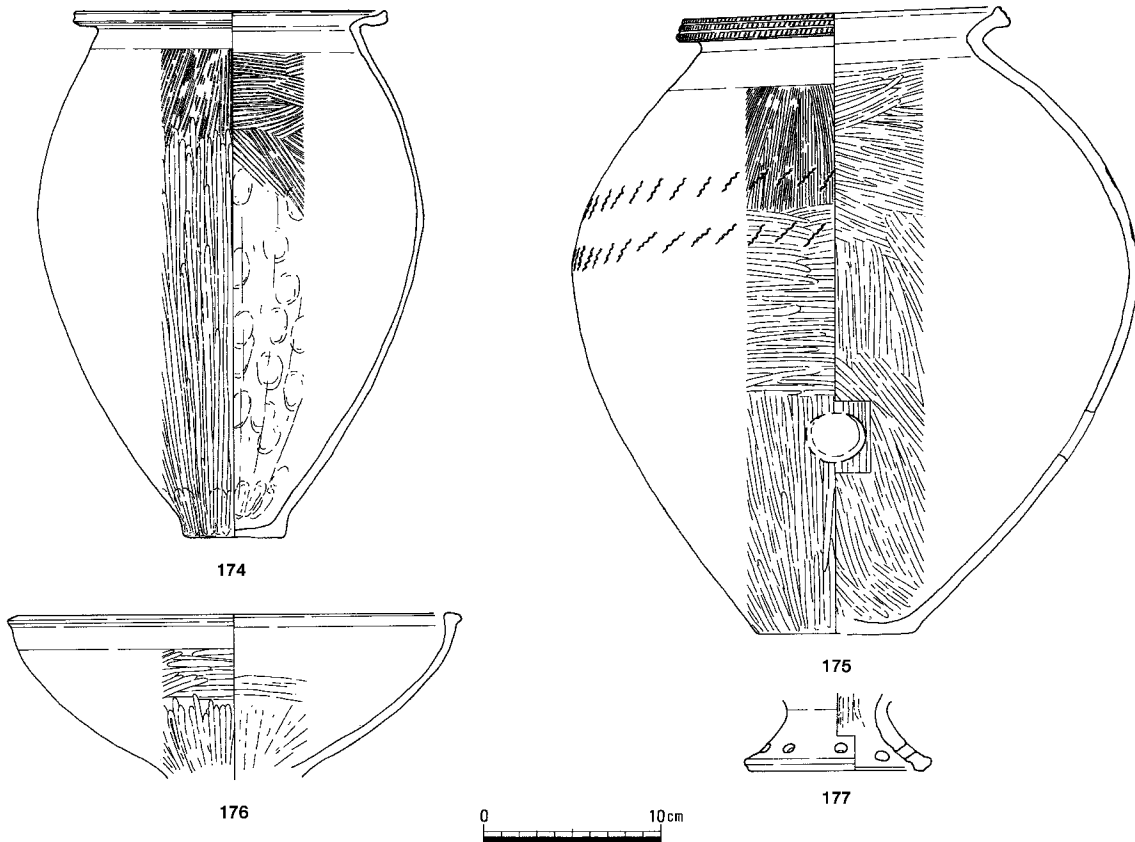
土壙33 (第57・59図)

調査区中央付近に位置する。土壙32と切り合い関係を有する。平面形は楕円形を呈し、長軸120cm、短軸80cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは51cm、底面海拔



- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| 1 褐灰色・明褐色砂質土 (地山ブロックを含む) | 4 褐灰色砂質土 (炭を多く含む) |
| 2 明黄褐色砂質土 | 5 にぶい黄橙色砂質土 |
| 3 灰黄褐色砂質土 | |

- | |
|-----------------------------|
| 1 褐灰色・明褐色砂質土 (地山ブロックを含む) |
| 2 にぶい黄橙色砂質土 (炭を多く含む) |
| 3 黄灰色砂質土 |



第59図 土壙32・33 (1/30)・土壙32出土遺物 (1/4)

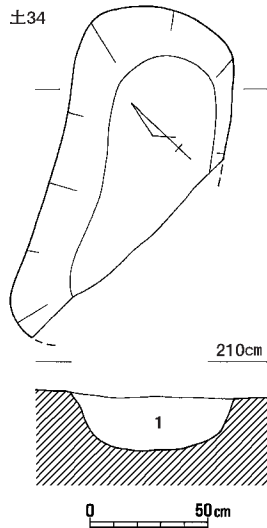
高は165cmを測る。第2層には炭が多く含まれている。

図化し得る遺物はなかったが、弥生土器の壺片、甕片、高杯片などが出土した。時期は弥・中・Ⅱである。

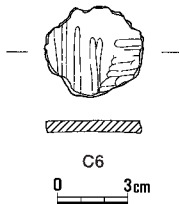
土壙34 (第57・60図)

調査区南側中央付近に位置する。平面形は楕円形と思われ、断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは24cm、底面海拔高は176cmを測る。埋土には地山ブロックを含む。

図化し得る遺物はなかったが、弥生土器の壺片、甕片、高杯片などが出土した。時期は弥・中・Ⅱと思われる。



1 黒褐色・橙色砂質土
(地山ブロックを含む)



土壙35 (第57・60図、図版11)

調査区南側中央付近に位置する。土壙34と切り合い関係を有する。平面形は楕円形と思われ、短軸68cmを測る。

断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは24cm、底面海拔高は172cmを測る。埋土には地山ブロックを含む。

遺物は弥生土器の壺片、甕片、高杯片や円板形土製品C6などが出土している。時期は弥・中・Ⅱと思われる。

土壙36 (第57・61図)

調査区東側中央付近に位置し、平面形は楕円形と思われる。

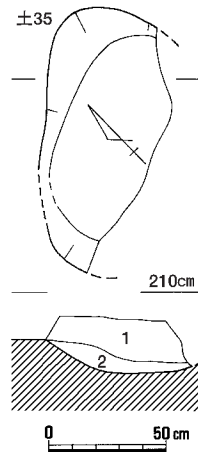
断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもち、深さは27cm、底面海拔高は181cmを測る。埋土には地山ブロックを含む。

図化し得る遺物はなかったが、弥生土器の壺片、甕片、高杯片などが出土した。

時期は弥・中・Ⅱと思われる。

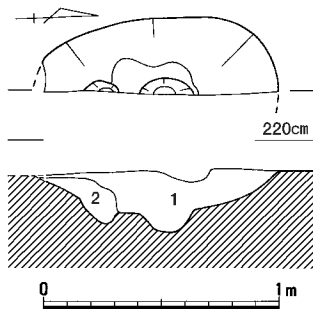
遺構に伴わない遺物 (第62図)

図化し得た出土遺物では、スクレイパーS19などが認められた。

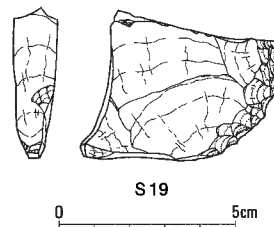


1 淡黒褐色・黄橙色砂質土
(地山ブロックを含む)
2 黒褐色・黄橙色砂質土
(地山ブロックを含む)

**第60図 土壙34・35 (1/30)・
土壙35出土遺物 (1/3)**



第61図 土壙36 (1/30)



1 褐灰色砂質土
2 褐灰色・明黄橙色砂質土
(地山ブロックを含む)

第62図 遺構に伴わない遺物 (1/2)

7 H区

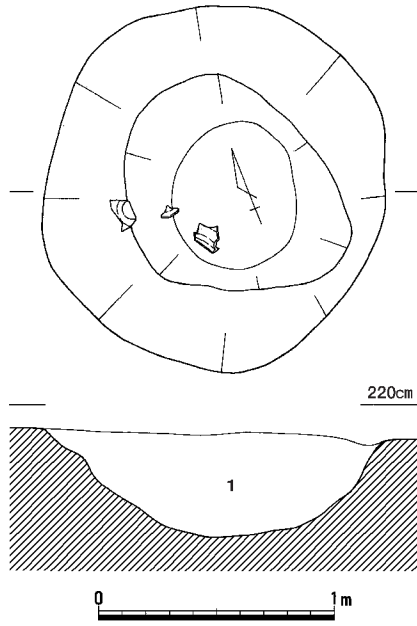
概要 (第5・63図、図版3-2)

調査区は東西長2m、南北長4mを測る。遺構は土壇8基や柱穴・ピットなどを検出した。

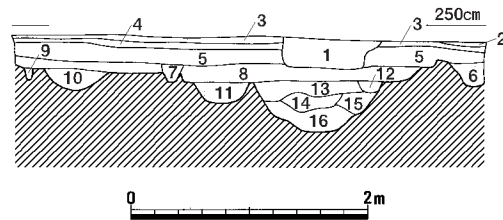
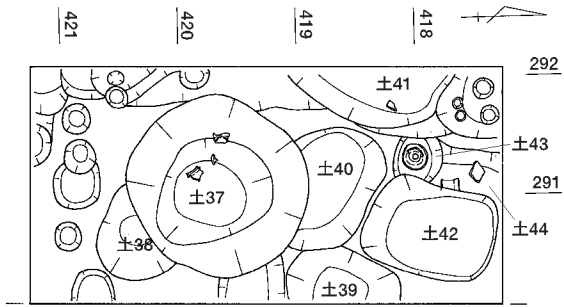
遺物は弥生土器、須恵器、石器が出土した。

土壇

土壇37 (第63・64図、図版11)

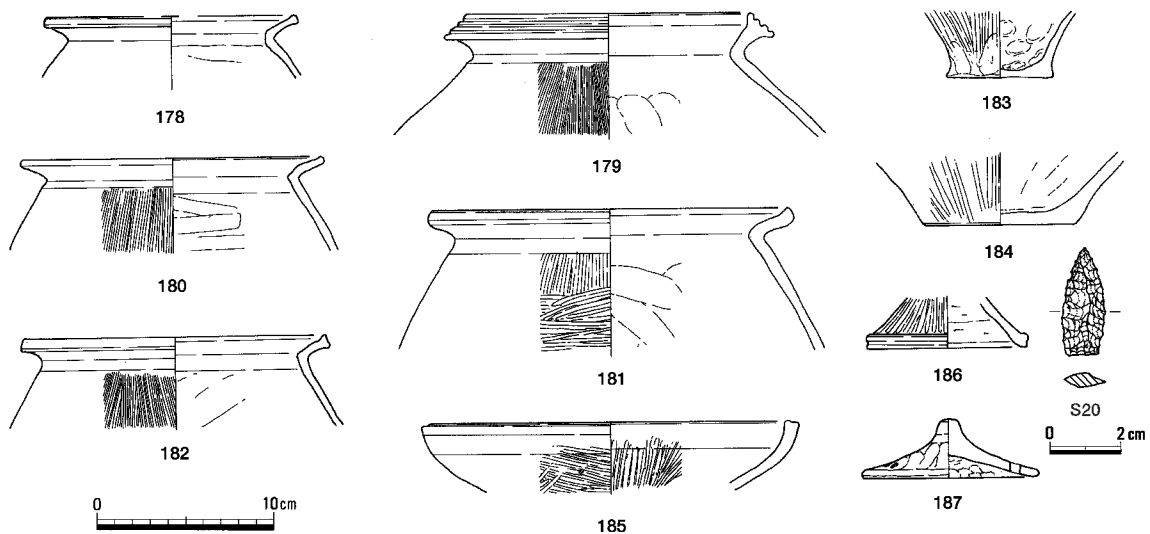


1 黒褐色砂質土



- | | |
|--------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色・褐灰色砂質土 | 10 黒褐色砂質土 |
| 2 灰白色砂質土 (礫を含む) | 11 黒褐色砂質土 |
| 3 灰白色砂質土 | 12 暗褐灰色砂質土 |
| 4 明赤褐色砂質土 | 13 黒褐色砂質土 |
| 5 黒褐色砂質土 | 14 黒色炭層 |
| 6 褐灰色砂質土 | 15 褐灰色・黄灰色砂質土 (黄灰色砂質土を含む) |
| 7 暗褐灰色砂質土 | 16 浅黄色・黄灰色砂質土 |
| 8 褐灰色砂質土 | |
| 9 黒褐色砂質土 | |

第63図 H区遺構配置および東壁断面 (1/60)



第64図 土壇37 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/2)

調査区中央付近に位置する。平面形は円形を呈し、長軸155cm、短軸145cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもち、深さは46cm、底面海拔高は164cmを測る。遺物は弥生土器の壺184、甕178~183、高杯185・186、蓋187や石鏃S20などが出土した。時期は弥・中・Ⅱである。

土壙38 (第63・65図)

調査区南東側に位置する。平面形は円形と思われ、長軸82cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもち、深さは34cm、底面海拔高は174cmを測る。図化し得る遺物はなかったが、弥生土器の壺片、甕片、高杯片などが出土した。時期は弥・中・Ⅱである。

土壙39 (第63・66図)

調査区東側中央付近に位置する。平面形は楕円形と思われ、長軸100cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもち、深さは44cm、底面海拔高は160cmを測る。図化し得る遺物はなかったが、弥生土器の壺片、甕片、高杯片などが出土した。時期は弥・中・Ⅱである。

土壙40 (第63・67図)

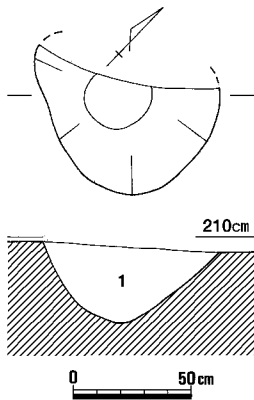
調査区中央付近に位置する。平面形は楕円形と思われ、断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さ31cm、底面海拔高171cmを測る。遺物は弥生土器の壺片、甕片、高杯片などが出土した。時期は弥・中・Ⅱと思われる。

土壙41 (第63・68図)

調査区北西側に位置する。平面形は楕円形で、断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さ34cm、底面海拔高174cmを測る。遺物は壺片、甕片、高杯片が出土し、時期は弥・中・Ⅱである。

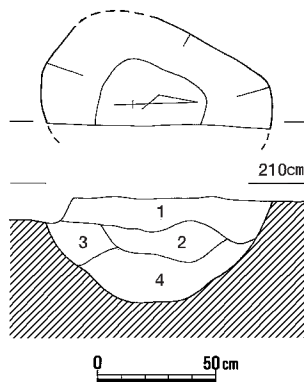
土壙42 (第63・69図、図版11)

調査区北東側に位置する。平面形は隅丸方形を呈し、長軸112cm、短軸78cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは42cm、底面海拔高は157cmを測る。遺物は弥生土器の壺片、甕片、高杯片や打製石包丁を転用した石槍S21などが出土した。時期は弥・中・Ⅱと思われる。



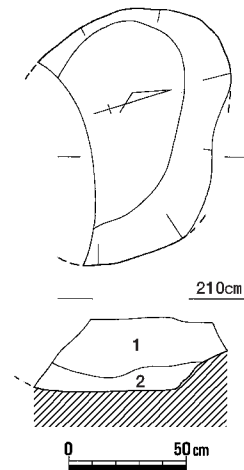
1 淡黒褐色砂質土

第65図 土壙38 (1/30)



1 黒褐色砂質土
2 黒色炭層 (黄褐色砂質土を含む)
3 褐灰色・黄灰色砂質土
4 浅黄色・黄灰色砂質土

第66図 土壙39 (1/30)



1 黄灰色砂質土 (炭・地山ブロックを含む)
2 灰黄褐色砂質土

第67図 土壙40 (1/30)

土壌43 (第63・70図、図版5-2・11)

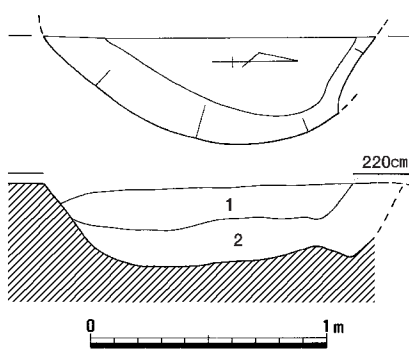
調査区北側中央に位置する。平面形は円形で短軸41cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもち、深さ19cm、底面海拔高182cmを測る。壺188などが出土し、時期は弥・中・Ⅱである。

土壌44 (第63・71図、図版5-2)

調査区北側中央に位置する。平面形は楕円形、断面形は上部が広がる壁面に窪む底部であり、深さ16cm、底面海拔高183cmを測る。壺片、甕片、高杯189などが出土し、時期は弥・中・Ⅱである。

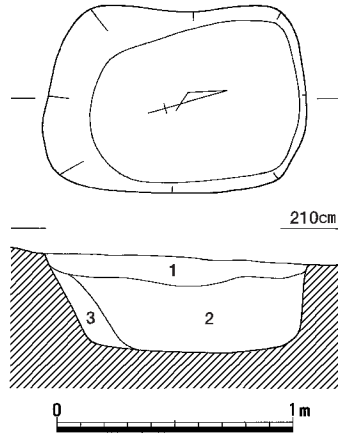
遺構に伴わない遺物 (第72図)

図化し得た出土遺物では、須恵器の杯身190、壺191、高台碗192などが認められた。



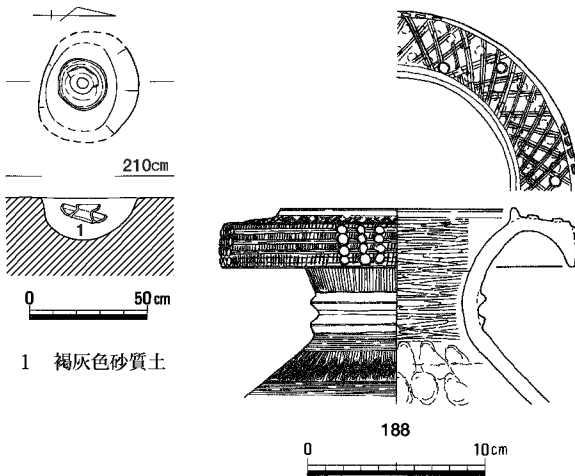
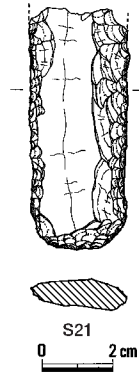
- 1 黒褐色・浅黄色砂質土
(地山ブロックを含む)
- 2 褐灰色・浅黄色砂質土
(炭・地山ブロックを含む)

第68図 土壌41 (1/30)



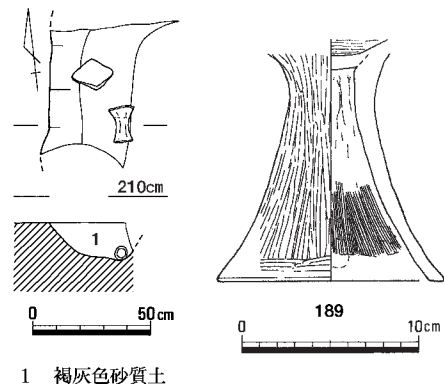
- 1 黄灰色砂質土
(炭・地山ブロックを含む)
- 2 灰色砂質土
(炭・地山ブロックを含む)
- 3 黄橙色砂質土

第69図 土壌42 (1/30)・出土遺物 (1/2)



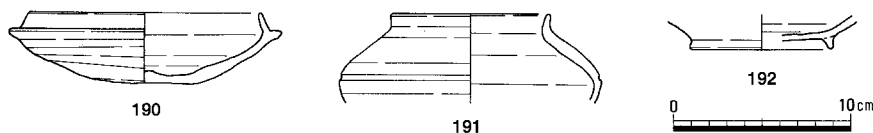
- 1 褐灰色砂質土

第70図 土壌43 (1/30)・出土遺物 (1/4)



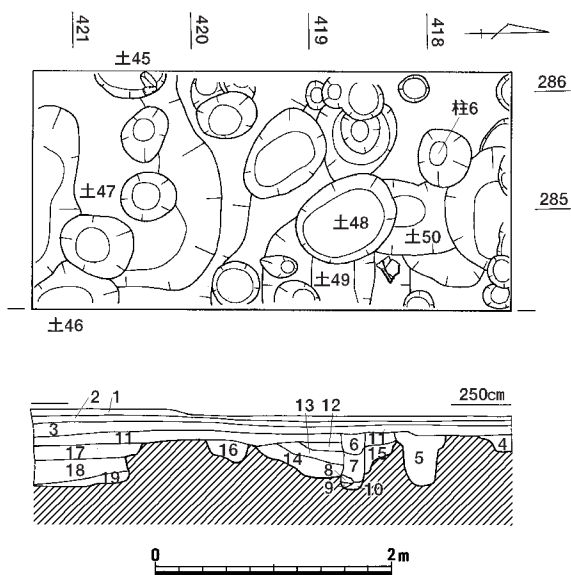
- 1 褐灰色砂質土

第71図 土壌44 (1/30)・出土遺物 (1/4)



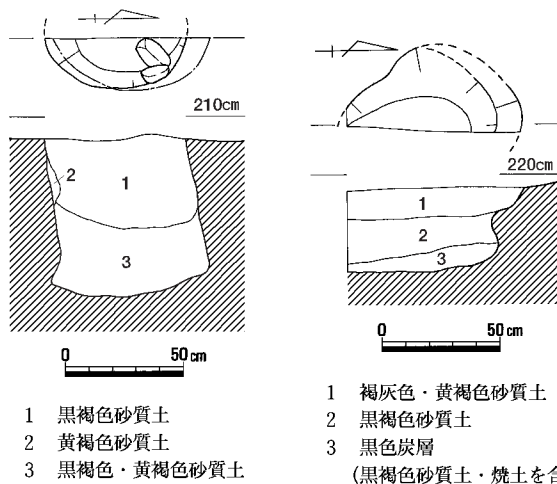
第72図 遺構に伴わない遺物 (1/4)

8 I区



- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1 灰白色砂質土 | 11 褐灰色砂質土 |
| 2 明赤褐色砂質土 | 12 黄灰色砂質土 |
| 3 黒褐色砂質土 | 13 黒褐色砂質土 |
| 4 褐灰色砂質土 | 14 黒褐色・黄褐色砂質土 |
| 5 褐灰色砂質土 (黄橙色砂質土を含む) | 15 暗灰黄色砂質土 |
| 6 暗黒褐色砂質土 | 16 褐灰色・黄褐色砂質土 |
| 7 暗黄灰色砂質土 | 17 褐灰色・黄褐色砂質土 |
| 8 褐灰色砂質土 | 18 黒褐色砂質土 |
| 9 明黄褐色砂質土 | 19 黒色炭層 (黒褐色砂質土・焼土を含む) |
| 10 暗褐灰色砂質土 | |

第73図 I区遺構配置および東壁断面 (1/60)



- | | |
|--------------|--------------------------|
| 1 黒褐色砂質土 | 1 褐灰色・黄褐色砂質土 |
| 2 黄褐色砂質土 | 2 黒褐色砂質土 |
| 3 黒褐色・黄褐色砂質土 | 3 黒色炭層 (黒褐色砂質土・焼土を含む) |

第74図 土壌45 (1/30)

概要 (第5・73図、図版3-3)

調査区は東西長2m、南北長4mを測る。遺構は土壌6基や柱穴・ピットなどが、互いに複雑に切り合った状況で検出された。

遺物は弥生土器、須恵器、石器などが出土した。

土壌

土壌45 (第73・74図)

調査区南西側に位置する。平面形は円形と思われ、長軸は60cmを測る。

断面形は筒状をなす壁面に窪む底部をもち、形態的に袋状を呈する。深さは68cm、底面海拔高は134cmを測る。

図化し得る遺物はなかったが、弥生土器の壺片、甕片などが出土した。時期は弥・中・IIである。

土壌46 (第73・75図)

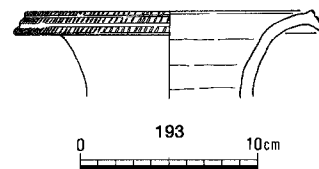
調査区南東側に位置し、平面形は楕円形を呈すると思われる。

断面形は下部が広がる壁面に平らな底部をもち、形態的に袋状をなしている。深さは37cm、底面海拔高は179cmを測る。

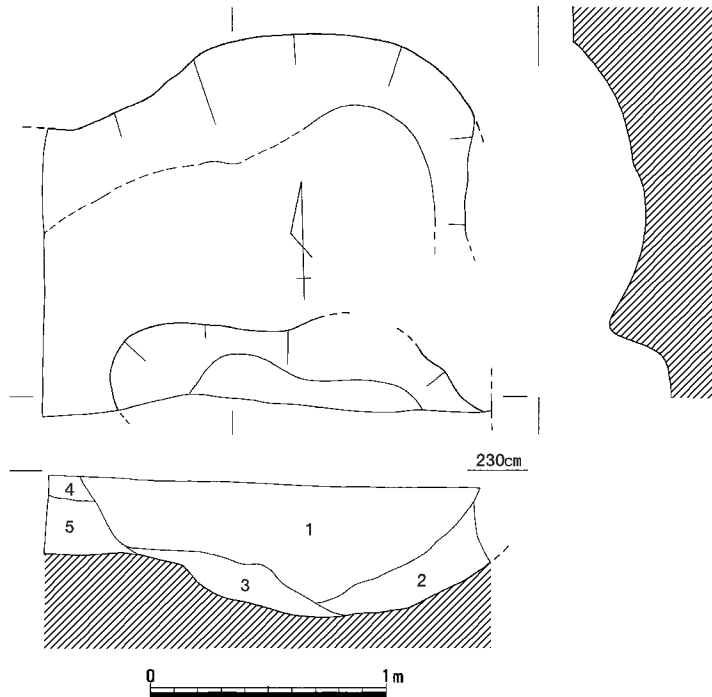
遺物は弥生土器の壺193、甕片などが出土した。時期は弥・中・IIである。

土壌47 (第73・76・77図、図版5-3・11)

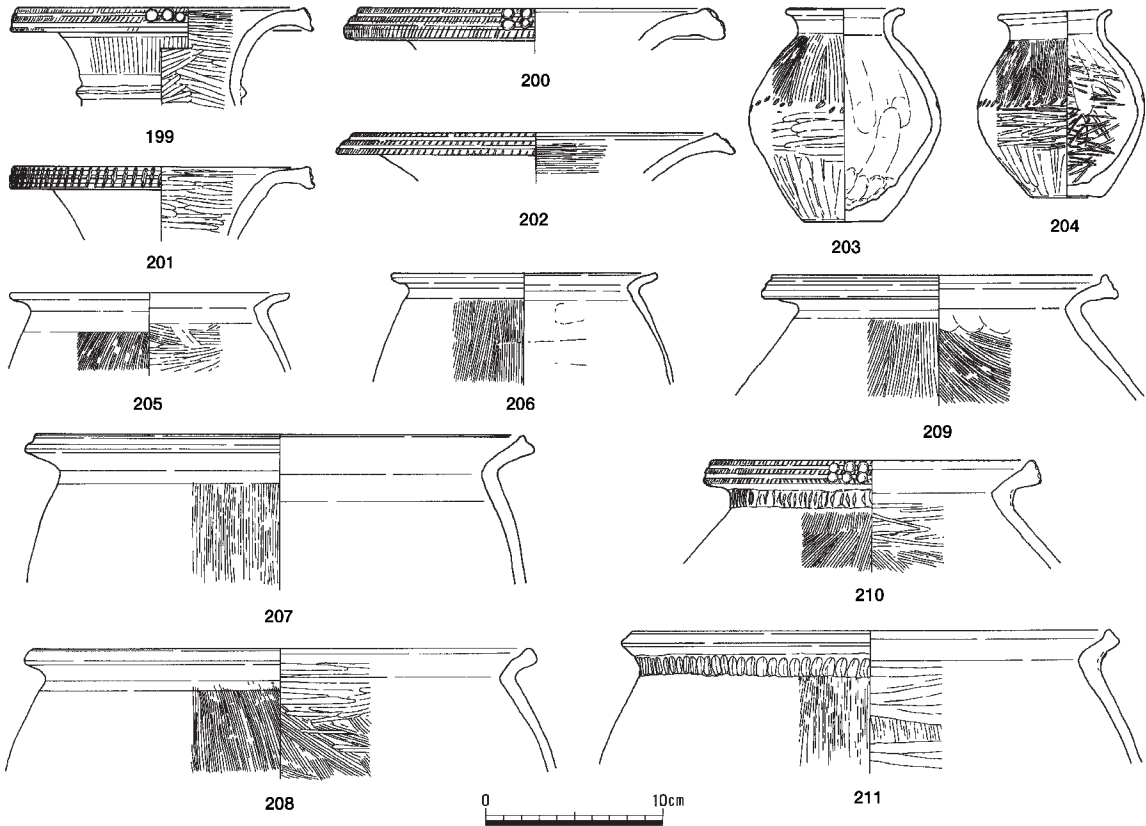
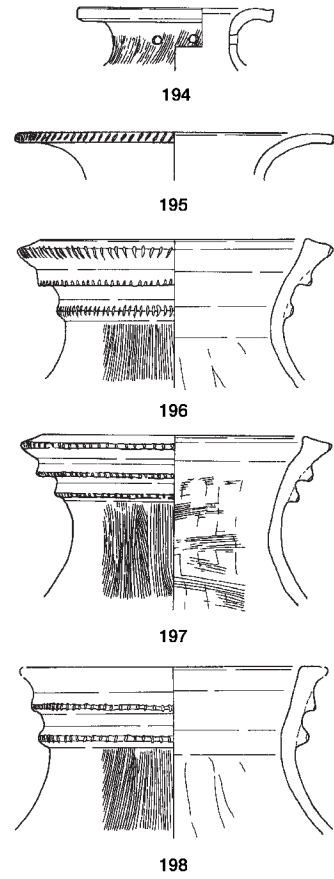
調査区南側に位置する。平面形は大形の不整形円形と思われ、断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもち、深さは60cm、底面海拔高は168cmを測る。



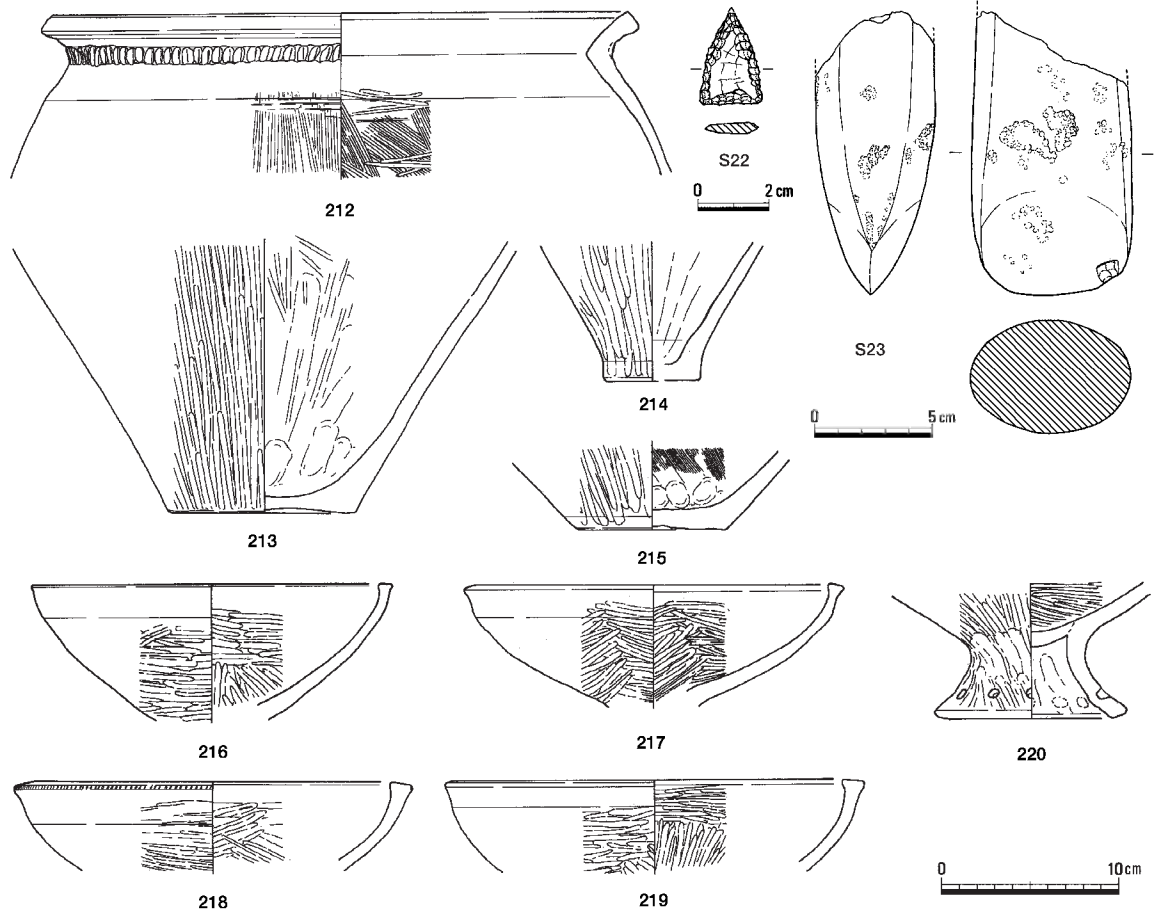
第75図 土壌46 (1/30)・出土遺物 (1/4)



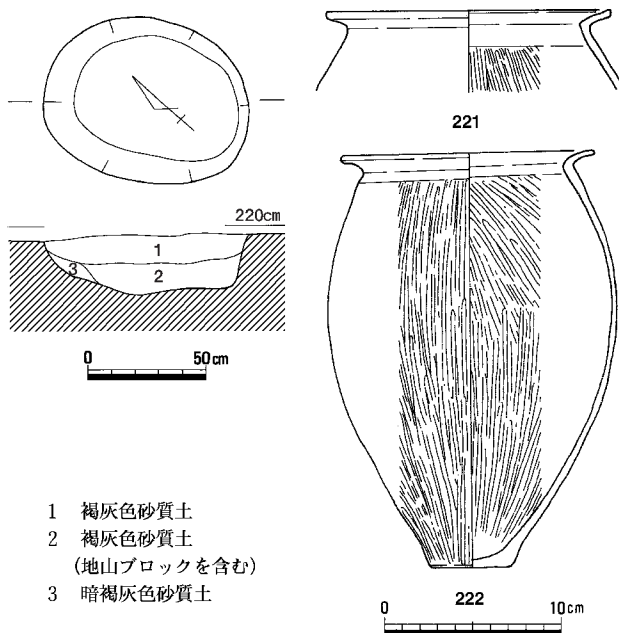
- | | |
|---------------|-----------|
| 1 黒色砂質土 | 4 淡黒褐色砂質土 |
| 2 オリーブ黒色砂質土 | 5 黒褐色砂質土 |
| 3 黄灰色・明黄褐色砂質土 | |



第76図 土壇47 (1/30)・出土遺物① (1/4)



第77図 土壌47出土遺物② (1/4・1/2・1/3)



- 1 褐灰色砂質土
- 2 褐灰色砂質土
(地山ブロックを含む)
- 3 暗褐灰色砂質土

第78図 土壌48 (1/30)・出土遺物 (1/4)

遺物は弥生土器の壺194～204、甕205～215、高杯216～220や石鏃S22、蛤刃石斧S23が多量に出土した。ただし、土器は破片が多く、整理作業においても小形壺の203・204を除き、完形品まで復元できたものが認められなかった。

この原因として、土壌が大形で調査区の関係ですべて完掘できなかったために、土器が外に残存しているとも考えられる。

しかし、同じように大形の土壌5や土壌16から、ほぼ完形に近い土器が出土した状況とは、明らかな差異があることから、土壌が埋没する過程には、すでに土器が破片となっていた可能性が高いと思われる。時期は弥・中・Ⅱである。

土壌48 (第73・78図)

調査区中央付近に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸は87cm、短軸は70cmを測る。

断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは25cm、底面海拔高は191cmを測る。

遺物は弥生土器の壺片、甕221・222、高杯片などが出土している。

時期は弥・中・Ⅱである。

土壌49 (第73・79図)

調査区東側中央付近に位置する。平面形は楕円形と思われ、短軸は126cmを測る。

断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは30cm、底面海拔高は188cmを測る。

遺物は弥生土器の壺223・224、甕片などが出土した。

時期は弥・中・Ⅱである。

土壌50 (第73・80図)

調査区北東側に位置する。平面形は不整楕円形と思われ、断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもち、深さは40cm、底面海拔高は160cmを測る。

ただし、検出状況から上面にやや浅いたわみ状の土壌が存在していた可能性がある。

遺物は弥生土器の壺225、甕片、高杯226、台付鉢227や焼土塊などが出土した。

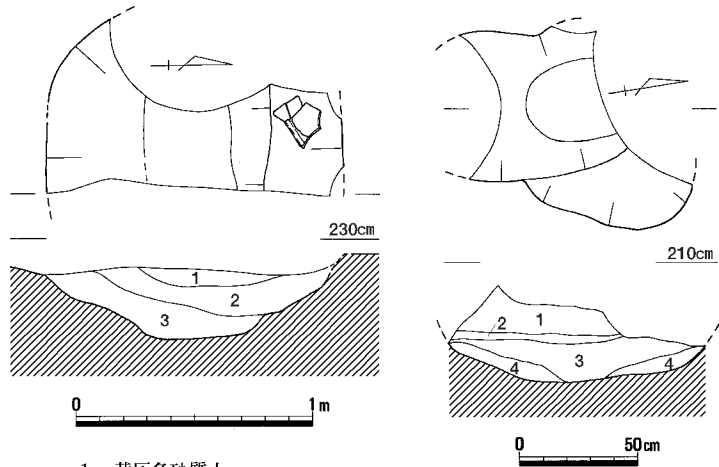
時期は弥・中・Ⅱである。

柱穴

柱穴6 (第73・81図)

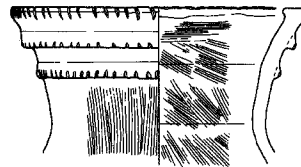
調査区北側中央付近に位置する。遺物は石鏃S24などが出土した。時期は弥・中・Ⅱと思われる。**遺構に伴わない遺物 (第82図)**

図化し得た出土遺物では、須恵器甕228、石鏃S25・S26などが認められた。



- 1 黄灰色砂質土
- 2 黒褐色砂質土
- 3 黒褐色・黄褐色砂質土

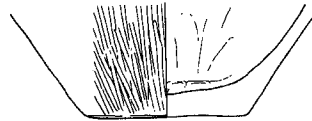
- 1 褐灰色砂質土
- 2 にぶい黄橙色砂質土
- 3 黒褐色砂質土
- 4 オリーブ黒色砂質土



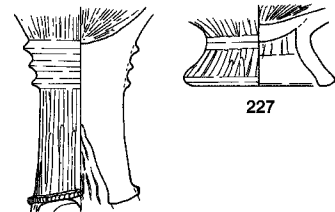
223



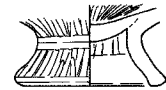
225



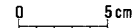
224



226

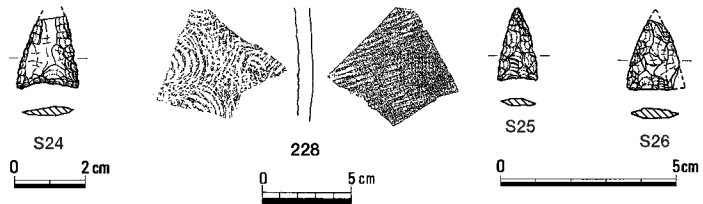


227



第79図 土壌49 (1/30)・出土遺物 (1/4)

第80図 土壌50 (1/30)・出土遺物 (1/4)

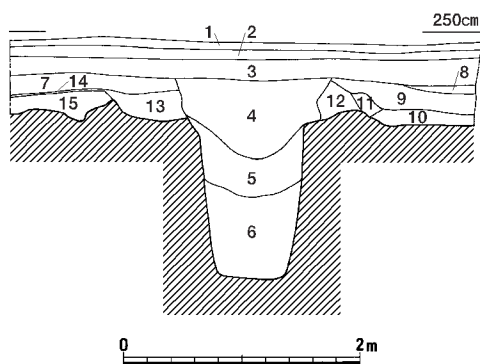
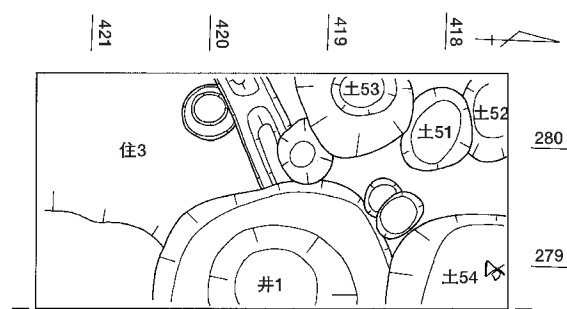


第81図

柱穴6 出土遺物 (1/2)

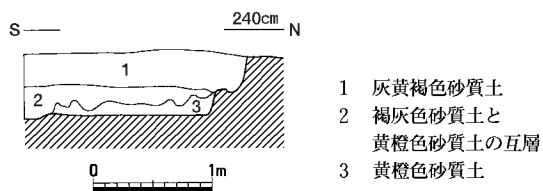
第82図 遺構に伴わない遺物 (1/4・1/2)

9 J区



- | | |
|-----------|---------------|
| 1 灰白色砂質土 | 9 灰黄褐色砂質土 |
| 2 黒褐色砂質土 | 10 褐灰色・黄橙色砂質土 |
| 3 褐灰色砂質土 | 11 黒色炭層 |
| 4 黒褐色砂質土 | (褐灰色砂質土を含む) |
| 5 暗青灰色粘質土 | 12 黒色炭層 |
| 6 暗青灰色粘質土 | 13 褐灰色・黄橙色砂質土 |
| (灰色粗砂を含む) | 14 黒色炭層 |
| 7 灰黄褐色砂質土 | 15 褐灰色砂質土と |
| 8 黄橙色砂質土 | 黄橙色砂質土の互層 |

第83図 J区遺構配置および東壁断面 (1/60)



- | |
|-----------|
| 1 灰黄褐色砂質土 |
| 2 褐灰色砂質土と |
| 黄橙色砂質土の互層 |
| 3 黄橙色砂質土 |

第84図 竪穴住居 3 (1/60)

概要 (第5・83図、図版4-1)

調査区は東西長2m、南北長4mを測る。遺構は竪穴住居1軒、井戸1基、土壇4基や柱穴・ピットなどを検出した。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器、石器、木器などが出土した。特にこの調査区に至って、古墳時代前期の集落の広がりを確認することができる遺構や遺物を検出した。

竪穴住居

竪穴住居 3 (第83・84・85図)

調査区南側に位置する。平面形は掘り方、床面とも方形と思われ、主軸はN-25°-Wをとる。断面形は床面からやや外方気味に立ち上がり、中位で段をもつ。深さは54cm、底面海拔高は168cmを測る。床面では壁体溝と柱穴を確認した。この柱穴からは柱材の一部を確認した。

土層断面をみると、床面となる掘削された基盤層上には第2・3層が厚く堆積していた。特に第2層では、それぞれ数cm程度の厚みをもつ褐灰色と黄橙色の砂質土が、部分的に炭層を挟むかたちでほぼ水平に互層をなしていた。こうした状況から、3ないし4回程度の貼り床がなされた可能性がある。

遺物は土師器の甕229・230、高杯232、鉢231、叩き石や獣骨などが出土した。

時期は古・前・IIである。

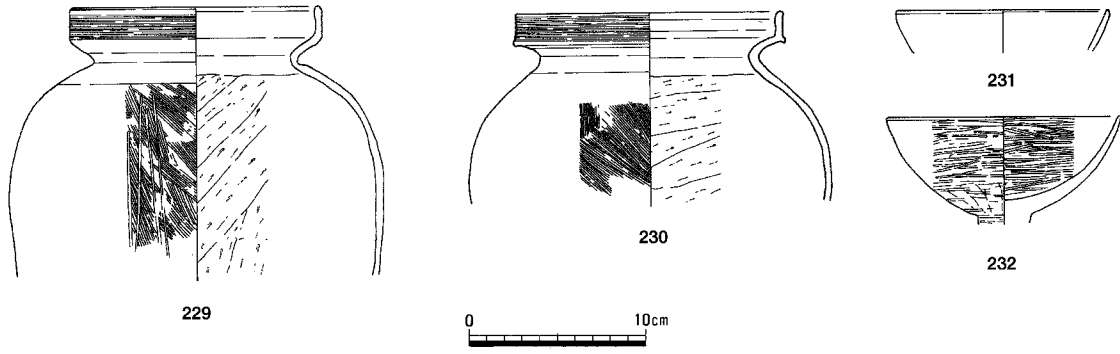
井戸

井戸 1 (第83・86図、図版11)

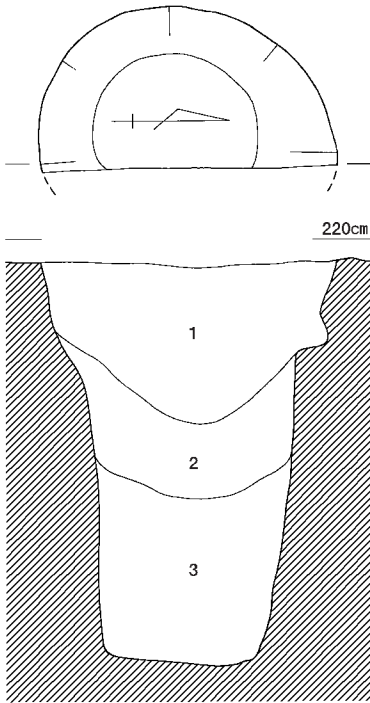
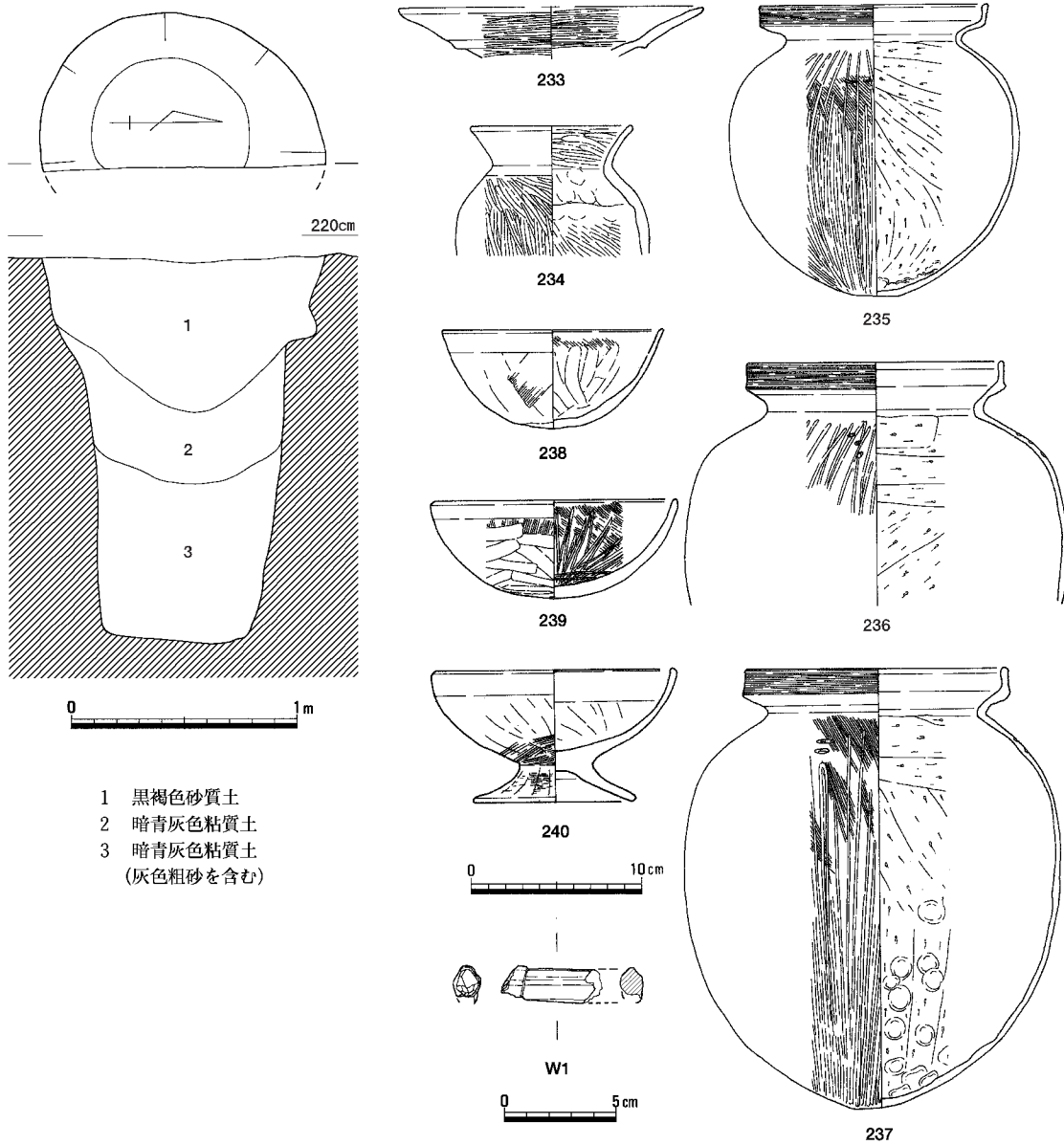
調査区東側中央付近に位置する。平面形は円形と思われ、長軸126cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもち、深さは170cm、底面海拔高は40cmを測る。

遺物は土師器の壺233・234、甕235～237、鉢238・239、台付鉢240、器台片や性格が不明である木器W1などが出土した。

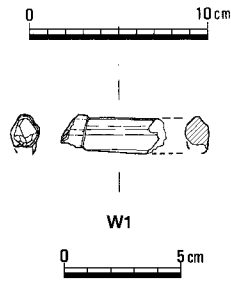
時期は古・前・IIである。



第85図 竪穴住居3 出土遺物 (1/4)



- 1 黒褐色砂質土
- 2 暗青灰色粘質土
- 3 暗青灰色粘質土
(灰色粗砂を含む)



第86図 井戸1 (1/30)・出土遺物 (1/4・1/3)

土壌

土壌51 (第83・87図)

調査区北西側に位置する。平面形は楕円形と思われ、長軸74cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは36cm、底面海拔高は164cmを測る。遺物は弥生土器の壺241～243、甕244、高杯245や石鏃S27などが出土した。時期は弥・中・Ⅱである。

土壌52 (第83・87図)

調査区北西端に位置する。土壌51と切り合い関係を有する。平面形は楕円形と思われ、断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもち、深さは24cm、底面海拔高は181cmを測る。遺物は弥生土器の壺片、甕片、高杯片などが出土した。時期は弥・中・Ⅱである。

土壌53 (第83・88図)

調査区西側中央付近に位置する。平面形は楕円形と思われ、長軸105cmを測る。断面形は上部が広がる壁面に窪む底部をもち、深さは56cm、底面海拔高は162cmを測る。遺物は弥生土器の壺246、甕247、高杯248などが出土した。時期は弥・中・Ⅰである。

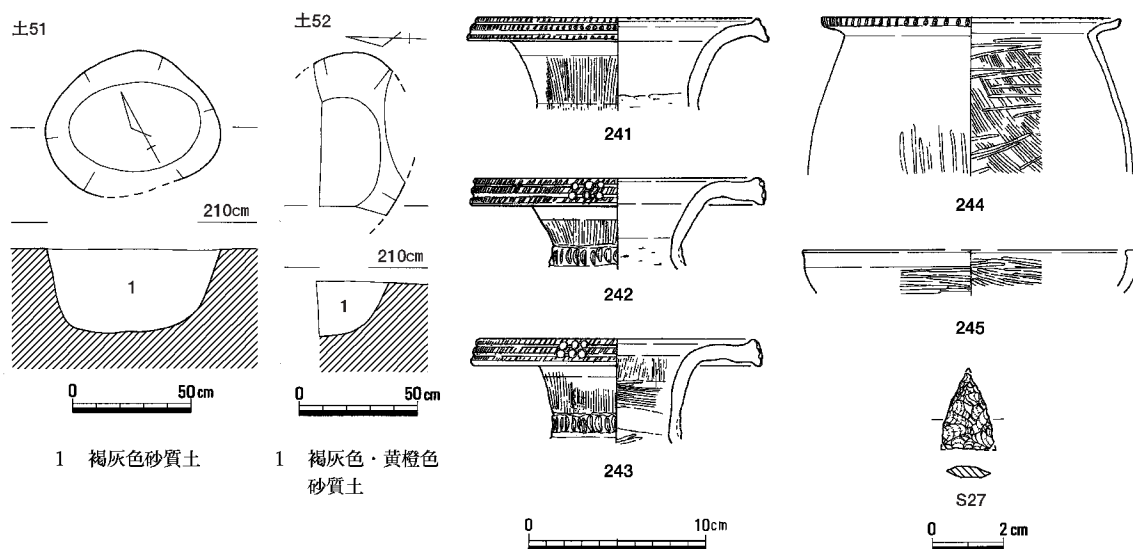
土壌54 (第83・89図)

調査区北東端に位置する。平面形は楕円形と思われ、断面形は上部が広がる壁面に平らな底部をもち、深さは15cm、底面海拔高は170cmを測る。遺物は弥生土器の壺249・258、甕250～257、高杯片や焼土塊などが出土した。時期は弥・中・Ⅱである。

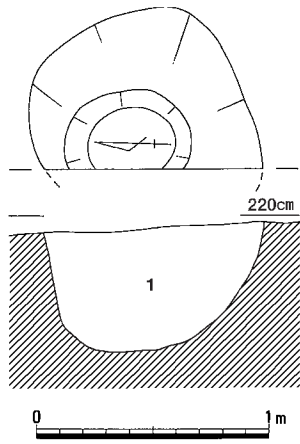
遺構に伴わない遺物 (第90図)

図化し得た出土遺物では、弥生土器の壺259、土師器の高杯260、須恵器の高台碗261、石鏃S28、スクレイパーS29などが認められた。

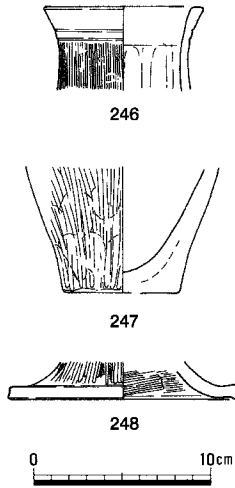
このうち、壺259は今回の調査で唯一確認することができた弥・中・Ⅲの土器である。しかし、器面の摩滅は激しく、残存状況も低いことから、この周辺に同期にあたる遺構の広がりを想定することは困難と思われる。一方、包含層からの出土とした高杯260は、その取り上げられた地点を考慮すると、竪穴住居3あるいは井戸1に伴う遺物の可能性が高い。



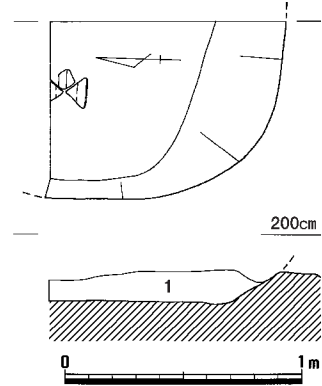
第87図 土壌51・52 (1/30)・土壌51出土遺物 (1/4・1/2)



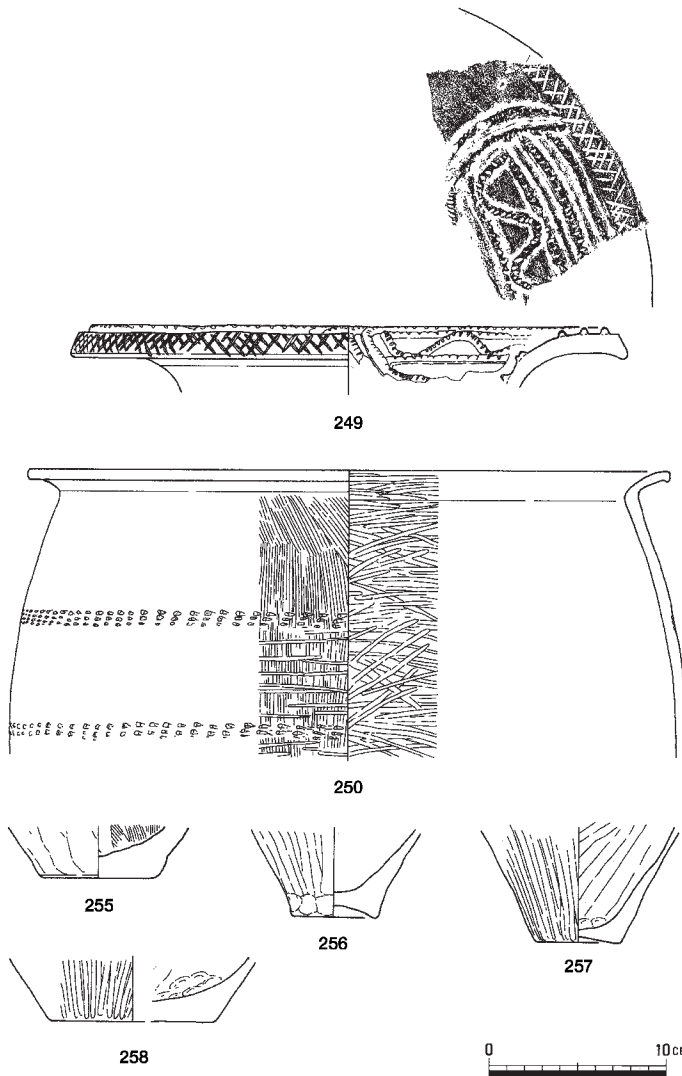
1 黒褐色砂質土



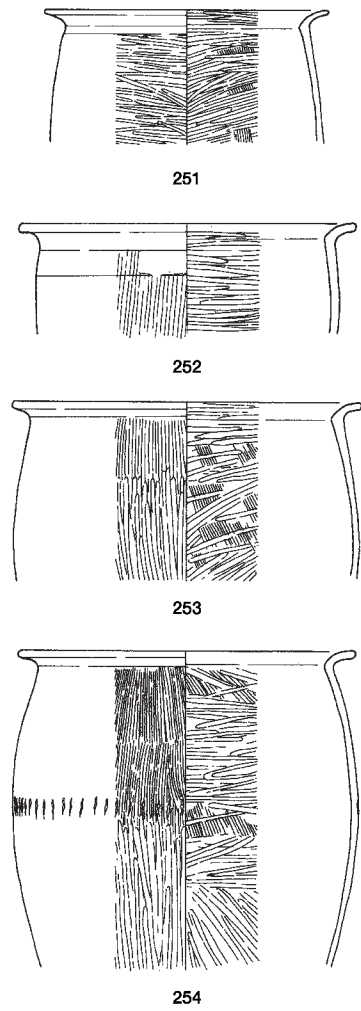
第88図 土壙53 (1/30)・出土遺物 (1/4)

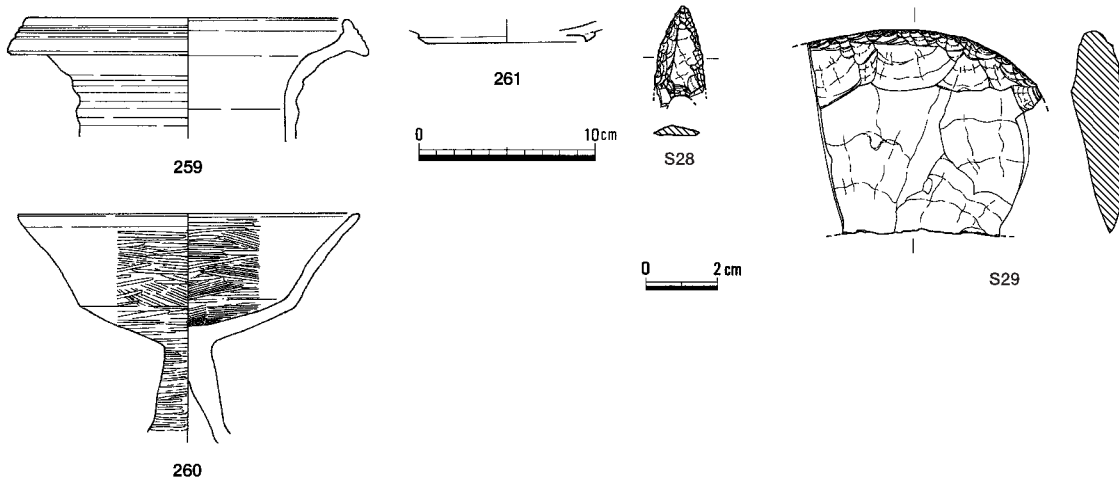


1 褐灰色・黄橙色砂質土



第89図 土壙54 (1/30)・出土遺物 (1/4)





第90図 遺構に伴わない遺物 (1/4・1/2)

10 K区

概要 (第5・91図、図版4-2)

調査対象地では最東端に位置し、規模は東西長、南北長ともに1.6mで、今回の調査区では最小となる。遺構は竪穴住居2軒や柱穴・ピットなどを検出し、遺物は弥生土器、土師器などが出土した。

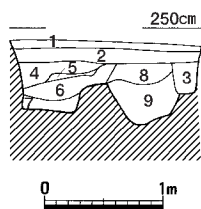
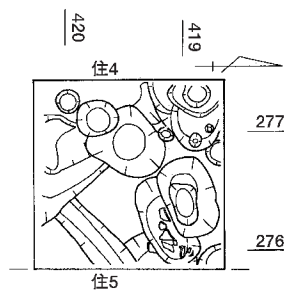
竪穴住居

竪穴住居4 (第91・92図)

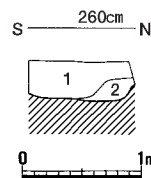
調査区南東端に位置し、平面形は方形で主軸はN-44°-Eをとる。深さは32cm、底面海拔高は200cmを測る。遺物は土師器の壺片、甕262などが出土した。時期は古・前・IIである。

竪穴住居5 (第91・93図)

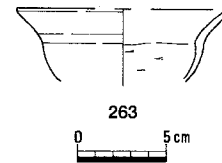
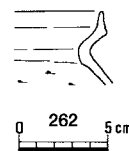
調査区南東端に位置し、平面形は方形で主軸は竪穴住居4と同じである。深さは45cm、底面海拔高は178cmを測る。遺物は土師器の壺263、甕、高杯片などが出土した。時期は古・前・IIである。



- 1 灰白色砂質土
- 2 黒褐色砂質土
- 3 褐灰色砂質土
- 4 暗黒褐色砂質土
- 5 黄橙色砂質土
- 6 暗黒褐色砂質土
- 7 黒褐色・黄橙色砂質土
- 8 淡黒色砂質土
- 9 黒色砂質土



- 1 暗褐色砂質土
- 2 黒褐色・黄橙色砂質土



第92図
竪穴住居4 (1/60)・
出土遺物 (1/4)

第93図
竪穴住居5
出土遺物 (1/4)

第91図 K区遺構配置および東壁断面 (1/60)

第4章 まとめ

1 土器について

今回の発掘調査では、弥・中・Ⅱの時期の良好な土器が各調査区の遺構からまとまって出土した。ここでは、これらの資料を基に高橋護氏の編年案⁽¹⁾を参考にして、土器様式の変遷をみていきたい。

弥・中・Ⅱ古相は、高橋氏編年Ⅳ—a期に相当し、土壙24が比定される。壺は細頸で口縁端部に刻目を施す143がある。甕は若干肩部が張った胴長の形態である。口縁部内面はヘラミガキの144とヨコナデの146がみられるが、前者がやや古い様相を示すと思われる。口縁端部は丸く納めるものと面取りのものがある。なお、土壙24に先行する一群としては、肥厚した口縁端部に斜格子文を施し、口縁部内面に刻目突帯文の加飾を行う249や上げ底の256・257が出土した土壙54が挙げられる。

弥・中・Ⅱ中相は、高橋氏編年Ⅳ—b期に相当し、土壙5、土壙16などが比定される。壺は、頸部が逆「ハ」字状に外反し、頸胴部に台形状の突帯文もつ23～25・68がある。このうち、23・24・68は上下に肥厚した口縁端部に2条、25は3条凹線文を巡らす。また、頸部あるいは頸胴部に三角形の2条突帯文もつ26～28があり、26は突帯文と口縁端部に刻目を施す。27は口縁端部に2条凹線文を巡らす。28は水平に広がる口縁部をもち、肥厚した口縁端部に1条凹線文を巡らす。69は直立の頸部から外反する口縁部に三角形の1条突帯文を施す。このほか、外反する頸部に口縁端部を拡張して綾杉状の刻目を施す70や頸胴部に台形状の突帯文を行って2段の押圧文を施し、口縁端部は拡張して斜格子文を行う受口壺の71がみられる。29・30は胴部最大径がほぼ中位にあり、29の肩部には刺突文がみられる。なお、形態的特徴から69は讃岐地域と、71は播磨地域との関連が考えられる。

甕は短く「く」字状に屈曲する口縁部をもつ。口縁端部は上方へ小さく立ち上がる77・80、上方へわずかに肥厚した端部に1～2条凹線文を巡らす31～37・72～76・78・79・81～83がみられる。75の頸胴部には押圧文を有する突帯文を行い、口縁端部には円形浮文を施す。72・73は小形品で、上げ底である。胴部外面は上半ハケメ、下半ヘラミガキがみられるが、31～33・36・39・79・81・83・84の肩部から胴部上半にかけて、タタキ技法の痕跡が認められた。このほかでは、壺29の肩部でもみられた。この時期は水差や器台などの新たな器種が出現し、器形もバリエーションをもつようになるが、この現象は土器成形におけるタタキ技法の多用化も一因といえる。なお、該期までに県内でタタキ技法を用いた土器が出土した遺跡は、中期前葉の鏡野町久田原遺跡や中期中葉の岡山市百間川兼基・今谷遺跡、同加茂政所遺跡、鏡野町九番丁場遺跡などが挙げられる⁽²⁾。

一方、胴部内面は基本的に上半ハケメ、下半ヘラケズリがみられるが、31・33～35・40～42・76・79～81・84では、胴部下半に縦方向のヘラケズリ後、やや粗いヘラミガキあるいは板状工具か指によるナデが看取された。このことは、中相前段階までの胴部内面に認められる丁寧なハケメやヘラミガキ調整の前工程として、ヘラケズリ整形がすでに行われていた可能性を示す資料といえる⁽³⁾。このような内面調整の「手抜き」を示す資料としては、岡山市津島遺跡土壙25の甕148や溝11の甕159などが挙げられる⁽⁴⁾。仮に、南方遺跡や津島遺跡といった旧旭川西岸の微高地に形成された集落のみでこの現象が確認されるならば、この地域の土器製作の一端を示しているといえる。

高杯はゆるく湾曲する皿形の杯部を有し、外傾する口縁端部に1条凹線文を巡らす**43・44・86**がみられる。それぞれ円盤充填を用い、脚部をみると、**43・44・87**は三角孔を、**88・89**には円孔を施す。鉢は碗形を呈する**45・90**がみられる。脚部は円孔をもつ**47~49**や2孔1対の円孔をもつ**91**がみられる。また、**47・48**の脚部内面には、横方向のヘラケズリが認められる。

水差は平底で、算盤玉形の胴部から少し外反する短い口縁部が立ち上がる形態を有し、肩部には半環状の把手をもつ**53・92・93**がみられる。これらは同一形態を呈しているが、成形技法をみると、**92**は、底部から順に粘土紐を巻き上げているのに対し、**53・93**は、円板状粘土の底部の側面に胴部が接合されている。また、内面がユビオサエによって屈曲する特徴を示していることから、胴部成形後に底部をはめ込んで仕上げた可能性が考えられる。加えて、内外面の調整技法にも差異がみられることから、新たな器種の土器製作方法を試行している段階を示しているといえる。

弥・中・Ⅱ新相は、高橋氏編年Ⅳ—c期に相当し、土壙19などが比定される。壺は口縁端部に1~2条凹線文を巡らす**98・99・101~104・106・107・109**や上下に肥厚した端部に3条凹線文を施す**97・105**がある。**109**はゆるく外反する頸部に3条凹線文、口縁端部に1条凹線文を巡らす。**110**は肩部が張った胴部から外反する頸部に4条凹線文が施される。また、直立の頸部を有し、内側に肥厚する口縁端部に1条凹線文を巡らす**111**がある。その他の特徴は、第3章で述べたとおりである。

凹線文はヨコナデ調整により、断面波板状のなめらかな凹凸の装飾効果を出すのが特徴とされ⁽⁵⁾、壺や器台に施された突帯文からの系譜が認められるものは、B種凹線文と呼ばれる⁽⁶⁾。**97~110**の頸部は、B種凹線文の出現前後の形態変化をよく示しており、その出自を考える上で示唆に富むといえる。なお、**100・105・106**のように、ヨコナデの凹凸面と突帯文をもつ資料としては、津島遺跡土壙14の壺**124**⁽⁷⁾や百間川今谷遺跡井戸1の壺**1161**⁽⁸⁾がある。一方、**109・110**のB種凹線文は、その凹凸面の間隔や高低に差異がみられるが、これは頸部形態に適した施文の結果とも思われる⁽⁹⁾。

ただし、土壙19の出土壺のなかで、形式的に間断なく突帯文からB種凹線文への移行が辿ることが可能といえるかどうかは判然としない。なお、凹線文は比較的脆弱で自重がかかりやすい部位に施されることから、器壁を波板状にすることで器体の強度を増す効果を求めていたとも考えられる⁽¹⁰⁾。

甕は短く「く」字状に屈曲する口縁部に、口縁端部が上方へ小さく立ち上がる**114**や上方へ肥厚した端部に1条凹線文を巡らす**112・113・115・117**に加えて、上方に拡張した端部に4条凹線文を巡らす**116**がみられる。胴部外面調整は上半ハケメ、下半ヘラミガキであり、また胴部内面は上半ハケメ、下半ヘラケズリがみられる。なお、中相でみた内面下半のヘラケズリ後のヘラミガキや板ナデなどを行った甕が認められないことから、「手抜き」工程が一段階進行したと捉えることもできる。

高杯はゆるく湾曲する皿形の杯部に、少し肥厚した口縁端部をもつ**122**や深碗形の**124**がみられる。**125・126**には円盤充填がみられ、内面に横方向のヘラケズリが認められる。**127**の内面にはヨコナデが行われている。また、**126・127**には円孔が施される。鉢は内外面に丁寧なヘラミガキを施した**128・129**がみられ、**128**の口縁部には2条凹線文を巡らす。

ところで、弥・中・Ⅱ新相にあたる研究動向をみると、平井泰男氏は、百間川今谷遺跡出土資料について、口縁端部にのみ凹線文を施す壺と内面下半にヘラケズリを施す甕の組合せと、口縁端部と頸部に凹線文をもつ壺と内面下半にヘラケズリを施し口縁端部に凹線文を施す甕の組合せに区分することができ、これらによって百・中・Ⅱの新相は古・新に細分できるとしている⁽¹¹⁾。また、河合忍氏は凹線文の変遷において、中期中葉と後葉との境は、B種凹線文の出現を基準とする立場をとり、中

期中葉の新相にあたる中期Ⅱ—3は、広口壺の口縁部にA種凹線文が、鉢、大型鉢にC種凹線文が採用される時期とし、中期後葉の中期Ⅲ—1は広口壺の頸部や器台の胴部にB種凹線文を施すものが出現し、中形の高杯にもC種凹線文が採用される時期と考えている⁽¹²⁾。

各氏の編年案に則して土壙19の資料をみると、平井氏編年では百・中・Ⅱ新相の新段階に相当し、基準資料とした百間川今谷遺跡土壙35とほぼ同期と思われる。ただし、同じく基準資料とした百間川今谷遺跡土壙3は、壺の頸胴部に突帯文をもつ土器が含まれず、1285の甕のように折り返し手法により口縁端部が拡張されて、多条凹線文を施すものを含むことから、土壙19の土器群よりもやや新しいと思われる。河合氏編年では中期Ⅲ—1に相当すると思われる。しかし、B種凹線文が施されたのは109・110の2点であることから、土壙19は中期Ⅱ—3の様相が強い、または前段階の混入品を多く含む一群であるといえる。この他、草原孝典氏の編年案⁽¹³⁾では、Ⅲb₁期に相当すると思われ、基準資料とした百間川今谷遺跡井戸1、土壙17とほぼ同期と考えられる。一方、百間川今谷遺跡土壙3を基準資料としたⅢb₂期は、平井氏編年で述べたとおり、土壙19より新しいと思われる。

以上のように、ここでは弥・中・Ⅱの遺構から出土した土器群を一つの様式として捉えて、基本的な土器様式の変遷をみてきた。特に、中相でみられたタタキ技法の顕在化や甕の内面調整で認められた「手抜き」の可能性などは注視すべき点といえる。また、新相で指摘したB種凹線文出現前後の壺頸部の形態変化は、中期中葉と後葉の時期区分も含めて検討を要しよう。なお、今回の調査では、器台が出土しなかったことも付け加えておく。

2 石器について

今回報告した石器は29点であり、器種は石包丁、石斧、石鏃、石槍、スクレイパー、石錘、砥石、叩き石などがある。ここでは、その特徴的なものについて個別に検討を加える。

石槍S21は表面に珪酸の付着が認められることから、打製石包丁の再加工品と思われる。同様のものが、調査地と近接する旧地方循環器病センター建設に伴う発掘調査でも1点出土している⁽¹⁴⁾。こうした事例は県南部の遺跡で多くみられ、これらは需要に応じて搬入された打製石包丁を素材として、各集落で製作されたと考えられるとされる⁽¹⁵⁾。

礫錐S3には横方向の回転摩擦痕が認められ、上端部には敲打痕がみられる。礫錐は環状石斧用の穿孔具と考えられており、大阪府池上遺跡では、環状石斧の中心孔の径と錐部の直径が一致することが報告されている⁽¹⁶⁾。写真1は、礫錐S3と旧国立岡山病院除却工事に伴う確認調査・立会調査で、H区から約30m北にあたる地点から出土した環状石斧15⁽¹⁷⁾との組合せを示したものである。

これによれば、両者は穿孔にあたって強い関連性があるといえ、礫錐S3には、環状石斧15との密着面の境界に、回転によると思われる段が形成されている。ただし、密着面より上方にも同様な摩擦痕がみられ、その穿孔方法も含めて検討すべきである。

なお、県下の礫錐の出土例として、田益田中（笹ヶ瀬川調節池）遺跡の上池調査区河道および周辺か



写真1 礫錐と環状石斧の組合せ

第4章 まとめ

ら、S301・S302が確認されている⁽¹⁸⁾。

分銅形石製品S11は、形態的特徴から分銅形土製品との共通性が指摘でき、素材の差異はあるが、護符または形代といった用途に使用されたと考えられる。出土例としては、加茂政所遺跡のS283⁽¹⁹⁾や鳥取県青谷上寺地遺跡の国道調査区の22⁽²⁰⁾などがある。挟入り石器S10も、この分銅形石製品の可能性が考えられるが、その形状や加工方法は大きく異なっている。

註

- (1) 高橋 護 「弥生土器—山陽 I—」『考古学ジャーナル』173 ニュー・サイエンス社 1980
- (2) 河合 忍 「第4章まとめ 第3節弥生土器と弥生集落」『久田原遺跡』『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』184 岡山県教育委員会 2004
- (3) 平井泰男 「第4章まとめ 第1節発掘調査成果の概要」『窪木遺跡』2『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』124 岡山県教育委員会 1998
- (4) 「津島遺跡6」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』190 岡山県教育委員会 2005
- (5) 長友朋子 「文様の地域色—弥生時代中期における凹線文を素材として—」『古文化談叢』第49集 九州古文化研究会 2003
- (6) 佐原 眞 「第三章弥生式土器 第一節弥生式土器の製作技術」『第五章後論 第一節土器製作技術の変遷』『紫雲出』 詫間町文化財保護委員会 1964
正岡睦夫 「4 弥生土器の紋様 3. 凹線紋・擬凹線紋」『弥生文化の研究』第3巻 弥生土器 I 雄山閣出版株式会社 1986
- (7) 註(4) 文献
- (8) 「百間川兼基遺跡1 百間川今谷遺跡1」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』51 岡山県教育委員会 1982
- (9) 註(5) 文献
- (10) 重根弘和 「中世備前焼に関する考察—製作技法から—」『古文化談叢』第54集 九州古文化研究会 2005
- (11) 平井泰男 「第2章加茂政所遺跡のまとめ 第3節弥生時代中期前葉～中葉の土器」『加茂政所遺跡』『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』138 岡山県教育委員会 1999
- (12) 河合 忍 「備前・備中地域」『弥生中期土器の併行関係 発表要旨集』埋蔵文化財研究会第53回研究集会実行委員会 2004
- (13) 草原孝典 「第V章結語 II 弥生時代遺構面」『吉野口遺跡発掘調査報告』岡山市教育委員会 1997
- (14) 「南方遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』40 岡山県教育委員会 1981
- (15) 高田浩司 「吉備における弥生時代中期の石器の生産と流通」『古代吉備』第23集 古代吉備研究会 2001
- (16) 石神幸子 「環状石斧用穿孔具」『池上遺跡』第3分冊の1 石器編 大坂文化財センター 1979
- (17) 「(10) 旧国立病院除却工事に伴う確認調査・立会調査」『岡山県埋蔵文化財報告』34 岡山県教育委員会 2004
- (18) 「田益田中(笹ヶ瀬川調節池) 遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』140 岡山県教育委員会 1999
- (19) 「加茂政所遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』138 岡山県教育委員会 1999
- (20) 「青谷上寺地遺跡」『鳥取県教育文化財団調査報告書』72 財団法人鳥取県教育文化財団 鳥取県埋蔵文化財センター 2001

遺 構 一 覽 表

遺 物 觀 察 表

遺構名称新旧对照表

遺構一覧表・遺物観察表凡例

遺構一覧表（第5～8表）

- ・「平面形」は検出面での形状を示した。「()」は、推定される形状を表した。
- ・「断面形」は壁面形態（上部が広がるものをA、筒状をなすものをB、下部が広がるものをC）と底面形態（平らなものをa、窪むものをb）を組み合わせて示した。
- ・「規模」の「—」は計測不能を示した。
- ・「時期」の「()」は推定される時期を示した。
- ・「第5表 竪穴住居一覧表」の空欄は、それぞれ確認できなかったことを示した。

遺物観察表（第9～14表）

土器観察表（第9表）

- ・「計測値」について、口径、底径の「()」は残存率が1/6以下を示し、器高の「()」は推定値を表した。「—」は計測不能を示した。
- ・「色調（外面）」は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）を使用した。
- ・「胎土・鈹物」について、胎土は砂粒の粒径が2.0mm以上を砂礫、2.0～1.0mmを細砂、1.0～0.5mmを微砂、0.5mm未満を精良と示した。鈹物は石英を「英」、長石を「長」、雲母を「雲」、角閃石を「角」とし、鈹物名称不詳の赤色粒を「赤」、黒色粒を「黒」として表した。なお、これらの識別はすべて肉眼観察によるものである。
- ・「状態」は、主要計測部位である口縁部を「口」、胴部を「胴」、底部を「底」、「脚部」を「脚」などと表わし、残存状況を分数あるいは小破片は「片」と示した。また、復元も含めて全体の残存状況が高いものは、「完形」、「ほぼ完形」と表した。

土製品観察表（第10表）

- ・「計測値」、「重量」は、現状の最大値を示した。「色調（外面）」、「胎土・鈹物」の識別基準は、土器観察表に準じる。「時期」の「()」は推定される時期を示した。

石器観察表（第11表）

- ・「掲載番号」の空欄は、観察表のみで報告するものである。「計測値」、「重量」は、現状の最大値を示した。「時期」の「()」は推定される時期を示した。

木器観察表（第12表）

- ・「計測値」、「重量」の数値は、現状の最大値を示した。「樹種」、「木取り」の「—」は不明を示した。

金属器観察表（第13表）

- ・「計測値」、「重量」の数値は、現状の最大値を示した。

獣骨観察表（第14表）

- ・「時期」の「()」は推定される時期を示した。「計測値」の「—」は、計測不能を示した。

第5表 竪穴住居一覧表

| 遺構名 | 地区名 | 平面形 | 規模 (cm) | | | 底面海拔高 (cm) | 主軸 | 柱穴 | 壁体溝 | 時期 | 備考 |
|--------|-----|------|---------|----|----|------------|---------|----|-----|-------|-------------|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | | | |
| 竪穴住居 1 | F区 | (円形) | — | — | 9 | 212 | | | | 弥・中・Ⅱ | |
| 竪穴住居 2 | F区 | (方形) | — | — | 30 | 190 | N-4°-E | | | 古・前・Ⅱ | 床面より炭化材検出 |
| 竪穴住居 3 | J区 | (方形) | — | — | 54 | 168 | N-25°-W | ○ | ○ | 古・前・Ⅱ | 貼床 柱穴より柱材検出 |
| 竪穴住居 4 | K区 | (方形) | — | — | 32 | 200 | N-44°-E | | | 古・前・Ⅱ | |
| 竪穴住居 5 | K区 | (方形) | — | — | 45 | 178 | N 44° E | | | 古・前・Ⅱ | |

第6表 井戸一覧表

| 遺構名 | 地区名 | 平面形 | 断面形 | 規模 (cm) | | | 底面海拔高 (cm) | 時期 | 備考 |
|------|-----|------|-----|---------|----|-----|------------|-------|------|
| | | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | |
| 井戸 1 | J区 | (円形) | A b | 126 | — | 170 | 40 | 古・前・Ⅱ | 木器出土 |

第7表 土壇一覧表

| 遺構名 | 地区名 | 平面形 | 断面形 | 規模 (cm) | | | 底面海拔高 (cm) | 時期 | 備考 |
|------|-----|---------|-----|---------|-----|----|------------|---------|--------------|
| | | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | |
| 土壇 1 | A区 | (円形) | Aa | 225 | — | 88 | 121 | 弥・中・Ⅱ | 下層に炭・灰を多量に含む |
| 土壇 2 | A区 | (楕円形) | Aa | 172 | 157 | 44 | 162 | 弥・中・Ⅰ | |
| 土壇 3 | A区 | (楕円形) | Ab | — | — | 24 | 185 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇 4 | A区 | (楕円形) | Aa | 145 | 119 | 76 | 132 | 古・前・Ⅱ | 土器が多量に出土 |
| 土壇 5 | A区 | (楕円形) | Ab | 388 | — | 92 | 120 | 弥・中・Ⅱ | 土器が多量に出土 |
| 土壇 6 | A区 | (楕円形) | Aa | — | — | 45 | 171 | (弥・中・Ⅰ) | |
| 土壇 7 | A区 | (楕円形) | Aa | — | 174 | 52 | 168 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇 8 | A区 | (円形) | Aa | — | 107 | 55 | 155 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇 9 | A区 | (楕円形) | Ab | 124 | 77 | 49 | 153 | (弥・中・Ⅱ) | |
| 土壇10 | A区 | (楕円形) | Ab | 168 | 114 | 36 | 174 | 弥・中・Ⅰ | |
| 土壇11 | A区 | (隅丸長方形) | Aa | — | 119 | 39 | 169 | (弥・中・Ⅱ) | |
| 土壇12 | A区 | (楕円形) | Aa | — | 136 | 48 | 150 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇13 | A区 | (楕円形) | Aa | 216 | 140 | 30 | 181 | (弥・中・Ⅱ) | |
| 土壇14 | A区 | (円形) | Aa | 145 | 132 | 65 | 145 | (弥・中・Ⅱ) | |
| 土壇15 | A区 | (楕円形) | Aa | — | — | 45 | 173 | (弥・中・Ⅱ) | |
| 土壇16 | A区 | (楕円形) | Aa | — | — | 62 | 142 | 弥・中・Ⅱ | 土器が多量に出土 |
| 土壇17 | A区 | (楕円形) | Aa | — | — | 32 | 176 | (弥・中・Ⅱ) | |
| 土壇18 | A区 | (隅丸長方形) | Aa | — | 84 | 39 | 162 | 弥・中・Ⅰ | |
| 土壇19 | A区 | (楕円形) | Ab | 82 | 72 | 30 | 191 | 弥・中・Ⅱ | 土器が多量に出土 |
| 土壇20 | A区 | (楕円形) | Aa | — | 102 | 42 | 162 | (弥・中・Ⅱ) | |
| 土壇21 | A区 | (楕円形) | Aa | 199 | 145 | 74 | 135 | (弥・中・Ⅱ) | |
| 土壇22 | B区 | (楕円形) | Aa | — | 86 | 19 | 190 | 弥・中・Ⅰ | |
| 土壇23 | B区 | (不整楕円形) | Ab | 140 | — | 33 | 188 | (弥・中・Ⅰ) | |
| 土壇24 | B区 | (楕円形) | Ab | — | — | 45 | 168 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇25 | C区 | (楕円形) | Aa | — | — | 41 | 169 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇26 | C区 | (楕円形) | Ab | — | — | 61 | 156 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇27 | C区 | (楕円形) | Ab | — | 75 | 53 | 163 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇28 | C区 | (楕円形) | Aa | — | — | 35 | 195 | (弥・中・Ⅱ) | |
| 土壇29 | F区 | (円形) | Ca | 108 | — | 52 | 164 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇30 | F区 | (楕円形) | Aa | 100 | — | 32 | 160 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇31 | G区 | (円形) | Cb | 88 | — | 45 | 157 | (弥・中・Ⅱ) | |
| 土壇32 | G区 | (楕円形) | Ab | — | 119 | 48 | 162 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇33 | G区 | (楕円形) | Aa | 120 | 80 | 51 | 165 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇34 | G区 | (楕円形) | Aa | — | — | 24 | 176 | (弥・中・Ⅱ) | |
| 土壇35 | G区 | (楕円形) | Aa | — | 68 | 24 | 172 | (弥・中・Ⅱ) | |
| 土壇36 | G区 | (楕円形) | Ab | — | — | 27 | 181 | (弥・中・Ⅱ) | |
| 土壇37 | H区 | (円形) | Ab | 155 | 145 | 46 | 164 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇38 | H区 | (円形) | Ab | 82 | — | 34 | 174 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇39 | H区 | (楕円形) | Ab | 100 | — | 44 | 160 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇40 | H区 | (楕円形) | Aa | — | — | 31 | 171 | (弥・中・Ⅱ) | |
| 土壇41 | H区 | (楕円形) | Aa | — | — | 34 | 174 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇42 | H区 | (隅丸長方形) | Aa | 112 | 78 | 42 | 157 | (弥・中・Ⅱ) | |
| 土壇43 | H区 | (円形) | Ab | — | 41 | 19 | 182 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇44 | H区 | (楕円形) | Ab | — | — | 16 | 183 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇45 | I区 | (円形) | Bb | 60 | — | 68 | 134 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇46 | I区 | (楕円形) | Ca | — | — | 37 | 179 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇47 | I区 | (不整楕円形) | Ab | — | — | 60 | 168 | 弥・中・Ⅱ | 土器が多量に出土 |
| 土壇48 | I区 | (楕円形) | Aa | 87 | 70 | 25 | 191 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇49 | I区 | (楕円形) | Aa | — | 126 | 30 | 188 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇50 | I区 | (不整楕円形) | Ab | — | — | 40 | 160 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇51 | J区 | (楕円形) | Aa | 74 | — | 36 | 164 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇52 | J区 | (楕円形) | Ab | — | — | 24 | 181 | 弥・中・Ⅱ | |
| 土壇53 | J区 | (楕円形) | Ab | 105 | — | 56 | 162 | 弥・中・Ⅰ | |
| 土壇54 | J区 | (楕円形) | Aa | — | — | 15 | 170 | 弥・中・Ⅱ | |

第8表 溝一覽表

| 遺構名 | 地区名 | 断面形 | 規模 (cm) | | | 底面海拔高 (cm) | 時期 | 備考 |
|-----|-----|-----|---------|-------|----|------------|--------|-------------|
| | | | 上端幅 | 下端幅 | 深さ | | | |
| 溝1 | A区 | Ab | 35~96 | 10~27 | 12 | 219 | 弥・中・II | 水流方向は東から北西 |
| 溝2 | A区 | Ab | 27~54 | 7~18 | 15 | 210 | 弥・中・II | 水流方向は東から北西 |
| 溝3 | F区 | Ab | 32~46 | 9~14 | 8 | 210 | 弥・中・II | 水流方向は北東から南西 |

第9表 土器観察表

| 掲載番号 | 地区名 | 遺構・土層名 | 種別 | 器種 | 寸法 (cm) | | 色澤 (外面) | 胎土・塗飾 | 焼成 | 状態 | 形態・手法の特徴など | | |
|------|-----|--------|------|-----|---------|------|-----------------|-----------------|--------------|------|-----------------------------|---|---------------------------------|
| | | | | | 口径 | 底径 | | | | | 外面 | 内面 | |
| 1 | A区 | 土層1 | 弥生土器 | 壺 | — | 5.0 | 黄灰(2.5Y6/1) | 砂粒・長・白雲・赤 | 良好 | 吹2/3 | 胴ハケミ、ミガキ、刺突文 スズ付首 | 胴ミガキ | |
| 2 | A区 | 土層1 | 弥生土器 | 高杯 | — | 16.2 | 灰白(10YR8/2) | 砂粒・長・石・雲 | 良好 | 脚1/2 | 胴ミガキ、沈線文3条、口孔2個(単位 刻 脚端部ナデ) | 胴シボリメ、ミガキ | |
| 3 | A区 | 土層2 | 弥生土器 | 壺 | 26.0 | — | 紅・赤・黄(7.5YR7/4) | 細砂・長・白雲・赤 | 良好 | 1口 | 1口ナデ 胴ミガキ | 1口底、胴ナデ | |
| 4 | A区 | 土層3 | 弥生土器 | 壺 | 15.0 | — | 紅・赤・黄(7.5YR6/3) | 細砂・長・白 | 良好 | 口1/4 | 口縁ナデ 胴ハケミ、ミガキ スズ付首 | 口縁ナデ 胴ナデ、ハケミ | |
| 5 | A区 | 土層3 | 弥生土器 | 高杯 | — | 14.5 | — | 紅・赤・黄(7.5YR6/3) | 良好 | 脚1/3 | 杯、胴ミガキ、沈線文3条、6条、3条、三角孔3個 | 杯ミガキ 胴シボリメ、ナデ 円盤突塊 | |
| 6 | A区 | 土層3 | 弥生土器 | 壺 | 4.5 | 2.9 | 6.6 | 紅・赤・黄(10YR7/2) | 細砂・長・石 | 良好 | 完形 | 1口ナデ 胴ミガキ | 1口底、胴ナデ |
| 7 | A区 | 土層4 | 土師器 | 壺 | 17.0 | — | — | 紅・赤・黄(7.5YR5/3) | 細砂・長・白雲 | 良好 | 1口/6 | 1口底ミガキ | 1口底ミガキ |
| 8 | A区 | 土層4 | 土師器 | 壺 | 13.0 | 2.7 | 18.7 | 紅・赤・黄(7.5YR6/4) | 細砂・長・石・赤・黒 | 良好 | 完形 | 口縁シガキ、沈線文7条 胴ハケミ、ミガキ スズ付首 | 口縁ナデ 胴ナデ 底エビオサエ |
| 9 | A区 | 土層4 | 土師器 | 壺 | 12.5 | 1.0 | (20.0) | 紅・赤・黄(7.5YR7/3) | 細砂・長・石・白・赤 | 良好 | 完形 | 口縁シガキ、沈線文7条 胴ハケミ、ミガキ スズ付首 | 1口縁ナデ 胴ナデ 底エビオサエ |
| 10 | A区 | 土層4 | 土師器 | 壺 | 13.9 | 3.2 | (19.0) | 灰黄(10YR6/2) | 砂粒・長・石・雲 | 良好 | 完形 | 1口縁シガキ、沈線文9条 胴ハケミ、ミガキ スズ付首 | 口縁ナデ 胴ナデ 底エビオサエ |
| 11 | A区 | 土層4 | 土師器 | 壺 | 13.0 | 0.9 | (19.0) | 紅・赤・黄(7.5YR6/3) | 細砂・長・石・角 | 良好 | 完形 | 1口縁シガキ、沈線文9条 胴ハケミ、ミガキ、刺突文3個 スズ付首 | 口縁ナデ 胴ナデ 底エビオサエ |
| 12 | A区 | 土層4 | 土師器 | 壺 | 13.9 | 4.4 | 19.7 | 紅・赤・黄(10YR7/3) | 細砂・長・石・角 | 良好 | 完形 | 口縁シガキ、沈線文7条 胴ハケミ、ミガキ、刺突文2個 スズ付首 | 口縁ナデ 胴ナデ 底エビオサエ |
| 13 | A区 | 土層4 | 土師器 | 壺 | 11.6 | 1.2 | (17.0) | 紅・赤・黄(10YR6/3) | 細砂・長・白雲 | 良好 | 完形 | 口縁シガキ、沈線文8条 胴ハケミ、ミガキ スズ付首 | 1口縁ナデ 胴ナデ 底エビオサエ |
| 14 | A区 | 土層4 | 土師器 | 壺 | 14.0 | 3.3 | 22.1 | 紅・赤・黄(10YR7/3) | 細砂・長・石・角・赤・黒 | 良好 | 完形 | 口縁シガキ、沈線文9条 胴ハケミ、ミガキ スズ付首 吹きこぼれ痕 | 1口縁ナデ 胴ナデ 底エビオサエ |
| 15 | A区 | 土層4 | 土師器 | 壺 | 14.3 | 0.9 | (21.5) | 紅・赤・黄(7.5YR6/4) | 砂粒・長・石・赤・黒 | 良好 | 口1/1 | 1口縁シガキ、沈線文8条 胴ハケミ、ミガキ スズ付首 | 口縁ナデ 胴ナデ 底エビオサエ |
| 16 | A区 | 土層4 | 土師器 | 壺 | 12.9 | 0.9 | 17.9 | 明赤(5YR5/6) | 砂粒・長・石・雲 | 良好 | 完形 | 口縁シガキ、沈線文6条 胴ハケミ、ミガキ スズ付首 | 口縁ナデ 胴ナデ 底エビオサエ |
| 17 | A区 | 土層4 | 土師器 | 壺 | 15.5 | 3.8 | 23.2 | 紅・赤・黄(7.5YR7/1) | 細砂・長・石・赤・黒 | 良好 | 完形 | 1口縁シガキ、沈線文6条 胴ハケミ、ミガキ スズ付首 | 1口縁ナデ 胴ナデ 底エビオサエ |
| 18 | A区 | 土層4 | 土師器 | 壺 | 15.8 | 0.8 | 26.6 | 紅・赤・黄(10YR6/3) | 砂粒・長・石・雲 | 良好 | 完形 | 1口縁シガキ、沈線文7条 胴ハケミ、ミガキ、刺突文2個、口孔1個 スズ付首 | 口縁ナデ 胴ナデ 底エビオサエ |
| 19 | A区 | 土層4 | 土師器 | 壺 | 12.9 | 4.1 | 18.9 | 灰黄(10YR6/2) | 砂粒・長・石 | 良好 | 完形 | 1口縁シガキ、沈線文8条 胴ミガキ スズ付首 | 口縁ナデ 胴ナデ 底エビオサエ |
| 20 | A区 | 土層4 | 土師器 | 壺 | — | 3.0 | — | 紅・赤・黄(7.5YR6/4) | 細砂・長・石 | 良好 | 底1/1 | 底ミガキ | 底ミガキ |
| 21 | A区 | 土層4 | 土師器 | 白付鉢 | — | 5.0 | — | 紅・赤・黄(10YR7/2) | 細砂・長・石・雲 | 良好 | 底1/1 | 胴ナデ | 胴ナデ |
| 22 | A区 | 土層4 | 土師器 | 鉢 | 15.4 | 6.0 | — | 紅・赤・黄(7.5YR6/4) | 細砂・長・石・赤・黒 | 良好 | 完形 | 1口縁、縁強ナデ | 1口底、胴ハケミ |
| 23 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | 15.0 | — | — | 灰白(10YR7/2) | 砂粒・長・石・赤・黒 | 良好 | 1口/3 | 口縁凹線文2条 胴ナデ、ハケミ、刺突文2条、押圧文 | 1口縁ナデ 胴ミガキ |
| 24 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | 15.3 | — | — | 紅・赤・黄(10YR7/2) | 細砂・長・石・雲 | 良好 | 1口/1 | 口縁凹線文2条 胴ナデ、ハケミ、刺突文2条、押圧文 | 1口縁ナデ 胴ミガキ |
| 25 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | 15.2 | — | — | 紅・赤・黄(10YR7/2) | 細砂・長・石・角・赤・黒 | 良好 | 1口/1 | 1口縁凹線文3条 胴ナデ、ハケミ、刺突文2条、押圧文 | 1口縁ナデ 胴ナデ、部ミガキ |
| 26 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | (14.0) | — | — | 灰黄(10YR6/2) | 細砂・長・石・赤・黒 | 良好 | 1口片 | 1口縁刻目 胴ナデ、刺突文2条、刻目 | 1口底、胴ナデ |
| 27 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | (14.0) | — | — | 黄灰(2.5Y6/1) | 細砂・長・石・角・赤・黒 | 良好 | 1口/6 | 口縁凹線文2条 胴ナデ、刺突文2条、押圧文 胴ハケミ | 口縁、胴ナデ |
| 28 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | 20.6 | — | — | 紅・赤・黄(10YR7/2) | 砂粒・長・石・赤・黒 | 良好 | 胴1/4 | 1口縁凹線文1条 胴ナデ、ハケミ、刺突文2条、押圧文 | 口縁ナデ、胴シボリメ、ナデ |
| 29 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | — | 8.0 | — | 紅・赤・黄(10YR7/2) | 細砂・長・石・赤・黒 | 良好 | 底1/1 | 胴ミガキ、ハケミ、ミガキ、刺突文 | 底エビオサエ、一部ナデ、ハケミ |
| 30 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | — | 7.8 | — | 灰白(10YR8/2) | 砂粒・長・石・赤・黒 | 良好 | 底1/1 | 胴ハケミ、ミガキ | 底エビオサエ、ナデ、ハケミ 底エビオサエ |
| 31 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | 12.6 | 5.2 | 22.7 | 紅・赤・黄(10YR7/2) | 細砂・長・石・角・赤・黒 | 良好 | 完形 | 口縁凹線文1条 胴ミガキ、ナデ、ハケミ、ミガキ スズ付首 | 口縁ナデ 胴ミガキ、ケズリ、ナデ、ハケミ、ミガキ |
| 32 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | 14.0 | 4.3 | 25.0 | 灰白(10YR7/1) | 砂粒・長・石・雲・赤 | 良好 | 完形 | 口縁凹線文1条 胴ミガキ、ナデ、ハケミ、ミガキ スズ付首 | 口縁ナデ 胴ミガキ、ケズリ、ナデ、ハケミ、ミガキ |
| 33 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | 14.9 | 5.2 | 26.9 | 紅・赤・黄(10YR7/2) | 細砂・長・石・雲・赤 | 良好 | 完形 | 口縁凹線文1条 胴ミガキ、ナデ、ハケミ、ミガキ、底縁部ナデ スズ付首 | 口縁ナデ 胴ミガキ、ケズリ、ナデ、ハケミ、ミガキ |
| 34 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | 14.6 | 5.5 | 28.1 | 紅・赤・黄(10YR7/2) | 細砂・長・石・雲・赤 | 良好 | ほぼ完形 | 1口縁凹線文1条 胴ナデ、ハケミ、ミガキ スズ付首 | 1口縁ナデ 胴ミガキ、ケズリ、ナデ、ミガキ |
| 35 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | 14.5 | 5.2 | 27.1 | 紅・赤・黄(10YR7/3) | 細砂・長・石・雲・赤 | 良好 | 完形 | 口縁凹線文1条 胴ハケミ、ミガキ スズ付首 | 口縁ナデ 胴ミガキ、ケズリ、ナデ、ミガキ |
| 36 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | 12.8 | — | — | 灰白(10YR8/2) | 細砂・長・石・雲・赤 | 良好 | 口1/4 | 口縁ナデ 胴ミガキ、ハケミ | 口縁ナデ 胴ミガキ、ケズリ、ナデ |
| 37 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | 17.2 | — | — | 灰白(10YR8/2) | 細砂・長・石・雲・赤 | 良好 | 口1/5 | 1口縁凹線文1条 胴ナデ、ハケミ、ミガキ スズ付首 | 口縁ナデ 胴ミガキ、ケズリ、ナデ |
| 38 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | 21.0 | — | — | 紅・赤・黄(10YR7/2) | 細砂・長・石・赤・黒 | 良好 | 口1/4 | 1口縁凹線文2条、刻目 胴ナデ、ハケミ | 1口底、胴ナデ |
| 39 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | (28.6) | — | — | 明赤(10YR5/1) | 細砂・長・石・雲・赤 | 良好 | 1口片 | 1口縁ナデ 胴ミガキ、ナデ、ハケミ | 1口縁ナデ、ハケミ 胴ナデ |
| 40 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | — | 3.0 | — | 紅・赤・黄(10YR7/2) | 細砂・長・石・赤・黒 | 良好 | 底2/3 | 胴ハケミ、ミガキ スズ付首 | 胴ミガキ、ハケミ、ミガキ |
| 41 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | — | 6.3 | — | 紅・赤・黄(10YR6/4) | 細砂・長・石・雲・赤 | 良好 | 底1/1 | 胴ハケミ、ミガキ スズ付首 凸底 | 胴ミガキ、ナデ、ミガキ |
| 42 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | — | 6.0 | — | 紅・赤・黄(10YR7/2) | 細砂・長・石・雲・赤 | 良好 | 底1/1 | 胴ナデ、ミガキ スズ付首 | 胴ミガキ、ナデ、ミガキ |
| 43 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 高杯 | 19.5 | 8.8 | 11.1 | 紅・赤・黄(10YR7/2) | 細砂・長・石・角・赤・黒 | 良好 | 完形 | 口縁凹線文1条 杯エビオサエ、ハケミ、ミガキ、刺突文2条、三角孔5個 脚端部凹線文1条 | 1口縁ナデ、ミガキ、杯ナデ、ミガキ 胴シボリメ、ナデ 円盤突塊 |
| 44 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 高杯 | 20.2 | 9.0 | 12.5 | 灰黄(10YR6/2) | 砂粒・長・石・雲・赤 | 良好 | 完形 | 1口縁凹線文1条 杯エビオサエ、ミガキ、刺突文2条、三角孔5個 脚端部凹線文1条 | 1口縁ナデ、ミガキ、杯ナデ、ミガキ 胴シボリメ、ナデ 円盤突塊 |
| 45 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 白付鉢 | 24.0 | — | — | 紅・赤・黄(10YR7/2) | 細砂・長・石 | 良好 | 口1/5 | 口縁ナデ 胴ミガキ | 口縁ナデ 胴ミガキ、ケズリ、ナデ、ミガキ |
| 46 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 白付鉢 | — | 7.4 | — | 灰黄(10YR6/2) | 細砂・長・石・角 | 良好 | 脚1/1 | 杯、胴ナデ | 杯、胴ナデ 円盤突塊 |
| 47 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 白付鉢 | — | 8.4 | — | 紅・赤・黄(7.5YR7/3) | 細砂・長・石・角・赤・黒 | 良好 | 脚1/1 | 杯ナデ、胴ミガキ、口孔1個 脚端部ナデ | 杯ナデ 胴ミガキ、ナデ 円盤突塊 |
| 48 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 白付鉢 | — | 10.6 | — | 灰白(10YR7/1) | 砂粒・長・石・角・赤・黒 | 良好 | 脚1/3 | 胴ナデ、胴ミガキ、口孔1個、凸底 脚端部凹線文1条 | 胴シボリメ、ナデ 円盤突塊 |
| 49 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 白付鉢 | — | 9.1 | — | 紅・赤・黄(10YR7/2) | 細砂・長・石・雲・赤 | 良好 | 脚1/3 | 杯ナデ、ミガキ、口孔1個、凹底不明、下段16個未定数 脚端部ナデ | 杯ナデ、ミガキ、胴シボリメ、ナデ 円盤突塊 |
| 50 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | 3.4 | — | 2.2 | 灰白(10YR7/1) | 細砂・長・石・赤・黒 | 良好 | 完形 | ナデ | ナデ |
| 51 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | 4.5 | 2.7 | 6.1 | 黄灰(2.5Y4/1) | 細砂・長・石 | 良好 | 完形 | エビオサエ、ナデ | エビオサエ、ナデ |
| 52 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 壺 | 4.7 | 2.7 | 6.8 | 黄灰(2.5Y5/1) | 細砂・長・石 | 良好 | 完形 | エビオサエ、ナデ | エビオサエ、ナデ |
| 53 | A区 | 土層5 | 弥生土器 | 水甕 | 7.6 | 3.7 | 16.8 | 紅・赤・黄(10YR7/2) | 細砂・長・石・赤・黒 | 良好 | 完形 | 口縁凹線文1条 胴ナデ 胴ナデ、ミガキ | 口縁ナデ 胴ミガキ、ケズリ、ナデ、ハケミ |
| 54 | A区 | 土層6 | 弥生土器 | 壺 | (26.7) | — | — | 紅・赤・黄(7.5YR7/4) | 細砂・長・石・雲・赤 | 良好 | 脚1/6 | 口縁刻目 胴ハケミ、沈線文6条、ナデ | 口縁エビオサエ、ナデ 胴ミガキ、ケズリ、ナデ |
| 55 | A区 | 土層6 | 弥生土器 | 壺 | — | — | — | 紅・赤・黄(10YR7/3) | 細砂・長・石・角 | 良好 | 脚1片 | 胴ハケミ、ミガキ、刺突文2条、刻目 | 胴エビオサエ、ナデ |
| 56 | A区 | 土層7 | 弥生土器 | 壺 | (13.9) | — | — | 明赤(5YR5/1) | 砂粒・長・石・雲・赤 | 良好 | 1口/6 | 口縁凹線文1条 胴ハケミ、ミガキ | 1口縁ナデ 胴ミガキ、ケズリ、ナデ、ハケミ |

| 掲載番号 | 地区名 | 遺構・土層名 | 器種 | 計測値(mm) | | | 色調(外面) | 胎土・鉱物 | 焼成 | 状態 | 形態・手法の特徴など | | |
|------|-----|--------|------|---------|------|------|--------|----------------|-----------|----|------------|--|----------------------|
| | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | 外面 | | 内面 |
| | | | | | | | | | | | 形状 | 文様 | 形状 |
| 203 | I区 | 土層47 | 弥生土器 | 壺 | 6.5 | 4.4 | 12.0 | にじみ黄緑(10YR7/2) | 細砂・長石 | 良好 | 底1/1 | 口縁ナデ 胴ナデ、ハケム、ミガキ、刺突文 | 口縁ナデ 底エビオサエ |
| 204 | I区 | 土層47 | 弥生土器 | 壺 | 6.3 | 4.0 | 10.5 | にじみ黄緑(10YR7/2) | 細砂・長石 | 良好 | 底1/1 | 口縁ナデ 胴ナデ、ハケム、ミガキ、刺突文 | 口縁ナデ 胴ナデ、ミガキ 底エビオサエ |
| 205 | I区 | 土層47 | 弥生土器 | 壺 | 15.0 | — | — | にじみ黄緑(10YR6/3) | 砂礫・長石・赤黒 | 良好 | 口1/6 | 口縁ナデ 胴ナデ、ハケム | 口縁ナデ 胴ハケム、ミガキ |
| 206 | I区 | 土層47 | 弥生土器 | 壺 | 14.8 | — | — | 灰黄(2.5Y6/2) | 細砂・長石・赤黒 | 良好 | 口1/4 | 口縁ナデ 胴ナデ、ハケム | 口縁ナデ |
| 207 | I区 | 土層47 | 弥生土器 | 壺 | 12.2 | — | — | にじみ黄緑(10YR6/3) | 細砂・長石・赤黒 | 良好 | 口1/6 | 口縁凹線文1条 胴ナデ、ハケム | 口縁ナデ |
| 208 | I区 | 土層47 | 弥生土器 | 壺 | 27.8 | — | — | 灰黄(2.5Y7/2) | 細砂・長石 | 良好 | 口1/4 | 口縁ナデ 胴ナデ、ハケム | 口縁ナデ 胴ハケム、ミガキ |
| 209 | I区 | 土層47 | 弥生土器 | 壺 | 18.8 | — | — | にじみ黄(7.5YR7/4) | 細砂・長石・赤黒 | 良好 | 口1/6 | 口縁凹線文2条 胴ナデ、ハケム | 口縁ナデ 胴ナデ、ハケム |
| 210 | I区 | 土層47 | 弥生土器 | 壺 | 18.0 | — | — | 灰黄(10YR6/2) | 細砂・長石・赤黒 | 良好 | 口1/4 | 口縁凹線文2条、刻目、内彫浮文2個3列 頸部付突帯文1条、押圧文 胴ハケム | 口縁ナデ 胴ハケム、ミガキ |
| 211 | I区 | 土層47 | 弥生土器 | 壺 | 26.8 | — | — | 灰黄(2.5Y6/1) | 細砂・長石・角 | 良好 | 口1/4 | 口縁ナデ 頸部付突帯文1条、押圧文 胴ハケム | 口縁ナデ 胴ハケム、ミガキ |
| 212 | I区 | 土層47 | 弥生土器 | 壺 | 32.2 | — | — | 灰黄(2.5Y7/2) | 細砂・長石 | 良好 | 口1/4 | 口縁ナデ 頸部付突帯文1条、押圧文 胴ハケム | 口縁ナデ、ミガキ? 胴ハケム、ミガキ |
| 213 | I区 | 土層47 | 弥生土器 | 壺 | — | 10.2 | — | 灰黄(2.5Y7/2) | 細砂・長石 | 良好 | 底1/1 | 胴ナデ スス付着 | 胴エビオサエ、ナデ、ミガキ |
| 214 | I区 | 土層47 | 弥生土器 | 壺 | — | 5.2 | — | 灰白(10YR8/2) | 細砂・長石・角 | 良好 | 底3/2 | 胴ナデ | 胴ナデ |
| 215 | I区 | 土層47 | 弥生土器 | 壺 | 8.4 | — | — | 灰黄(10YR6/2) | 細砂・長石・角 | 良好 | 底3/4 | 胴ナデ、ミガキ | 胴ハケム 底エビオサエ |
| 216 | I区 | 土層47 | 弥生土器 | 高杯 | 20.0 | — | — | にじみ黄緑(10YR6/3) | 細砂・長石・角 | 良好 | 口1/4 | 口縁ナデ 杯ミガキ | 口縁ナデ 杯ミガキ |
| 217 | I区 | 土層47 | 弥生土器 | 高杯 | 19.8 | — | — | にじみ黄緑(10YR7/3) | 細砂・長石・赤黒 | 良好 | 口1/4 | 口縁ナデ 杯ミガキ | 口縁ナデ 杯ミガキ |
| 218 | I区 | 土層47 | 弥生土器 | 高杯 | 20.0 | — | — | 灰黄(10YR6/2) | 細砂・長石・赤黒 | 良好 | 口1/6 | 口縁ナデ、刻目 杯ミガキ | 口縁ナデ 杯ミガキ |
| 219 | I区 | 土層47 | 弥生土器 | 高杯 | 21.8 | — | — | 灰黄(10YR6/2) | 細砂・長石 | 良好 | 口1/6 | 口縁ナデ 杯ミガキ | 口縁ナデ 杯ミガキ |
| 220 | I区 | 土層47 | 弥生土器 | 高杯 | — | 9.2 | — | 灰黄(10YR6/2) | 砂礫・長石・赤黒 | 良好 | 脚1/1 | 杯ミガキ 脚ミガキ、口1/4、口1/2 12個未定 脚部ナデ | 杯ミガキ 胴ナデ 凹線文付 |
| 221 | I区 | 土層48 | 弥生土器 | 壺 | 16.0 | — | — | にじみ黄(5YR6/4) | 細砂・長石・赤黒 | 良好 | 口1/6 | 口縁ナデ 頸部付突帯文1条、押圧文 胴ハケム | 口縁ナデ 胴ミガキ |
| 222 | I区 | 土層48 | 弥生土器 | 壺 | 14.0 | 4.6 | 23.1 | にじみ黄緑(10YR7/2) | 細砂・長石・赤黒 | 良好 | 底1/1 | 口縁ナデ 胴ミガキ スス付着 | 口縁ナデ 胴ミガキ |
| 223 | I区 | 土層49 | 弥生土器 | 壺 | 16.4 | — | — | 灰黄(10YR6/2) | 細砂・長石・赤黒 | 良好 | 口1/3 | 口縁凹線 頸部付突帯文2条、刻目 胴ハケム | 口縁ナデ 胴ハケム |
| 224 | I区 | 土層49 | 弥生土器 | 壺 | — | 9.0 | — | 灰白(2.5Y7/1) | 細砂・長石・黒 | 良好 | 底1/1 | 胴ミガキ | 底エビオサエ、ナデ |
| 225 | I区 | 土層50 | 弥生土器 | 壺 | 14.1 | — | — | 黄(2.5YR6/6) | 細砂・長石・赤黒 | 良好 | 口1/6 | 口縁ナデ、刻目 胴ナデ、ミガキ? | 口縁ナデ、ミガキ? |
| 226 | I区 | 土層50 | 弥生土器 | 高杯 | — | — | — | にじみ黄緑(10YR6/3) | 砂礫・長石 | 良好 | 脚1/1 | 杯ミガキ 脚ミガキ、口1/4、口1/2 12個未定 脚部ナデ | 杯ミガキ 脚ミガキ |
| 227 | I区 | 土層50 | 弥生土器 | 台付鉢 | — | 7.5 | — | 灰黄(10YR6/2) | 細砂・長石・赤黒 | 良好 | 脚1/1 | 杯、脚ミガキ 胴部ナデ | 杯ミガキ 脚ミガキ、ナデ 凹線文付 |
| 228 | I区 | 包含層 | 須恵器 | 壺 | — | — | — | 灰(N6/1) | 粗砂 | 良好 | 脚1/1 | 片打タケ、カキ | 内面凹線 |
| 229 | I区 | 彫穴付器3 | 土師器 | 壺 | 13.9 | — | — | にじみ黄(7.5YR7/4) | 砂礫・長石・赤黒 | 良好 | 口1/3 | 口縁クガキ沈線文2条 胴ハケム、ミガキ | 口縁ナデ 胴クワ |
| 230 | I区 | 彫穴付器3 | 土師器 | 壺 | 14.9 | — | — | 黄(5YR7/6) | 細砂・長石・赤黒 | 良好 | 口1/1 | 口縁クガキ沈線文2条 胴ハケム | 口縁ナデ 胴クワ |
| 231 | I区 | 彫穴付器3 | 土師器 | 鉢 | 11.9 | — | — | 黄(5YR6/6) | 細砂・長石 | 良好 | 口1/6 | 口縁ナデ | 口縁ナデ |
| 232 | I区 | 彫穴付器3 | 土師器 | 鉢 | 13.2 | — | — | 黄(5YR6/8) | 砂礫・黒 | 良好 | 口1/4 | 口縁、杯、脚ミガキ | 口縁、杯ミガキ |
| 233 | I区 | 井戸1 | 土師器 | 壺 | 17.9 | — | — | にじみ黄(5YR6/4) | 細砂・長石 | 良好 | 口1/6 | 口縁ミガキ 赤色顔料塗布 | 口縁ミガキ |
| 234 | I区 | 井戸1 | 土師器 | 壺 | 9.5 | — | — | 灰黄(10YR6/2) | 細砂・長石 | 良好 | 口1/2 | 口縁、頸ナデ 胴ミガキ | 口縁ナデ 胴ナデ、ミガキ |
| 235 | I区 | 井戸1 | 土師器 | 壺 | 13.4 | 2.9 | 17.0 | 黒緑(10YR3/1) | 細砂・長石・赤 | 良好 | ほぼ完形 | 口縁クガキ沈線文2条 胴ハケム、ミガキ、刺突文2個 スス付着 | 口縁ナデ 胴クワ? 底エビオサエ |
| 236 | I区 | 井戸1 | 土師器 | 壺 | 14.7 | — | — | 灰黄(2.5Y6/1) | 細砂・長石・赤・赤 | 良好 | 口1/2 | 口縁クガキ沈線文11条 胴ミガキ、刺突文3個 スス付着 | 口縁ナデ 胴クワ? |
| 237 | I区 | 井戸1 | 土師器 | 壺 | 15.0 | 3.2 | 25.7 | 灰白(7.5Y7/2) | 細砂・長石・角 | 良好 | ほぼ完形 | 口縁クガキ沈線文2条 胴ハケム、ミガキ、刺突文2個 スス付着 | 口縁ナデ 胴クワ? 底エビオサエ |
| 238 | I区 | 井戸1 | 土師器 | 鉢 | 12.9 | 4.4 | 5.8 | 黄(5YR7/6) | 細砂・長石 | 良好 | 口1/3 | 口縁ナデ | 口縁ナデ 鉢ナデ、ハケム |
| 239 | I区 | 井戸1 | 土師器 | 鉢 | 14.1 | 4.2 | 5.7 | にじみ黄(5YR6/4) | 細砂・長石 | 良好 | 底1/1 | 口縁ナデ 鉢ハケム、ミガキ | 口縁ナデ 鉢ハケム、ミガキ |
| 240 | I区 | 井戸1 | 土師器 | 台付鉢 | 13.9 | 9.2 | 7.8 | にじみ黄(7.5YR7/3) | 細砂・長石 | 良好 | 底1/1 | 杯、胴ハケム、ナデ | 杯、胴ナデ |
| 241 | I区 | 土層51 | 弥生土器 | 壺 | 15.8 | — | — | にじみ黄(10YR6/3) | 細砂・長石 | 良好 | 口1/4 | 口縁凹線文2条、刻目 胴ナデ、ハケム | 口縁ナデ、胴クワ? |
| 242 | I区 | 土層51 | 弥生土器 | 壺 | 16.0 | — | — | にじみ黄(10YR6/4) | 細砂・長石 | 良好 | 口1/4 | 口縁凹線文2条、刻目、内彫浮文2個3列 頸ナデ、ハケム 頸部付突帯文1条、押圧文 | 口縁ナデ、胴クワ? ナデ |
| 243 | I区 | 土層51 | 弥生土器 | 壺 | 15.6 | — | — | にじみ黄緑(10YR7/2) | 細砂・長石・赤黒 | 良好 | 口1/4 | 口縁凹線文2条、刻目、内彫浮文2個3列 頸ナデ、ハケム 頸部付突帯文1条、押圧文 | 口縁ナデ 頸ナデ、ハケム 胴一部ミガキ? |
| 244 | I区 | 土層51 | 弥生土器 | 壺 | 16.9 | — | — | 灰黄(10YR6/2) | 細砂・長石・赤 | 良好 | 口1/6 | 口縁ナデ、刻目 胴ミガキ? | 口縁ナデ 胴ハケム、ミガキ |
| 245 | I区 | 土層51 | 弥生土器 | 高杯 | 18.9 | — | — | にじみ黄(7.5YR6/3) | 細砂・長石・赤黒 | 良好 | 口1/6 | 口縁ナデ 杯ミガキ | 口縁ナデ 杯ミガキ |
| 246 | I区 | 土層53 | 弥生土器 | 壺 | 9.0 | — | — | 灰黄(10YR6/2) | 細砂・長石 | 良好 | 口1/6 | 口縁ナデ 頸部付突帯文2条、ハケム | 口縁ナデ 胴ナデ |
| 247 | I区 | 土層53 | 弥生土器 | 壺 | — | 6.4 | — | 黄(5YR6/6) | 砂礫・長石 | 良好 | 底1/1 | 胴エビオサエ、ミガキ | 胴ナデ、ハケム |
| 248 | I区 | 土層53 | 弥生土器 | 高杯 | — | 12.8 | — | 灰白(10YR8/2) | 細砂・長石・赤 | 良好 | 脚1/1 | 脚ナデ、ミガキ | 脚ナデ、ハケム |
| 249 | I区 | 土層53 | 弥生土器 | 壺 | 30.2 | — | — | にじみ黄(7.5YR7/3) | 細砂・長石・角 | 良好 | 口1/6 | 口縁ナデ、刻目 胴ナデ | 口縁ナデ、刻目 頸部付突帯文、刻目 |
| 250 | I区 | 土層54 | 弥生土器 | 壺 | 36.0 | — | — | 灰黄(10YR6/2) | 細砂・長石・赤・黒 | 良好 | 口1/4 | 口縁ナデ 胴ハケム、ミガキ、刺突文3段 | 口縁ナデ、ミガキ |
| 251 | I区 | 土層54 | 弥生土器 | 壺 | 16.0 | — | — | にじみ黄(10YR7/3) | 細砂・長石 | 良好 | 口1/6 | 口縁ナデ 胴ミガキ | 口縁ナデ 胴ハケム、ミガキ |
| 252 | I区 | 土層54 | 弥生土器 | 壺 | 18.6 | — | — | にじみ黄(10YR7/3) | 細砂・長石・赤 | 良好 | 口1/5 | 口縁ナデ 胴ハケム | 口縁ナデ 胴ミガキ |
| 253 | I区 | 土層54 | 弥生土器 | 壺 | 19.5 | — | — | にじみ黄(10YR7/2) | 細砂・長石 | 良好 | 口1/3 | 口縁ナデ 胴ハケム、ミガキ | 口縁ナデ 胴ハケム、ミガキ |
| 254 | I区 | 土層54 | 弥生土器 | 壺 | 10.8 | — | — | 灰黄(10YR6/2) | 細砂・長石 | 良好 | 口1/4 | 口縁ナデ 胴ハケム、ミガキ、刺突文 スス付着 | 口縁ナデ 胴ハケム、ミガキ |
| 255 | I区 | 土層54 | 弥生土器 | 壺 | — | 6.0 | — | 灰黄(10YR6/2) | 砂礫・長石・赤・赤 | 良好 | 底2/3 | 胴ナデ、ミガキ? | 胴ナデ、ハケム |
| 256 | I区 | 土層54 | 弥生土器 | 壺 | — | 4.8 | — | 黒緑(10YR3/1) | 細砂・長石 | 良好 | 底1/3 | 胴ハケム、ミガキ 凹線 | 胴ナデ |
| 257 | I区 | 土層54 | 弥生土器 | 壺 | — | 4.8 | — | 灰黄(7.5YR6/3) | 細砂・長石・赤・黒 | 良好 | 底1/3 | 胴ナデ、凹線 | 胴エビオサエ、ミガキ? |
| 258 | I区 | 土層54 | 弥生土器 | 壺 | — | 9.2 | — | 黄(2.5YR6/6) | 砂礫・長石・赤・黒 | 良好 | 底3/2 | 胴ミガキ | 胴エビオサエ、ナデ |
| 259 | I区 | 包含層 | 弥生土器 | 壺 | 18.0 | — | — | にじみ黄(7.5YR7/4) | 細砂 | 良好 | 口1/6 | 口縁凹線文3条 胴ナデ、凹線文2条 | 口縁、頸部付突帯文 |
| 260 | I区 | 包含層 | 土師器 | 高杯 | 19.2 | — | — | 黄(2.5YR6/6) | 細砂 | 良好 | 口1/6 | 口縁ナデ 杯、胴ミガキ | 口縁ナデ 杯ミガキ 胴ナデ |
| 261 | I区 | 包含層 | 須恵器 | 高背碗 | 9.0 | — | — | 灰(N6/1) | 粗砂 | 良好 | 高背片 | 高背碗の付け、ナデ | ナデ |
| 262 | K区 | 彫穴付器4 | 土師器 | 壺 | — | — | — | にじみ黄(7.5YR7/4) | 前土・長石・赤・黒 | 良好 | 口1/6 | 口縁クガキ沈線文? 胴ハケム | 口縁ナデ 胴クワ? |
| 263 | K区 | 彫穴付器3 | 土師器 | 壺 | 12.0 | — | — | にじみ黄(10YR7/3) | 細砂・長石 | 良好 | 口1/6 | 口縁ナデ | 口縁ナデ 胴クワ? |

第10表 土製品観察表

| 掲載番号 | 地区名 | 遺構・土層名 | 器種 | 計測値(mm) | | | 重量(g) | 色調(外面) | 胎土・鉱物 | 焼成 | 残存状況 | 時期 | 備考 |
|------|-----|--------|--------|---------|-------|------|-------|---------------|-----------|----|------|----------|-----------------------|
| | | | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | | | | | | | |
| C 1 | A区 | 土層5 | 分銅形土製品 | 74.5 | 120.1 | 10.5 | 92.95 | 灰黄灰(10YR6/2) | 細砂・長石・赤・赤 | 良好 | 欠損 | 弥・中・II | 表クガキ沈線文、重弧文、透線刺突文 裏ナデ |
| C 2 | A区 | 土層6 | 円板形土製品 | 51.5 | 48.5 | 8.5 | 26.34 | 黄灰(2.5Y4/1) | 砂礫・長石 | 良好 | 完形 | (弥・中・I) | 土器片打ち欠き 表、裏ナデ |
| C 3 | A区 | 土層9 | 円板形土製品 | 38.0 | 40.0 | 8.5 | 16.52 | 灰黄灰(10YR6/2) | 細砂・長石・赤・赤 | 良好 | 完形 | (弥・中・II) | 土器片打ち欠き 表ミガキ、裏ハケム |
| C 4 | A区 | 溝2 | 分銅形土製品 | 35.5 | 66.5 | 12.0 | 26.08 | にじみ黄(10YR7/2) | 砂礫・長石・赤・赤 | 良好 | 欠損 | 弥・中・II | 表クガキ沈線文、刺突文 裏ナデ |
| C 5 | F区 | 包含層 | 分銅形土製品 | 42.0 | 35.0 | 10.0 | 15.48 | にじみ黄(10YR7/2) | 細砂・長石・赤・赤 | 良好 | 欠損 | 弥・中 | 表クガキ沈線文、重弧文、刻目 裏ナデ |
| C 6 | G区 | 土層35 | 円板形土製品 | 41.5 | 38.0 | 6.0 | 10.67 | 黒(10YR2/1) | 細砂・長石・赤 | 良好 | 完形 | (弥・中・II) | 土器片打ち欠き 表ミガキ、裏ナデ |

第11表 石器観察表

| 掲載番号 | 地区名 | 遺構・土層名 | 器種 | 計測値(mm) | | | 重量(g) | 石材 | 残存状況 | 時期 | 備考 |
|------|------|--------|--------|---------|-------|------|---------|-----------|-------|----------|--------------------------------|
| | | | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | | | | | |
| S1 | A区 | 土層1 | 石鏃 | 24.0 | 17.8 | 3.8 | 1.04 | サヌカイト | 完形 | 弥・中・II | 凹基式 |
| S2 | A区 | 土層7 | 蛤刃石斧? | 56.5 | 86.0 | 66.0 | 516.35 | 安山岩 | 刃部欠損 | 弥・中・II | 蛤刃石斧から転用あるいは未製品か |
| S3 | A区 | 土層8 | 礫錐 | 102.0 | 36.0 | 45.0 | 167.21 | 砂岩 | 完形 | 弥・中・II | 上端部に敲打痕 錐部に横方向の回転摩擦痕 環状石斧の穿孔用か |
| S4 | A区 | 土層11 | 石錘 | 49.0 | 41.0 | 38.5 | 99.69 | 花崗岩 | 完形 | (弥・中・II) | 敲打による溝状痕 |
| S5 | A区 | 土層17 | 砥石 | 175.0 | 103.5 | 54.0 | 1434.35 | 流紋岩 | 完形 | (弥・中・II) | 部分的に平滑面をもつ |
| S6 | A区 | 土層19 | 蛤刃石斧 | 112.0 | 72.0 | 48.0 | 665.42 | 安山岩 | 刃部欠損 | 弥・中・II | 端部を敲打 再利用か |
| S7 | A区 | 土層20 | 石鏃 | 21.0 | 14.5 | 2.2 | 0.62 | サヌカイト | ほぼ完形 | (弥・中・II) | 凹基式 |
| S8 | A区 | 包含層 | 打製石包丁 | 50.0 | 43.5 | 14.0 | 37.83 | サヌカイト | 両端欠損 | 弥・中 | 珪酸付着 側縁部敲打 |
| S9 | A区 | 包含層 | 磨製石剣 | 33.0 | 26.5 | 6.5 | 8.00 | 粘板岩 | 破片 | 弥・中 | 両面研磨痕跡 再加工 |
| S10 | A区 | 包含層 | 挟入り石器 | 82.0 | 33.0 | 16.0 | 53.02 | 石英安山岩 | 完形 | 弥・中 | 挟部、両先端部敲打、摩擦 |
| S11 | A区 | 包含層 | 分銅形石器 | 43.5 | 24.5 | 7.8 | 12.16 | 流紋岩 | 完形 | 弥・中 | 挟部横方向の摩擦痕 先端部摩擦による面をもつ |
| S12 | A区 | 包含層 | 叩き石 | 106.5 | 108.0 | 63.0 | 938.31 | 流紋岩 | 完形 | 弥・中 | 側縁部敲打 局所的に平滑面をもつ |
| S13 | A区 | 包含層 | 叩き石 | 137.0 | 61.5 | 25.0 | 326.71 | 流紋岩 | 完形 | 弥・中 | 両側縁部敲打痕 |
| S14 | B区 | 土層23 | 石鏃 | 18.0 | 17.0 | 3.0 | 0.82 | サヌカイト | ほぼ完形 | (弥・中・I) | 平基式 |
| S15 | B区 | 柱穴4・5 | 石鏃 | 20.0 | 10.0 | 4.5 | 0.85 | サヌカイト | ほぼ完形 | (弥・中・II) | 凹基式 |
| S16 | C区 | 包含層 | 石鏃 | 38.0 | 19.5 | 5.0 | 3.18 | サヌカイト | 基部欠損 | 弥・中 | 有茎式 |
| S17 | F区 | 土層29 | 砥石 | 114.0 | 119.0 | 74.0 | 1329.32 | 流紋岩 | 完形 | 弥・中・II | 平滑面をもつ |
| S18 | F区 | 包含層 | 石鏃 | 16.0 | 15.0 | 3.0 | 0.69 | サヌカイト | 先端部欠損 | 弥・中 | 平基式 |
| S19 | G区 | 包含層 | スクレイパー | 56.5 | 42.0 | 12.3 | 32.00 | サヌカイト | 両端欠損 | 弥・中 | |
| S20 | H区 | 土層37 | 石鏃 | 30.5 | 12.5 | 4.5 | 1.43 | サヌカイト | 完形 | 弥・中・II | 平基式 |
| S21 | H区 | 土層42 | 石槍 | 67.0 | 28.5 | 10.0 | 25.13 | サヌカイト | 尖頭部欠損 | (弥・中・II) | 珪酸付着 打製石包丁から転用、基部両側縁敲打による刃潰し |
| S22 | I区 | 土層47 | 石鏃 | 25.5 | 17.5 | 3.5 | 1.67 | サヌカイト | ほぼ完形 | 弥・中・II | 平基式 |
| S23 | I区 | 土層47 | 蛤刃石斧 | 119.0 | 68.0 | 50.0 | 534.47 | 安山岩 | 柄部欠損 | 弥・中・II | |
| S24 | I区 | 柱穴6 | 石鏃 | 20.5 | 17.5 | 3.0 | 1.02 | サヌカイト | 先端部欠損 | (弥・中・II) | 凹基式 |
| S25 | I区 | 包含層 | 石鏃 | 20.0 | 11.0 | 2.5 | 0.47 | サヌカイト | ほぼ完形 | 弥・中 | 凹基式 |
| S26 | I区 | 包含層 | 石鏃 | 20.0 | 14.5 | 2.8 | 0.87 | サヌカイト | 基部欠損 | 弥・中 | 平基式 |
| S27 | J区 | 土層51 | 石鏃 | 21.5 | 14.5 | 4.0 | 1.13 | サヌカイト | ほぼ完形 | 弥・中・II | 平基式 |
| S28 | J区 | 包含層 | 石鏃 | 28.5 | 14.0 | 3.0 | 1.10 | サヌカイト | 基部欠損 | 弥・中 | 凹基式 |
| S29 | J区 | 包含層 | スクレイパー | 66.0 | 58.0 | 15.0 | 69.61 | サヌカイト | 両端欠損 | 弥・中 | 端部敲打による潰し 刃部刃こぼれ |
| | A区 | 土層5 | 台石 | 167.0 | 103.0 | 36.0 | 1001.20 | 流紋岩 | 欠損 | 弥・中・II | 一部被熱痕跡 |
| | A区 | 土層19 | 砥石 | 190.0 | 156.5 | 42.0 | 1903.18 | 流紋岩 | 完形 | 弥・中・II | 一部被熱痕跡 部分的に平滑面をもつ |
| | J区 | 壁穴住居3 | 叩き石 | 68.0 | 56.0 | 18.0 | 65.21 | 泥岩ホルンフェルス | 欠損 | 古・前・II | |
| | E~K区 | 包含層 | 砥石 | 44.0 | 25.0 | 30.0 | 34.11 | 流紋岩 | 欠損 | (弥・中) | |

第12表 木器観察表

| 掲載番号 | 地区名 | 遺構・土層名 | 器種 | 計測値(mm) | | | 重量(g) | 樹種 | 木取り | 残存状況 | 時期 | 備考 |
|------|-----|--------|-------|---------|------|------|-------|----|-----|------|--------|------------------|
| | | | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | | | | | | |
| W1 | J区 | 井戸1 | 不明木製品 | 44.0 | 15.0 | 11.5 | 3.42 | — | — | 欠損 | 古・前・II | 側面、先端部面取り 反り部をもつ |

第13表 金属器観察表

| 掲載番号 | 地区名 | 遺構・土層名 | 器種 | 計測値(mm) | | | 重量(g) | 材質 | 残存状況 | 時期 | 備考 |
|------|-----|--------|-----|---------|-----|-----|-------|----|------|--------|----|
| | | | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | | | | | |
| M1 | F区 | 壁穴住居2 | 刀子? | 28.5 | 9.8 | 4.0 | 2.90 | 鉄 | 両端欠損 | 古・前・II | |

第14表 獣骨観察表

| 地区名 | 遺構・土層名 | 時期 | 大分類 | 小分類 | 部位 | LR | 部分 | 成長 | 破損 | 計測値 | 備考 | 色調 |
|-----|--------|---------|-----------|--------|-----|----|------------------|------------|-------------------|----------|---------------|-----|
| A区 | 土壇1 | 弥・中・Ⅱ | 歯生綱 | 目不明 | 椎骨 | M | 完形 | 不明 | なし? | — | 火を受けて黒色に変化 | 黒 |
| A区 | 土壇1 | 弥・中・Ⅱ | 哺乳綱 | ニホンジカ | 角 | ? | 枝角 | 不明 | 先端に擦痕あり、自然か人為的か不明 | — | | 黒 |
| A区 | 土壇1 | 弥・中・Ⅱ | 硬骨魚綱 | コイ科 | 咽頭骨 | ? | エナメル質部 | 不明 | 不明 | — | | 茶褐色 |
| A区 | 土壇5 | 弥・中・Ⅱ | 硬骨魚綱 | アナゴの仲間 | 篩骨 | M | 完形 | 不明 | 不明 | — | ウナギ、アナゴか | 茶褐色 |
| A区 | 土壇5 | 弥・中・Ⅱ | 哺乳綱 | イノシシ類 | 肋骨 | R | 近位端十骨幹部 | f | なし? | — | | 茶褐色 |
| A区 | 土壇5 | 弥・中・Ⅱ | 哺乳綱 | 目不明 | 尾椎 | M | 破片 | 不明 | 不明 | — | ナマズに似る | 茶褐色 |
| A区 | 土壇5 | 弥・中・Ⅱ | 哺乳綱(中～大型) | 目不明 | 不明 | ? | 骨幹部 | 不明 | 不明 | — | | 茶褐色 |
| A区 | 土壇5 | 弥・中・Ⅱ | 哺乳綱(中～大型) | 目不明 | 不明 | ? | 骨端部 | 不明 | 不明 | — | | 白 |
| A区 | 土壇5 | 弥・中・Ⅱ | 哺乳綱(中～大型) | 目不明 | 不明 | ? | 骨幹部 | 不明 | 不明 | — | | 黒 |
| A区 | 土壇5 | 弥・中・Ⅱ | 哺乳綱(中～大型) | 目不明 | 不明 | ? | 骨幹部 | 不明 | 不明 | — | | 白 |
| A区 | 土壇5 | 弥・中・Ⅱ | 哺乳綱 | イノシシ類 | 上腕骨 | L | 骨幹部 | uf | なし? | — | | 白 |
| A区 | 土壇5 | 弥・中・Ⅱ | 哺乳綱 | イノシシ類 | 上腕骨 | R | 骨幹部十遠位部 | uf | 不明 | — | | 白 |
| A区 | 土壇5 | 弥・中・Ⅱ | 哺乳綱 | 目不明 | 不明 | ? | 骨端部 | uf | 不明 | — | 大腿骨L骨幹部遠位部に似る | 白 |
| A区 | 土壇5 | 弥・中・Ⅱ | 哺乳綱(小～中型) | 目不明 | 不明 | ? | 骨幹部 | 不明 | 不明 | — | | 茶褐色 |
| A区 | 土壇16 | 弥・中・Ⅱ | 哺乳綱 | ニホンジカ | 肩甲骨 | L | 骨幹部 | 不明 | cm(D1aタイプ、骨幹部上位) | — | | 黒 |
| A区 | 土壇18 | 弥・中・Ⅱ | 哺乳綱 | 白鹿 | 白鹿 | R | 歯冠部 | 不明 | 萌出終了～萌出途次 | — | | 茶褐色 |
| A区 | 土壇21 | (弥・中・Ⅱ) | 硬骨魚綱 | スズキ | 歯骨 | R | 前位十骨幹部 | 不明 | 不明 | 階層高:9.20 | | 白 |
| A区 | 柱穴3 | 弥・中・Ⅱ | 哺乳綱(中型) | 目不明 | 不明 | ? | 骨幹部 | 不明 | 不明 | — | | 白 |
| E区 | 掘丸上 | (弥・中・Ⅱ) | 哺乳綱 | ニホンジカ | 前頭骨 | R | 角冠十主枝十前頭骨角突起十前頭骨 | [第2枝以上まで成長 | cm(第1枝部基部にすり切り) | | | 茶褐色 |
| J区 | 竪穴住居3 | 古・前・Ⅱ | 哺乳綱(小～中型) | 目不明 | 不明 | ? | 骨幹部 | 不明 | なし? | — | | 白 |

第15表 遺構名称新旧対照表

| 地区名 | 新遺構名 | 旧遺構名 | 地区名 | 新遺構名 | 旧遺構名 | 地区名 | 新遺構名 | 旧遺構名 | 地区名 | 新遺構名 | 旧遺構名 |
|-----|-------|----------|-----|------|----------|-----|------|---------|-----|------|--------|
| F区 | 竪穴住居1 | No.8竪穴住居 | A区 | 土壇13 | No.28土壇 | G区 | 土壇31 | No.4土壇 | I区 | 土壇49 | No.7土壇 |
| F区 | 竪穴住居2 | No.7竪穴住居 | A区 | 土壇14 | No.11土壇 | G区 | 土壇32 | No.5土壇 | I区 | 土壇50 | No.8土壇 |
| J区 | 竪穴住居3 | No.1竪穴住居 | A区 | 土壇15 | No.31土壇 | G区 | 土壇33 | No.6土壇 | J区 | 土壇51 | No.4土壇 |
| K区 | 竪穴住居4 | No.2竪穴住居 | A区 | 土壇16 | No.23土壇 | G区 | 土壇34 | No.3土壇 | J区 | 土壇52 | No.5土壇 |
| K区 | 竪穴住居5 | No.6竪穴住居 | A区 | 土壇17 | No.32土壇 | G区 | 土壇35 | No.2土壇 | J区 | 土壇53 | No.3土壇 |
| J区 | 井戸1 | No.2井戸 | A区 | 土壇18 | No.22土壇 | G区 | 土壇36 | No.1土壇 | J区 | 土壇54 | No.6住居 |
| A区 | 土壇1 | No.6土壇 | A区 | 土壇19 | No.5土壇溜り | H区 | 土壇37 | No.1土壇 | A区 | 溝1 | No.1溝 |
| A区 | 土壇2 | No.34土壇 | A区 | 土壇20 | No.25土壇 | H区 | 土壇38 | No.2土壇 | A区 | 溝2 | No.2溝 |
| A区 | 土壇3 | No.29土壇 | A区 | 土壇21 | No.9土壇 | H区 | 土壇39 | No.6土壇 | F区 | 溝3 | No.1溝 |
| A区 | 土壇4 | No.35土壇 | B区 | 土壇22 | No.3土壇 | H区 | 土壇40 | No.8土壇 | A区 | 柱穴1 | P125 |
| A区 | 土壇5 | No.8土壇 | B区 | 土壇23 | No.2土壇 | H区 | 土壇41 | No.4土壇 | A区 | 柱穴2 | P83 |
| A区 | 土壇6 | No.33土壇 | B区 | 土壇24 | No.5土壇 | H区 | 土壇42 | No.7土壇 | A区 | 柱穴3 | P69 |
| A区 | 土壇7 | No.7土壇 | C区 | 土壇25 | No.5土壇 | H区 | 土壇43 | No.9土壇 | B区 | 柱穴4 | P5 |
| A区 | 土壇8 | No.18土壇 | C区 | 土壇26 | No.2土壇 | H区 | 土壇44 | No.10土壇 | B区 | 柱穴5 | P6 |
| A区 | 土壇9 | No.10土壇 | C区 | 土壇27 | No.3土壇 | I区 | 土壇45 | No.3土壇 | I区 | 柱穴6 | P16 |
| A区 | 土壇10 | No.3土壇 | C区 | 土壇28 | No.1土壇 | I区 | 土壇46 | No.4土壇 | | | |
| A区 | 土壇11 | No.27土壇 | F区 | 土壇29 | No.9土壇 | I区 | 土壇47 | No.2土壇 | | | |
| A区 | 土壇12 | No.26土壇 | F区 | 土壇30 | No.2土壇 | I区 | 土壇48 | No.1土壇 | | | |

1 A～D区
調査前全景
(北西から)



2 E～K区
調査前全景
(北西から)



3 B区完掘状況
(南から)



図版 2



1 C区完掘状況
(南から)



2 D区完掘状況
(南から)

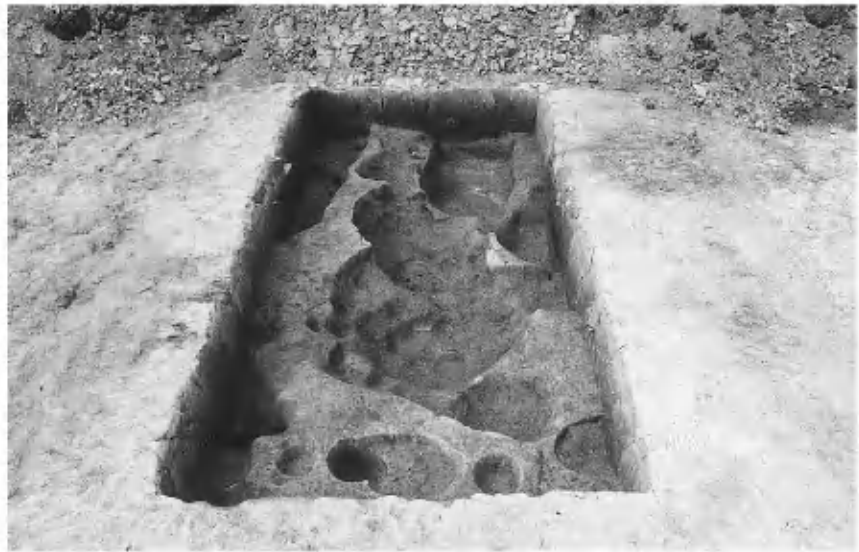


3 F区完掘状況
(南から)

1 G区完掘状況
(南から)



2 H区完掘状況
(南から)



3 I区完掘状況
(南から)



図版 4



1 J区完掘状況
(南から)

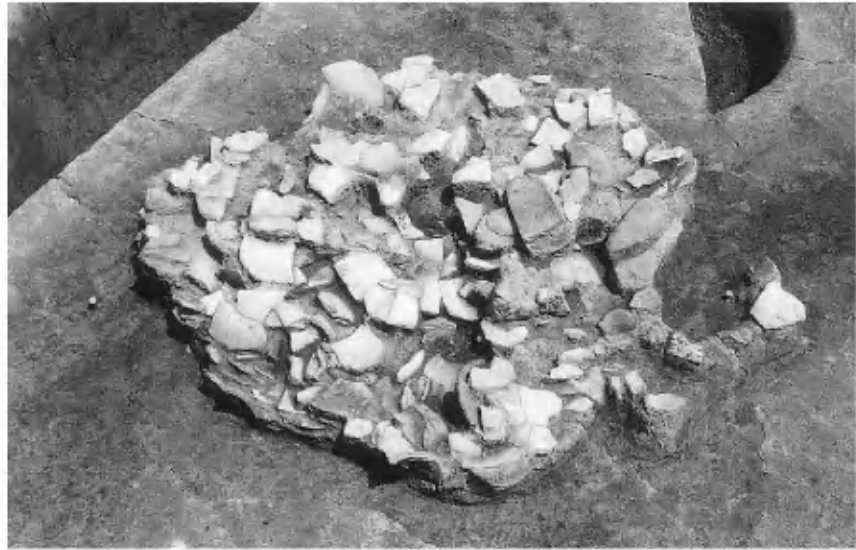


2 K区完掘状況
(南から)



3 土壇 1
(東から)

1 土壙19
土器出土状況
(南から)



2 土壙43・44
(東から)



3 土壙47
(北から)





土壙 4 出土土器



土坑 5 出土土器①

图版 8



土壙 5 出土土器② (31・43・44・50~53)、土壙 16 出土土器① (76・80)

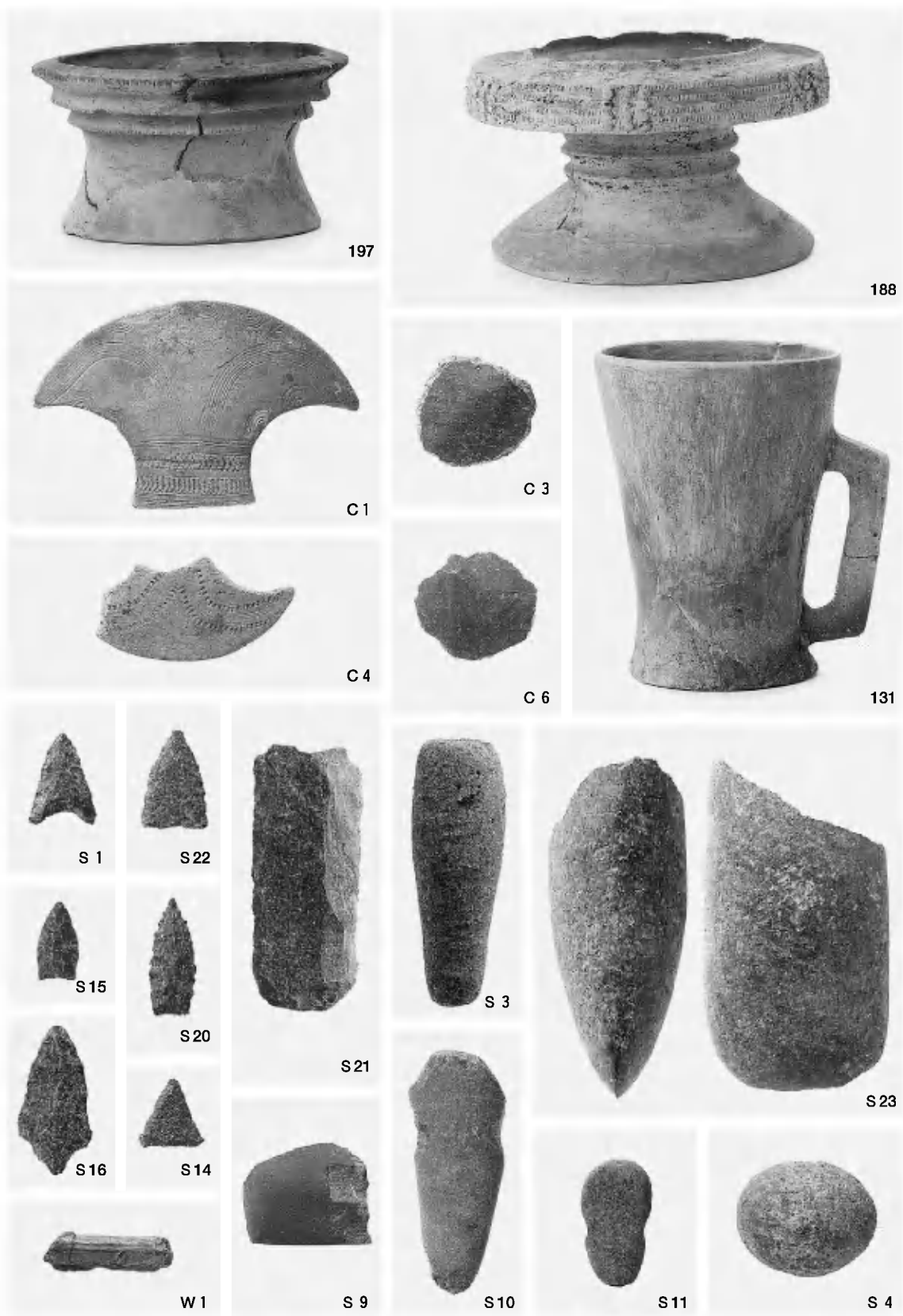


土壙16出土土器②

图版10

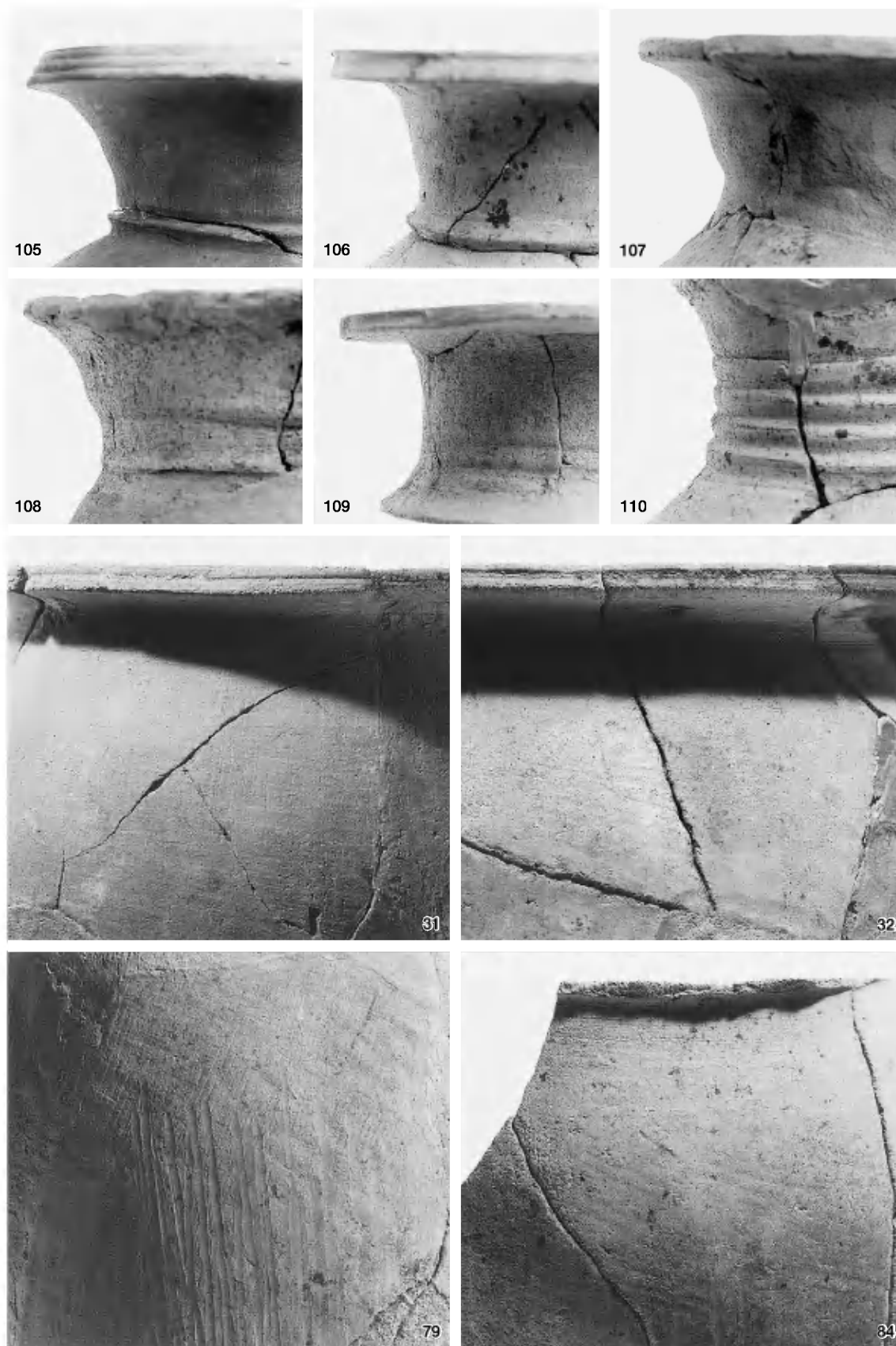


土壙19出土土器



土壙43出土土器 (188)、土壙47出土土器 (197)、柱穴1出土土器 (131)、
出土土製品・石器・木器

図版12



土壙19出土壺頸部 (105~110)、土壙5・16出土甕タタキ技法 (31・32・79・84)

報告書抄録

| | | | | | | | | |
|------------------|--|-------|------------------|---------------------------------|--------------------|------------------------|-------------|----------------------------------|
| ふりがな | みなみがたいせき | | | | | | | |
| 書名 | 南方遺跡 | | | | | | | |
| 副書名 | 岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館等整備事業に伴う発掘調査 | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 196 | | | | | | | |
| 編著者名 | 澤山孝之 平井奈男 | | | | | | | |
| 編集機関 | 岡山県古代古備文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒701-0136 岡山県岡山市西花尻1325-3 TEL 086-293-3211 | | | | | | | |
| 発行機関 | 岡山県教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒700-8570 岡山県岡山市内山下2-4-6 TEL 086-224-2111 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2006年2月28日 | | | | | | | |
| ふりがな | ふりがな | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 (㎡) | 調査原因 |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 市町村 | 遺跡番号 | ° ′ ″ | ° ′ ″ | | | |
| みなみがたいせき 南方遺跡 | おかやまけんおかやまし 岡山県岡山市 みなみがたいせき 南方2丁目 13-1 | 33201 | 1499 | 34° 40′ 24″ | 133° 55′ 24″ | 2004.5.6 ～2004.6.30 | 190㎡ | 岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館等整備事業に伴う発掘調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | | |
| 南方遺跡 | 集落 | 弥生時代 | 竪穴住居 土壇 溝 | 弥生土器 土製品 石器 獣骨 炭化穀物 | 中期中葉土器が多数出土 | | | |
| | | 古墳時代 | 竪穴住居 井戸 土壇 | 土師器 須恵器 石器 木器 金属器 | | | | |
| | 水田 | 古代～近世 | 水田 | 土師器 須恵器 | | | | |

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 196

南方遺跡

岡山県総合福祉・ボランティア・NPO
会館等整備事業に伴う発掘調査

平成18年2月28日 印刷

平成18年2月28日 発行

編集 岡山県古代吉備文化財センター
岡山市西花尻1325-3

発行 岡山県教育委員会
岡山市内山下2-4-6

印刷 サンコー印刷株式会社
総社市真壁871-2



本文用紙は古紙配合率100%の再生紙を使用しています